PERFORMANCE OF WAR

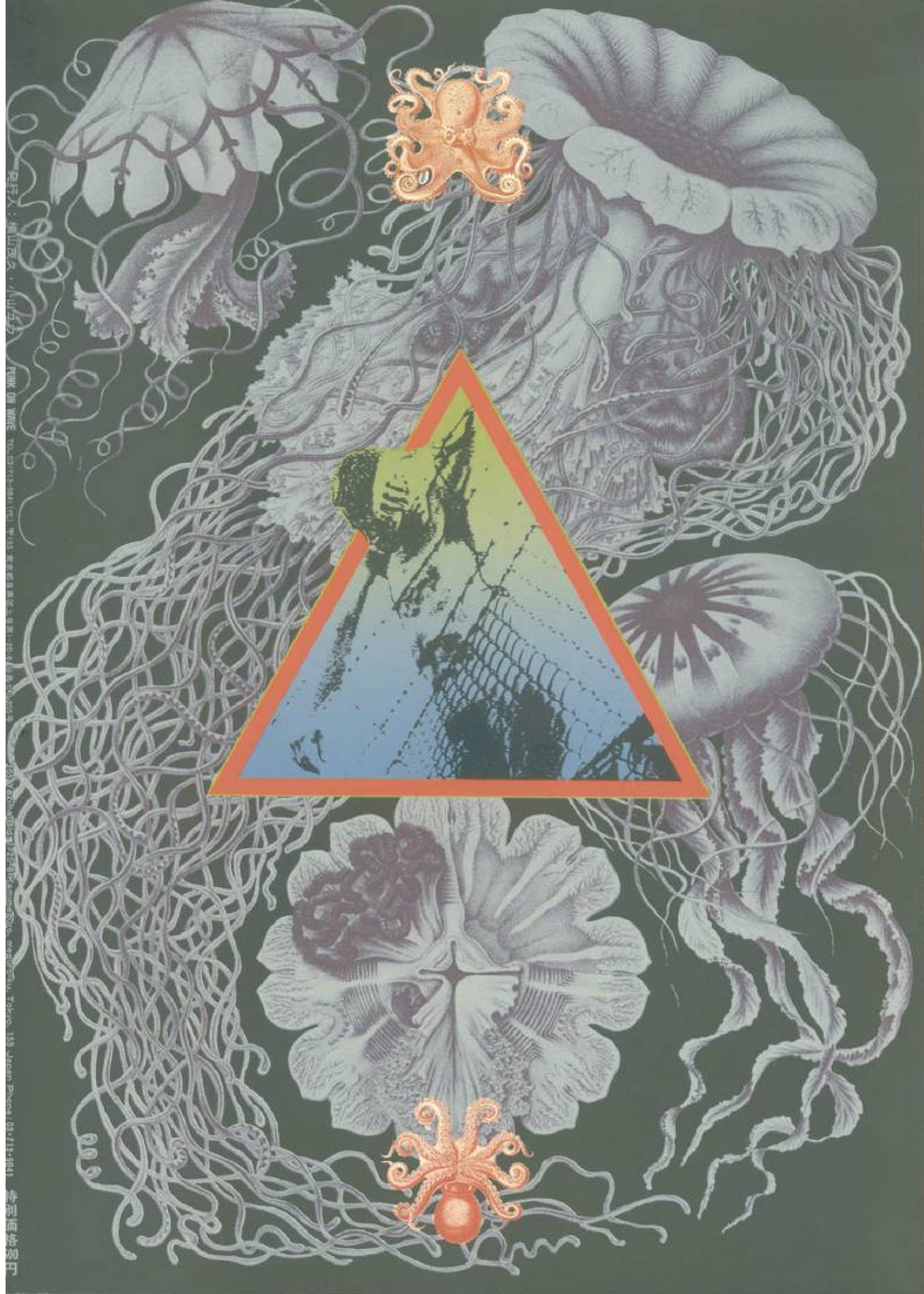
DEATH INTERVIEW: P.L.O. JAPAN ARMY, MENTAL HOSPITAL, *PREPARE FOR DEATH:* DEATH PENALTY MURDER, SUICIDE, FUNERAL, *DEATH INFORMATION:* HOW TO KILL,

SPECIAL EDITION

SAKEVI & JOHN DUNCAN



D E A T H


発行人：
PUNK ON WAVE
Tokyo
Japan
特別価格



じゃない…う。病気じゃないから「火傷は外因死だから東京都内は監察医制度があるから変死の届けを出して監察医の診断書をもらってこないと、医者の診断書は通用しませんよ」と返されちゃった。家族は素人だからわけがわからないんで病院にもどってきて「先生、この診断書通用しませんよ」といわれて医者は[illegible]て変死の届けをしなければいけないと…。そこで変死届けが警察に提出され調査したら、医務院に電話がかかってきて「検証に来てください」というんで仲間のひとりが行ったわけね。そして警察官と一緒に現地でその子の包帯をはどいて検証したところ、背中に丸い火傷があった。そこで監察医はなんといったかというと

「警察の調べた状況と死体所見が違うよ」といったわけ。—そうでしょ？ 熱湯のやかんがひっくりかえったらお湯は不整形に散るじゃない。にも関らず「背中の火傷は丸いじゃないか」と…。で「これはおかしいよ、もう一回調べてくれよ」となったんだけど聞ったところが、この女の子は知恵遅れでダウン症候群という病気で先天的な白痴なんですよね。だから早目に、お互いの幸せの為に死んでもらったほうがいいという判断で、お母さんが過失をよそおって熱湯をぶっかけたんだということがわかったわけです…。

Qここに来る死体のいくつかが今の話のように深刻な問題を抱えている…

A僕らは風邪ひけば内科のお医者さんへいくでしょう？ ケガすれば外科のお医者へいくでしょう。同じように「死んだ場合は法医学者へ見てもらいなさい」と、そういってるんですよ。法医学者あるいは監察医に見てもらいなさいと…。だって「死んだ人と会話ができる」んだから、僕らは。だって今の話の中で先生はだまされてるんだよ。お母さんに。だけど僕らはだまされないよ。死んだ人と会話できるんだもん。その赤ちゃんは「お母さんに熱湯かけて殺された」っていってるんだ。

Qすべての死体、すべての死は一度法医学の手によって…

A死者との対話のできる人に見てもらったほうが人権が十分に擁護されると。

Q日常執刀をしていてですね。死体というのはもう物体になってしまっているという部分で「生命の神秘」みたいなものすごく感じるということがあると思うんですけど。

Aやる場合は本当に科学的に客観的に眺めるというかね、じゃないと死者と対話できないから。感情に溺れたりするといけないからそういう感覚を排除しながらやっているわけですよね。

〈中略〉

Qこないだ聞いた時に**1日15～18**体の死体を検証するということで「休みもないし日曜祭日もやっている」といわれた時、僕自身意外だったんですけど。

Aあの、東京都内の**14～15**％ですか、7人に1人ですか、そのぐらいをここで検証しています。59年度でね、東京23区だと**4万6千人**死んでいるんですよ。で外因死でウチに届け出があったものだけでも**6677人**…、そのうち**2200人**の解剖はやっている。平均すると、365日だから18。**一日18体**ということになりますか。それでね、話変わっちゃうんだけど「脳死の問題」で…、日本人の感覚とアメリカ人の考え方、まるで違うのね。僕は法医学会の脳死に関しての委員になっているんだけど、—「脳死をどう考えるか」って会がありましてね。

Q日本人の考え方でいうと「他人の臓器を中に入れてしまう」—あまり許容されていない。

A今までの一般的な考え方というと「死の三徴候説」っていうのがあって「肺・心臓・脳」の3つの機能が止まったところで死になるわけ。これ、一緒に止まれば**即死**ですよね。「高い所から飛び降りて一瞬に死ぬ」とか…。脳の機能が停止し肺が少し動いて最後に心臓が止まったところで死に至るわけ。この3つが停止しないと死とはいわないから。そうすると**死は常に瞬間**なんですね。この死亡診断書でも死亡の時刻は何時何分で終るわけ。すると何時何分の瞬間の前は生なんですよね。死亡時間が記入されたあとは死なんです。こういう判断で死の三徴候説は一般的な考え方だった。でも「細胞のレベル」ではまだ生きてんのね。ヒゲが伸びたり爪が生えたりしたっておかしくないのね。半日や1日くらい、人間の身体の血液の栄養分をとって細胞は生きてる。だけどこの3つの機能が停止したときは「死んだ」といっても誰も異論はないわけですよ。だけど家族は「まだ体温がありますよ—先生、治療を続けてください」といわれればね、医学のレベルでは死んでいても強心剤かなにか注射してね、なぐさめてすよね。ところがこの臓器移植の考え方は、脳死の状態に入るとこの人は脳にダメージを受けちゃったんだから肺や心臓が動いても「この人は絶対生の方向へUターンしない」絶対に死の方向へいっちゃうんだと…脳死の状態に入ったときを死のはじまりと考えるわけ。そして呼吸が停止、心臓が停止するまで人工呼吸器をとりつけ、強心剤を注射しながら脳の機構はもう回復不能でも機械の力で10日位は生きられるっていうんだよね。「脳死＝死」ではなくて「死にはこれだけの幅があるよ」ってわけよ。でも呼吸器のセットを止め強心剤の注射をやめればいつでもこの人は死んじゃうよ。で…その幅のある間にね、死を宣告して「臓器移植をしたらどうなのか」というのが脳死の考え方ですね。アメリカの人達は「それでいい」という人達が多いんですよね。日本は「まだ心臓と肺は動いている。機械的にでも動かしているんだから死んではいない」と考えるわけ。

Q生きた心臓を移植するのだから、死体の提供者ですよね—に脳死ということでの宣言をする…

A納得してもらう…

Q日本の場合だと難かしいんですよね。宗教観なんかからんできて

Aアメリカの人達はわりと死の中で肉体的な死というものを非常に割り切って考えてるんじゃーないですか。ある本によ

ると脳の移植っていうのはね、次の段階で私は電車から降りますよ、立ってる人に「ね」と一言いいましたがおかけください」ということと同じだと。どうせもう死んじゃうんだから「死ぬんだったら、ただこの自分の臓器を生きる人が使ってください」と、つまりサービスなんですよね。そういうプランなある考え方―ひとつの考え方だと思いますよ。

Q具体的に日本の場合でいいますと、脳死の状態で「臓器提供の承諾」を受けていないと家族の了解みたいなものが大きくものをしてきますよね

A腎臓と角膜だけですよ。心臓はまだないだよ

Qアメリカもそうなんですか?

Aいやアメリカはいいんですよ。こういうのはされていますよ、合法で。

Qあと聞きたいのは「安楽死」についてなんですけど…これはどういう経過なんですか?

A安楽死の最後の条件というのは名古屋高裁で示されたの。内容はまず、「不治の病で死が目前に迫っている」と―二人以上の医師の診断が必要である「見るにしのびない苦痛があること」―これは冷静な医師の診断が必要である「病人の苦しみの緩和が唯一の目的であること」だから麻薬とか睡眠剤の使用…病人が意思を表明できる時はその誠実な依頼があること、苦痛を逃れるための一時的な逃避であってはならないこと「家族の利害関係なども考慮することがある」と、「原則として医師の手によること」「方法が倫理的でもあること」―この6つの条件を満たせばユーサナジーとして認めるというんだよね。結局この根本的精神は何かというと「苦痛のない、ゆっくりした死を傍観する」よりは安楽に「死を与えてあげるほうがいいんじゃないか」ということ。これは判例として名古屋高等裁判所の出した条件なんですけれど、これに合致したことで死んだ人で無罪になった人はいないんですよ

Q要するに一般的にまだ安楽死は認められていない―ということですね。これはものすごく大きな問題で、医者が死の手伝いをするという―ある意味では殺人ということですね

Aそうそうそうですよ。医者は、1日でも寿命を長くさせるためにいるわけでそれを短くするために治療方針を切り換えるというのはまぁ、殺人になっちゃうんだよね

Q基本的には安楽死というものに関しては先生は特に何かやってらっしゃるとか?

Aいや、特にやってないんですよね。これも脳死と同じようにね、自分がそうい場だったら「殺してくれ」というよね。だけど殺してくれないでしょう。自分がこの立場になればね、「早く楽にしてくれ」と思うんですよ。だけど医者が頼まれた立場になればね、その人に「早く安楽死させてくれ」と頼まれてもやれないですよね。こういう矛盾があるじゃない、これ

Q現実に、直接死体を扱うという立場として安楽死もしくは脳死の問題を個人的にどう扱っていくべきか、というのを聞きたいんですけど…

Aさっきと同じようにね、その立場になれば賛成するけども頼まれる側だとそれはないという矛盾が自分の中にある。脳死だって、自分がそうなったら―心臓でも肺でも使ってくれという気持ちはありますよ。だけど逆に家族から脳死だから心臓をやって治療を進めてくれと―「そうですか」と心臓切り取れるかというとそうもいかないんだよね。そういう、両背を持っている問題だと思うんですよ。

Q我々のような一般の人間には難かしすぎるというか…

Aこういう安楽死にしろ脳死の問題にしろ専門家や医者だけが決める問題じゃないと思う。

Q脳死に関して進展みたいなものは?

Aこのところですか。「臓器移植の場合に限って立法化したほうがいいんじゃないか」という動きはありますね。どの人も脳死という判断をしないで家族に脳死を言い出して「臓器移植―」っておねがいしたい人がいるので、もう脳死になってるかな手術に入っていいかと家族が全部納得した場合にだけ、法律で擁護して、この場合脳死を認めて文句がない、やっていいということで法律を作ってる―他の場合は認めない。こういう特別立法でないと日本の場合は難かしいんじゃないかっていうのが多いんじゃないですか。流れとしては…

Q現在アメリカではリベラルに死を認めている。臓器移植に関してもかなり本格な立場で…って、せっかく政治に困った人がアメリカに行って臓器をもらうことによって移植をやるということが現実に起こっているんですね

Aそりゃおかしいんじゃないですか。売りに行くんだよね、臓器移植に…

Qそう思いますか

Aたいへんなことですよね。そういうことです。

Q今日は本当に長い間どうもありがとうございました

安楽死 Euthanasia 許容の6条件

1. 不治の病で死が目前に迫っていること
   (2人以上の医師の診断が必要)
2. 見るに忍びないほどの苦痛があること
   (冷静な医師の観察が必要)
3. 病人の苦しみの緩和が唯一の目的であること
   (麻薬、眠剤などの使用)
4. 病人が意思を表明できるときは、その真剣な依頼があること
   (苦痛からのがれるための一時的逃避ではないか
   家族の利害関係なども考慮する必要がある)
5. 原則として医師の手によること
6. 方法が倫理的にも妥当であること
   (絞死、青酸カリなど不可)

苦痛の多い、ゆっくりした死を傍観するよりは、苦痛の少ない速やかな死におきかえてやる方が、より人道的ではないか。このような場合、違法性は否定されるべきであるという考え方が安楽死である。

PREPARE FOR DEATH プリペアフォーデス

死刑

死と生の決定的な別れ目―死刑という儀式

● 死刑囚とは一体何者なのか？

死刑囚とはいったいどんな人間なのか？死をもうにふさわしき極悪非道、冷酷無比な人間なのだろうか。それともたまたま偶然に犯行を犯したごく普通の人間なのだろうか。

死刑存置論や廃止論を是か非かと問う前に我々がよく陥りやすい刑罰論、観念論やヒューマニズムだけの独走を慎まねばなるまい。ともかく頭をクリアにしなければいけない：死刑囚の実態というものをまず客観的につかむ必要がある。死刑を定義すれば、**殺人と量刑の極限的な接点**といえるであろう。殺人を犯した者がすべて死刑に処せられるわけではない。かってカントは、「**人を殺した者は死ななければならない**」といったが、これは百年以上前の刑罰論である。死刑―この極刑が過去には数限となく行われてきたであろうが、現在、実際は殺人を犯した者はほとんど死刑になっていない。ほとんどは懲役刑で罪の清算を完了さえすれば第二の人生に踏みだせる。殺人者の社会復帰である。だが死刑は今でも刑法の中に認められている。死刑がもはやなくなったのではないかと思っている人もいるかもしれないが、けして消滅してはいない。ただ滅多に行われなくなっただけのことなのだ。さて、**死刑は刑罰の中でも特殊なもの**である。**死刑と無期懲役は紙一重**のようにみえてそうではない。**生と死の別れ目**であり決定的に違うのだ。殺人が死刑になるのは、その犯罪に対して裁判官が最高の量刑である死刑を下した場合のみなのだ。審判の死刑が罪なき者への不当な処刑であれば、死刑と無期の量刑の差も、場合によっては一種の誤判といえるだろう。

■殺人と死刑のバロメーター

現在、刑法で死刑が最高刑に定められている犯罪は次のものである。

①**内乱罪の首魁**（刑法77条1項1号）
②**外患誘致罪**（同81条）
③**外患援助罪**（同83条）
④**現住建造物放火罪**（同108条）
⑤**激発物破裂罪**（同117条）
⑥**建造物浸害罪**（同119条）
⑦**列車転覆致死罪**（同126条3項）
⑧**往来危険列車転覆致死罪**（同127条）
⑨**毒物混入致死罪**（同146条）
⑩**殺人罪**（同199条）
⑪**尊属殺人罪**（同200条）
⑫**強盗殺人罪**（同240条）
⑬**強盗強姦致死罪**（同241条）
（日本死刑白書・前坂俊之・三一書房）

以上の13の罪が刑法では死刑が定められている。このほか特別法で**航空機墜落致死**、**航空機強取等致死**、**人質殺害**なども、死刑に定められているという。前半の罪名はあまり聞き慣れぬものであるし、死刑判決の範囲内に入るのが意外な気もするが（資料が古いせいかもしれないが）後半の罪名は我々もTVニュースなどでみかけるもので、また死刑の範囲内に入ることもうなずける（とはいえ国内でこう数々死刑が実行されたという話を聞いたことはないが）。さらに資料によると、戦後の死刑囚の罪名は圧倒的に**強盗殺人**が多かったようで、次に数はぐっと減って**殺人**、**強盗強姦致死**が続き、**尊属殺人**、**現住建造物放火**などはほんのわずかである。**内乱**、**外患罪**は刑法には定められているものの該当事件はまだ起きていない。戦後、死刑を執行された者は強盗殺人、殺人、強姦致死罪の三つがほとんどを占めていたということである。だが最終的に死刑を執行された人間は何人いるだろうか。年々、その数は急速に減ってきているといえる。（特に戦後）刑罰の中でも死刑がいかに例外的な措置に変わったかの証明である。一般的に、死刑存置論には〈極端に、乱暴に述べるならば〉殺人を犯したのだから、死刑は当然だという昔ながらの応報的な考え方の持ち主も多いが、日本の刑罰はすでに**応報**から、**社会復帰の為の教育刑**に移行しているのである。死刑廃止にはなっていないが、あまりこの量刑をくださないことで内部的に漸次、廃止の方向に向かっているのは事実ではないだろうか。（先日、某TV局の深夜の報道番組で、アメリカの各州で死刑の廃止、及び執行に歯止めがかかってきた結果、刑務所の囚人が非常に増加し収容しきれずに囚人でパンクしそうになっているという現象のため各州知事や**ホワイトハウス**まで頭を悩ませている、という数年前なら風刺漫画のブラック・ジョークのネタになりそうなとんだハプニングを紹介していた。ヒューマニズムと人命の尊厳うんぬんを看板に立てた世論というやつに妥協した結果の死刑廃止の処置が、こんな**皮肉な現象**を生みだすのだから。アメリカの人口の何分の一を犯罪者が占めてしまう日も、これではけして遠い先のことではないかもしれないじゃないか。）

■死刑囚の分析

戦後の一九四五年から七八年までに死刑執行になった人間は計五八八人だそうである。この人達の量刑の基準になった**年齢**、**経歴**、**環境**、犯行の**動機**はどうであったか、量刑どうりに凶悪無比であったのか？古いデーターで制約はあるものの、それからの資料を使って死刑囚の**マクロの実態**に迫る必要はありそうだ。

〈傾向〉

「死刑囚の多くは思いつめると短絡的に殺人を犯したりする。盗みに入って発見された恐怖から、無茶苦茶に相手を絞殺したり刺殺する。自分の恐怖心を抑制できないのである。犯罪のプロはその辺を心得ていて相手を絶対に傷つけたりしない」
（日本死刑白書・前坂俊之・三一書房）

〈学歴〉

無学（小学中退含む）	**35人**	（[illegible]）
小学（高小含む）	**206人**	（[illegible]）
中学（新制、中退、卒業）	**32人**	（[illegible]）
専門（旧制中、新制高中退、卒業者）	**27人**	（[illegible]）

昭和二〇年から三〇年代という教育制度の変換期にあたり、中退者を含めて分析は難しいがこの資料では、あえて無学、小学、中学、専門の四つに分類している。多少古いデーターではあれ興味深いものではある。

〈職業〉

学歴の低さは当然のこととして、職業選択にも[illegible]ってくる。この資料では無職の比率が著しく高い。階級社会（[illegible]）という背景の中で、**矛盾や搾取が一番集約される学歴層に圧倒的に死刑囚が多い**ことがわかるのだ。無職は一九〇人で全体の51%であり2人に1人は無職ということになる。社会的矛盾が集中的に吹きだしている証拠でもある。一方、有職者の割合は全体の49%であり以下のような職種の順になっている。

土木作業員	**65人**	（[illegible]）
農林業	**32人**	（[illegible]）
商業	**27人**	（[illegible]）
工員、職人	**23人**	（[illegible]）
ブローカー	**6人**	（[illegible]）
自由業	**4人**	（[illegible]）

職業の内容と死刑の因果は統計的な意味で無職が半数以上いるという点であり、それ以外の職業と死刑囚とを短絡的に結びつけるのは無意味かもしれない。

〈動機〉

では動機に移ろう。これもやや古いデーターではあるが、統計五[illegible]人の犯行の



動機は――

利欲　204人（四〇％）

利欲怨恨　13人（二・五％）

怨恨　9人（一・八％）

犯行をまぬがれる為　15人（三・〇％）

この統計では計画的な犯罪が多いのも、もちろんだが、段階的、偶発的なケースも無視できないことを忘れてはならない。

死刑存置論の最大の根拠は、死刑という見せしめによって犯罪を防止しようとする点にある。**死刑による威嚇力**が犯罪防止の歯止めになるというわけだ。ところがこの点はほとんど効果がないとすればもはや死刑存置の理由は吹き飛ぶか、大きく後退せざるをえないのだ。犯行前か犯行中にこの殺人が死刑になるかどうかを考えた者などはとんといなかった。いや、皆無といってもよいのではないのだろうか。彼らが死刑の存在を知らぬわけではないだろうが、犯罪者として殺人を企図した時点で、その人間の**論理意識**などどこかへケシ飛んでしまっているにちがいないからだ。もはや恐れるものは何も無いのだ。その**瞬間**だけは……。

■死刑囚の中には少なからず大量殺人者の名前がある。戦後から古い順に挙げれば、**小平義雄**（10人殺し）、**大久保清**（8人殺し）、**栗田源蔵**（8人殺し）、**古谷惣吉**（10人殺し）らである。死刑存置論者が最後に存続の理由を持ち出すのが、これらの残虐きわまる手口による大量殺人である。確かにその犯行の幽冥とされた残酷さは、死刑廃止論者を躊躇させ、その信念を揺らせる。さて、この大量殺人犯の中でも時代的に最も近い例として**警視庁指定一〇五号事件の犯人・古谷**の例を挙げてみる。一人暮らしの廃品回収業者ばかりを狙って、連続八人を殺害した。一九六八年（昭和四十三年）の一月に死刑が確定した。検察官は論告で「**本件は昭和刑事犯罪史上、まことに極悪非道無類の刑事被告事件であります**」と古谷を決めつけた。第一審の判決では「日本の犯罪史上かつてない凶悪事件」と折り紙がつけられた（資料「日本死刑白書」前坂俊之）をもとに古谷の犯行の跡をたどってみたい。

一九六八年（昭和四十三年）一月一日、福岡県田川郡香春町で炭鉱労務者（五十四歳）が刃物で心臓をひと突きに刺され殺された。現場に残されたズボンから木賃宿の住人が浮かんだ。この木賃宿の住人の行方を追って福岡県警が神戸市東灘区の畑の小屋に急行すると、この男はテントの中で首に赤いヒモを巻かれすでにミイラ化していた。その少し前の一月九日に大津市瀬田町の海水浴場の管理者をしていた老人が（五九歳）タオルで首を絞められて殺された。警察はひとり暮らしの老人ばかり狙う同一犯とみて、一月九日にこの一連の事件を広域重要一〇五号事件に指定、犯人検挙に全力をあげた。一月後に京都市内で廃品回収業者が二人相次いで殺された。一人は京都市伏見区下鳥羽の河原テントの中で六〇歳の老人がマフラーで首を絞められ殺されていた。さらにそこから八百メートル離れた宇治川橋下のバラックでも六六歳の老人が電気コードで首を絞められ殺されていた。翌日、**指紋からあっさりと古谷が割れた**。その夜、兵庫県西宮市大浜町の海岸で、古谷は一人の廃品回収業者を殺したところをパトロールにきた警官に発見され捕まったのである。獄中の古谷がどうだったのか、確かに犯罪の重大性はともかくとして彼を犯行へと駆りたてたものは何だったのか……そこに死刑囚の心理が少しでも分かるかもしれないと思われるので、さらにその後の彼について引用してみたい（『日本死刑白書』前坂俊之）。

――古谷はどんな人間ですか

「両親でも手のつけられぬ悪ガキで、みんな恐れていましたね。とにかく言葉が乱暴で恐ろしいのには驚きました」（以下略）

――犯行の動機で心当たりはないですか

「本人が話してましたが、小学校の時に実**母が死んだらしいですね**。その後は継母と入って来た継母に育てられた。そこでひどい**継子いじめ**にあって、飯も十分食べさせてもらえなかったようです。継母が畑仕事に行ってる間おとつぁんも子供の手の届かない高い所に置いておく。で、物に飢えから盗みを始めたそうです。[illegible]妹と二人で必死になって飯を漁ったが、継母が帰ってくるとひどく叱られる。古谷は家に帰らず、妹と二人で山にある近村の寺の前で遊んだりして過ごすことが多かったようです。夜も農家のワラ小屋に潜って寝泊りしたり、家に帰らなかった。近くの畑のスイカを取ったり、農家に盗みに入ってサツマイモを取って食べたりして飢えをしのいだ。学校はまともに行っていない。**この小さい時の大人に対する不信と怨りが彼のその後の軌跡を決定したと思います**」

子供の時に肉親や大人の愛情を十分に受けなかった。この愛情の欠落が**人間的な感情の発達化**を阻んだのであろうか。飢えた心の傷を古谷は半世紀、大人への憎しみと復しゅうを実行したといっても過言ではない。さらに引用を続ける。

――体格は大きい方なんですか

「昔は一六五センチほどですかね。背は大きい方でしょう。今は老人ですが体力は意外に優れている。昔は腕もガッチリして相撲でもとらせたら**スポーツでもやらせれば優れた人間になったでしょう**」

――中ではどんなふうに過ごしているんでしょうね

「閉じこめられた場所ですからね。**動物が非常に好きでね**。スズメやハトが以前によく。彼は飯の残りやパンクズをエサにやって、自分の好きなハトには名前をつけて呼んでいますが嫌いなハトとは区別しています。クモもこわがりませんね。自分は横になって腹や人目をはわせて遊ぶんだそうです」（以下略）

――死刑についての感情はどうですか

「死の恐怖はほとんどないようですね。日常生活を結構楽しんでおりますね（中略）。人を殺したという罪の意識はまるで無いですね。悲しむ心はもちろんない。戦後の混乱期に育ったせいか子供の時の不幸、学校での愛情の欠乏した人格が原因ですね」ただ古谷は、**自分は幸運な人間だから、いつかは助かる**ということを何度も口にしています。**死刑になるとは思っていない**ようです。助かるんだとかたくなに信じていますよ」

――死刑囚の一般的な性格なり特徴はどういうところにありますか

「死刑囚には**単純**な人が多いようですね。**忍耐**したり**自制**するということができない。かっとなると短絡してすぐ行動に走る。窃**盗や詐欺はとヒネクれていない**ので殺人は逆にやりやすいですかね。弱さがあって、それをうまく抑えられなかった。犯罪にする芽は誰でも持っているので、**違いはうまく抑えて出さなかったかどうかの問題**ですね」（以下略）

死刑囚の孤独と苦悩の一端がうかがえるではないか。現状ではほとんどわれわれなくなってしまった死刑の現在、資料的にどうしても避けられないものとなってしまうが、だいたい死刑囚の心理はこんなものであろうと思われる。また、わが国で死刑を存続させないとした最高裁の判決や死刑の存置論の一つの柱になっているのは、世論調査では依然として「死刑はやむをえない」という意見が多いことが根拠になっている。しかし国民一人一人や世論調査に回答した人々はカミュの父親と同じく、死刑の実態について全く知らない。ただ**カミュの父親**がギロチンの執行シーンをまのあたりにみてその残酷さに嘔吐したのに対して、わが国では**厳重な密行主義**の中で死刑の実態が人々に一切隠されているだけの違いなのである。「**誰もこの儀式についてあからさまに物語ろうとしない**」ともカミュは指摘したが、確かにそのとおりである。カミュの父親のようにすべてを見た上で、死刑存置か廃止かを論じなければならない。そのためにはこの国家のあらゆる機構のなかで、**一番原始的で血塗られた蛮行**の正体をじっくり検討する必要がある。

●死刑執行まで…運命の日・死への道程

ここでまず具体的な死刑執行までの若干の流れを以下に詳細に触れてみたい。古谷の例をとして、一、二審で死刑の判決をうける。そして**上告棄却**となると、ここに死刑が確定する。この日から彼らは**死刑確定囚**の運命が決定する。もはや逃げることのできない死刑への道しか始まる。**再審開始などの例外**がない限り、死と背中合わせの生に直面する日はない。死刑執行日～運命の日をむかえての囚人達はどんな気分で待ったのだろう。少くとも我々の知りうるのは**フィクション（映画・小説）**の中のイメージでありリアルではない。死刑囚にならない限りは、その心情はわからないだろう。そんな物好きがひとりいてもいいかもしれない。小説のように冷たい壁に身をもたせかけて、ともかく、死刑の確定した後、実働が一年かかかわからない。ただ死刑確定囚は死刑執行という刑罰を受けるためのみに拘置所で生かされているのである。彼らのことを**生きている死者**と表現した人もいた。さてここから執行までの具体的段階の説明になる。**死刑確定囚の動静を毎日観察**している拘置所から、死刑の上申書が法務省刑事局に届く。すると同刑事局の局付検事一数人が、「**最後の審判**」を開始する。死刑確定囚の**公判記録**、**公判未提出記録**などいっさいを取りよせて、囚人の在監中の記録などが手入れしているるか、恩赦や再審の余地はないか――ひとつひとつ丹念にチェックしていく。その上で検事は**死刑執行起案書を書く**。**出来上がった死刑執行起案書は幹部審議を通して法務大臣のところに寄せられる**。**大臣がこれに判を押せば**、**死刑確定囚の命は万事休すである**。あとは時間の問題になるが、手続き上は五日以内に、拘置所内に、死刑確定囚が執行に耐えられるかどうかを確認する。**心神喪失**や、**女子で懐胎している場合**などは除いて、これらがないことが確認されると、死刑確定囚の運命は不動になる。

「……に対する死刑執行の件は裁判官言い渡しのとおり執行せよ。法務大臣」

この死刑執行命令書に法務大臣が**サイン**をすれば、執行は**五日以内**に行わなければならない。こうして執行の現場である拘置所にすべてが移される。

■死の陰

死刑についての法律的な規定をまず見ておこう。刑は、刑事訴訟法、監獄法にそれぞれ規定はあるが、さして多くはない。逆に刑罰の中で最も重い命を奪う刑罰の刑としてはあまりに概略的であるのに驚くほどである。

「日本死刑白書」（前坂俊之・三一書房より引用）

刑法第十一条

１死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス

２死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマデ之ヲ監獄ニ拘置ス

刑事訴訟法第四百七十五条には執行に関して次のように規定している。

１死刑の執行は法務大臣の命令による

２前項の命令は判決確定の日から六箇月以内にこれをしなければならない。但し上訴権回復もしくは再審の請求、非常上告又は恩赦の出願もしくは申出がされその手続きが終了するまでの期間及び、共同被告人であった者に対する判決が確定するまでの期間、これをその期間に算入しない。

同四百七十六条

法務大臣が死刑の執行を命じた時は五日以内にその執行をしなければならない。

同四百七十七条

１死刑は検察官、検察事務官、及び監獄の長又はその代理人の立会の上、これを執行しなければならない。

２検察官又は監獄の長の許可を受けた者でなければ、刑場に入ることができない。

監獄法第七十一条の死刑執行について—

１死刑執行ハ監獄内ノ刑場ニ於テ之ヲ為ス

２大祭祝日、一月一日、二日、及十二月三十一日ニハ死刑ヲ執行セズ。

同第七十二条の「死刑執行後の解綱」には—

死刑ヲ執行スルトキハ絞首ノ後、死相ヲ検シ仍ホ五分時ヲ経ルニ非ザレバ、絞首ノ縄ヲ解クコトヲ得ズ。

刑事訴訟法第四百七十八条

死刑の執行に立ち会った検察事務官は執行始末書を作り、検察官及び監獄の長又はその代理者と共に、これを署名押印しなければならない。

大政官達第六十五号（明治六年二月）によれば、さらに詳細な執行方法を定めている「凡そ絞刑を行ふには先づ両手を背に縛し紙にて面を掩ひ、引いて絞架に登せ、踏板上に立しめ、次に首を縊し次に機車の柄を引けば踏板忽ち開落して囚身地を離るる凡そ一尺、空に懸る凡そ二分死相を験して解下す」とある。

以上の規定に基いて国家による死の儀式が行われるのである。

●死刑確定囚達の日常—独房の日課—最後の日の来るまでに。

死刑確定囚は**独房**に収容される。未決囚や、一般受刑者のように**雑居房**ではない。拘置所の中でもいちばん厳重に監視が行われる場所である。部屋は夜間でも電灯がつけられ、若干の常時監視が続く。この狭いコンクリートの独房が死刑確定囚の**最後の住居**であり、その日課は一般の受刑者とさして変わりはない。ただ死刑確定囚は受刑者のように労働作業は義務づけられていない。**準拘置者扱い**なのだ。ある面では特別待遇されていることも事実である。東京拘置所の死刑確定囚の一週間の日課を、「法制審議会監獄法改正部会資料」でみてみよう。

月曜日（午前）朝食、運動（一時間）、官本の交換、診察の受付、新聞の回覧（午後）午睡、コーヒータイム、処遇担当区長の面接指導（夜間）自由時間

火曜日（午前）入浴（個別に二十分）、新聞回覧（午後）午睡、コーヒータイム、教育課長面接（夜間）自由時間

水曜日（無料洗濯受付、新聞回覧、宗教教誨、枝良会（午後）午睡、映画鑑賞、コーヒータイム（夜間）自由時間

金曜日（午前）運動（一時間）、官本交換、診察受付、処遇担当区長面接（宗教教誨）（午後）午睡、新聞回覧、コーヒータイム（夜間）自由時間

土曜日（午後）面会ツヤ、入浴、新聞回覧、（午後）ＴＶ鑑賞、コーヒータイム、（夜間）自由時間

囲いで押したような規則正しい生活ぶり。これだけみると、どこかの施設か**老人ホームの日課表**と見間違えるほどのんびりしたものさえ感じられる。しかしそれはあくまで外面的なもので、内面的には絶対的な死を運命づけられた者達の**局限の生活**が展開されているのである。そしてこのような生活さは何を意味するのだろうか。なるべく無駄なことを考えさせない死への**調教**なのか。**死への準備**という最終ゴールに向けて毎日**ハードトレーニング**をやらせる選手のような感じすら覚える。**宗教**はそんな確定囚の精神的拠り所となり彼らは自身が死を超越してしまったかのような錯覚をおぼえさせる。

東京拘置所の関係者の文を引用する。死刑囚の心理を適確に表現していると思われるからである。（以下引用）

「**宗教的に充実すればするほど**内省自戒していくを知り次第に神仏的境地を求め遂に心情にまでそれぞれが来るものであるがこうした心境に至るには人によって若干の期間差はあるが、刑確定後おおむね一年か一年と六ヶ月を要するようで、この頃が最も人間的に充実しているかにみえる。（中略）人間である以上いつまでも緊張した生活を送ることは困難で、二～三年も経過する頃にはいつとはなしに気がゆるみ、**死の予期を忘れるのか**、次第に生活態度を乱す傾向を示すことが多い。こうしたことからみると、刑執行の時期は判決確定後一年ないし一年六ヶ月を経過した頃が最も適当と思われ、特別の事情がないかぎり、この期を越えてなお執行しないまま拘置しておくことは適当でない」

長期にわたる**独房拘禁**からくる**拘禁性の神経衰弱やノイローゼ症状**、犯した罪への**後悔**、**妄執**、自分や家族、親族らの**名誉失墜**に対する**苦悶**、つのる**性欲**、いたたまれぬ**焦燥**、**煩悶**、**孤独**、**絶望**、**猜疑心**などあらゆる精神的苦悩に身を焼かれながら死刑確定囚達は、その「**最後の日**」を待つのである。

●運命の尽きた日—死刑執行

死刑確定囚は午前一〇時、獄舎に響く**靴音**を最も恐れる。「**お迎え**が来たんじゃないか？」——恐怖から全神経をこの一点に集中する。死刑執行を本人に伝えるのがこの時間帯だからである。足音、靴音の実際がそれの前兆なのだ。閉ざされた限界の狭い独房ではいわば**足音が拘置所の心音**である。その緊ぎすまされた神経が、歩音わけているのが「お迎え」の靴音なのだ。冷たいコンクリートの床一歩大勢の看守の金属性の靴音がいっせいに近づいてくる。**地鳴りのよ**

うに……死刑確定囚の神経は異常を瞬時に知り全身の血を凍らせる。彼らの心臓が割れんばかりに動悸し、恐怖に身を縮める。靴音が止まる。鍵が舎房全体に響くように「ガチャリ」と鳴って開けられる。死は彼の全身に襲いかかるのだ。死刑執行という直接的な生命の剥奪、それと同時、何十年という月日にわたって毎日、死におびえる精神的な殺人。この二つが絡みあう。すでに精神的には何百回となく殺された末に最後にその完成として生命を奪うという二重の殺人がいかに残酷であるか（彼らにとって）はいうまでもない。

さて、いよいよクライマックスへと話を進めようか。現在、拘置所の刑場の執行台は地下絞架式に統一されている。明治時代に絞首刑がわが国の死刑執行方法に採用された段階では地上式（地上絞架式）が使われていた。地上式とは、いわゆる十三階段を昇った上に絞首台がある方式で、しばらくの間、この地上式で執行は行われていた。ところが死刑囚の多くは死刑のいい渡しと同時に失心状態に陥る。地上式の絞首台まで連行していき執行するのに多大な困難が伴ったため、連行に楽な地下式で、絞首台が平坦なところにあり、絞首されると地下に落下する現在の方式に改められたのである。最近の刑場は木造ではなくコンクリートの部屋である。天井からは一本のロープが不気味に下がる。マニラ麻縄、直径二センチの太さがあり、首にまく。中には何人もの死刑囚の脂を吸っていてヌラヌラと光っているのもあるという。コンクリート床の真中に、一メートル四方の踏板台がある。看守落下する。窓の方には看守、保安課長、検事らが待機し、絞縄される死刑囚の様子を観察し、執行官のボタンを押して執行する。執行はかつてハンドル操作であった。一人でハンドルを引いていたのが、その後に二つにハンドルを増やし、執行官の罪悪意識を軽減する措置が講じられた。今ではボタン式に改められており、それも五個であり、誰が押したボタンによって執行されたかはわからないように工夫されている。

■**絞首——死刑囚の生と死の距離……**

人を殺す方法がどんな方法であれ、人道的な殺人方法などあるはずがない。殺人そのものが残酷である（なければならない）のはいうまでもない。死刑の方法に残虐性の強弱を問うのはナンセンスだろう。だが絞首の採用された理由として明らかなのは、**屍体に損傷がない**。**死後の残虐観がない**という一点と死刑囚に苦痛をあたえないという（と信じられている）点である。これはあくまで外面上、屍体を見ての印象で、損傷も少なく血もあまり出ない。執行する側にとっては抵抗の少ない殺し方というわけだ。**残虐性の判断の基準はあくまで殺す側にあり、罪悪感の少ない殺し方だというわけだ。**死刑囚に苦痛がないというのは本当のことなのだろうか。ある資料によると「特に瞬間的に死亡するのは**ガス殺**、**斬首**。次いで**電気殺**、**銃殺**、**絞首**であるが、絞首の際は執行後すぐに意識を消失するのを常例とする」と書かれている。この、残虐性の最も少ない、**国家の公認した絞首刑**の死にいたる過程をみてみよう。

(1)**第一期** 約一分間。絞首された後、最初は頭がカッと熱くなって耳が聞こえなくなる。目にキラキラと光を感じる。次いで光が弱くなってそれから意識が遠くなる。この時すぐ落下して深呼吸をすれば、普通の状態に戻ることがある。

(2)**第二期** 意識が消えて激しいけいれんが起こるのが特徴である。その長さは一分ないし一分半。けいれんの激しい時は完全に失神している。このけいれんはほとんど必発の症状。両手、両足を同時にけいれんさせるのではなく手と足は別々に動かし手は水の中を抜き手で泳ぐような、足は歩くような運動を力強くする。これを**後退性けいれん**という。この後に**強縮性けいれん**が起き、全身が伸ばしきりになるようなひきつけがくる。

(3)**第三期** いわゆる**仮死状態**。これはけいれんの最中、瞳孔が散大し、眼球が突出して、けいれんがやむと呼吸が止まる。これは**末期呼吸停止**。末期呼吸が起きた第二回の呼吸が終わるまでは約一分間。末期呼吸が止まってからもまた心臓はしばらく動いている。呼吸が止まってからまた十分間ぐらい心臓の搏動は続く。

ある法医学者は死刑を検分した模様を次のように書いている。

「縄を首にかけ一間ぐらいある地下へドカンと落ちるんで、体はキリキリとひものねじれるだけ回転し、極端までねじれると今度はよりが戻って反対方向に回転する。その際、大小便をもらしそれが遠心作用で四方にまかれる。又、看守が奈落に待っていて落下した死体をしっかり抱き、回転を防ぐこともあった。」

以上のように死刑囚は人殺しの報いとして自らの全体重を首の一点にかけられ、完全に宙づりの状態に置かれる。足は地上スレスレ、わずか数十センチの距離である。この十数センチの距離が死刑囚の生と死の距離に比例する。

■**屍体**

死刑確定囚はこうして国家の望むように屍体と化した。残虐観のないという絞首屍体の実際を、以下の引用（九州大医学部法医学教室・石橋助手の「死刑屍体の医学的観察」一九三五年の論文）から少々長文ではあるが紹介してもらおう。

「二十七歳・死亡 大正八年四月二十日、解剖検査九月二十日、男性、身長一六〇センチ、体重五九・九キロ。体格中程度、栄養佳良、顔面は**暗紫紅色**をなし**眼結膜は溢血暗紫紅色**で**血管稍充血**、**溢血点**を認めない。**角膜**は軽く溷濁し瞳孔は左右共に散大。**鼻孔**から暗赤色の血様液を流出し**口唇粘膜**は**紫紅色**、舌尖は歯列の外に突出し、舌尖の右側に**口角**に近い所に爪体大の**暗赤色斑点**があって（粘膜下出血）、**歯痕**を有する。（以下略）」

死刑執行のその瞬間、彼ら・死刑囚にとってこそあっという間の死の深淵が、その足元には**ユラリユラリ**と見えていたに違いないのだ。

殺人

●**バラバラ殺人——その処理の美学**

昭和二十九年九月 古屋栄雄は埼玉県入間郡高階村（現川越市砂地区）で通りすがりの農家の女性を、かつての恋人と誤認、殺害、その体をバラバラにする。

凶器—ジャックナイフ、ボンナイフ（髭使カミソリ）

作業—乳から切り取り、足はつけ根から切断、両下肢、左右乳房、陰部を切り取り、両足の肉は削り取って骨だけにする。削り取った肉片を畑から竹藪の中に撒き散らし、胴体は後手にしばり、膣と肛門にシュミーズを押し込み肥溜に放り込む。切り取った乳房は神社の杉の木にぶらさげ、陰部は神社の本殿をまつっている祠の中にまつっていた。

●**解体にいたる動機**

一、**殺意はなかったが相手があっさり死んでしまったので死体の処置に困ったあげくの行動。**

二、殺しはしたが、**自首もしたくない**。事故死とか病死で**誤魔化**すわけにもゆかず、なんとかうまく逃げおおせるため。

三、憎悪のあまり**復讐**心をもって、この手で打たれた、この足で蹴られた、と報復の気持で切ってゆく。

四、**サディズムがこうした愛情**、いとしい故に切りさいなむ。

五、殺したあと、自殺を装うために**電車のレールの上に死体を置いてバラバラにする**。（例、下山事件が有名）

他、多々の例はあるが、"バラバラ殺人"はいかにも**猟奇的犯罪**にみえるが、多くの場合"殺人"そのものとは**直接の関連**はない。相手が死んだコトで、"殺人"の行為は完了する。眼の前にある一個の"物体"、それをどうするか？ 解体は殺人行為を隠ぺいしようとする自然の気持であろうと考えられる。全ての殺人者が**精神病質ではない**。**むしろバラバラの場合は小市民的な生活を送っている者が多い**という。

しかし古屋栄雄や最近ではパリの人肉喰いの佐川一政のような人物こそ、この"バラバラ殺人"の中では特に興味を引かれるのではないか！ 憎さ（あるいは愛情）のあまり相手の肉体を刺しに刺し、切りに切って乳房や陰部をえぐり取る。切り取った陰部は持ち歩く。または喰してしまう。愛と独占欲。同一化の極致願望であろう。かつての有名な事例で同一化願望の見事な例がある。殺害した女性の頭髪を皮ごと剝ぎ取ってそれを自分の頭にかむり、陰部を懐に

入れ、さらにその女性の下着をつけて縊死した老人——物としての現物を己れの手で消滅させることで初めて相手の"存在"を自分のものとするのであろう。
とにかく、このような点でも関心を多く持たれるのは第三の殺人者群にあげられる"憎悪ひとすじ"の人種であろう。前述したが、可愛さあまって憎さ百倍、相手が憎くて憎して、殺害したあとも、肉は肉、骨は骨とバラして怨念をはらす。彼ら純粋殺人者にとって死体をバラバラに解体する作業＝行為は、警察の眼をのがれるための消極的な方法ではなくて自分の目的そのものであり、その目的のための自分の感情に異常な程、忠実であり純粋なのだ。

●ニオイのフェティズム——強姦殺人への欲求

人間の性染色体は通常、男性では一個のX染色体と一個のY染色体を持ち、正常な女性は二個のX染色体を持つことが知られている。つまり男性の性染色体は一般に〈XY〉であらわされ、女性は〈XX〉であらわされる。ところが性染色体が異常の人間がままある。Xが過剰にあって〈XXY〉であったり、Yが多くて〈XYY〉というような特殊なタイプで、これらは肉体的にもおかしいところがあるが、知能の発達にも関係がある。たとえば〈XXY〉の男性の一部には、■丸が発達しなかったり、乳房が女性のようにふくらんだりする者もいる。最近、特に犯罪学者や性染色体の研究者の間で、このような染色体異常者と"殺人者"の関係が指摘されてきた。ウェッグマン（一九六三年）によると凶悪犯罪者八百十三名から二名の〈XXY〉型が発見されたという記録がある。また非行少年二千三百六十一名のうち五名が〈XXY〉型であったという報告もある。いっぽう男性染色体過剰の〈XYY〉型は、一九六六年、イギリスの学者、ジェイコブスの研究発表によって有名になった。そしてアメリカはシカゴでおきた看護婦8人を殺しのために殺害したスペックという男が〈XYY〉型の染色体の持ち主とされ、その研究に拍車をかけた（が後にスペックは正常な〈XY〉型だったという報告もある）。
ジェイコブスの研究によると、"暴力的または犯罪的傾向をもつ患者を収容するスコットランドの保安病院"を調べたところ、三百十五名のうち九名が〈XYY〉型であったという。似たようなデータはどんどん発表された。その内容を簡単にまとめてみよう。

①〈XYY〉型はかいして背が高い（白人など百八十センチ以上、報告では二メーター二六センチというのもある）
②知能が正常、低劣の境界領域にある。知能指数では八十前後
③〈XXY〉型の男性がどこか"女性的"であるのに比べ〈XYY〉型の男性は男っぽく活動的である
④性格は精神病質的である。また攻撃的性格を帯びている
⑤睾丸機能に障害があり、無精子の場合が多い

人間に、いや生物におけるニオイと行動はとても密接している。人間の性行動にはニオイが重要な要素をしめている。が特にニオイすぎる。またニオわなすぎる場合もあるのだ。嗅覚障害の調査から見ると五十四の例の障害者のうち

・安定型……二十一例
・調和型（一般人と同じ性格）……六例
・不安定型（神経症になりやすいタイプ精神的に不安定）……十六例
・消極型（一応安定しているが消極的）……十一例

という結果だった。この内、ニオイすぎるものは"サイコソマティック"と呼ばれ、ニオイに精神分裂的なものが加わり、多分に嗅覚疾患とはべつに、心理的なものが介在している。それがことに女のニオイへと敏感になるものがいる。好奇心と欲望が悶々とした妄想の心理につながり、女のニオイを嗅ぐともう気も狂わんばかりになる人間たち。この人種たちは女のパンティやスリップなどの匂いもとても大好きで、嗅ぐだけではなく自分もはいて楽しむというバリバリのフェティストたちである。以下に具体例を掲げる。

・萩原勝次——少年時より女のニオイに対して敏感で、窃盗罪で服役中、女の匂いへの渇望は飽和点に達し、出所後、実兄一家で、実兄と義姉、長男と次男を殺害。ヒン死の状態の義姉を強姦殺害した。
・菅田純之——若い頃からやはり「ニオイを嗅ぐとたまらなかった」男で、女への好奇と欲望（いじり、そして嗅ぎまわりたい）からOLを切り出しナイフで刺傷、全裸にし切りつけながら強姦殺害した。

共に幼少時からパンティや女の衣服、バッグのニオイの好きなフェティストであり内向的な人間だったが、二名とも殺人を通じてその欲求を満たしたかというと、そうでもなかった。女を抱きたい、さわりたいという欲望が先き立ち、目的を達した時には嗅覚の欲求は後退したのか、そのニオイの感動には"わからなかった"と証言したという結末であった。
以下に具体的事例を掲げてみる

◇江藤槙久夫——百八十七センチの大男で、マゾヒスト的性格。殺人に対する欲求から放浪と殺人未遂をくり返し、その間にその衝動を日記に書き留め昭和五十年、八丈島で行きずりの女性を殺害、死姦した。
・柳田早智——空想による芸能人誘拐日記を書いていて、その欲求を満たすために六才の子供を誘拐、刺殺する。

共に〈XYY〉の染色体異常で「■丸機能に障害」無精子であった。
しかしこの研究もまだまだ問題は多い。素質というものだけで〈XYY〉＝殺人者あるいは犯罪者は成り立たないだろう。たまたま犯罪者のなかに〈XYY〉型が多く発見された。しかしその逆は成り立たない。

自殺

●首をつるならよそへ行け！

"自殺"に関する規定は民法にも刑法にもない。厳密に言えばこれは法の関与する問題ではないわけだ。この特典は大いに利用する他はない。自殺は売春とか、妊娠中絶とか、一八歳未満のセックスとか、蒸発と同じように、ニセモノの自由なのである。監視つきの自由、後見人や警察や医者や両親やらの承認を必要とする自由なるものも、やはり"叶まさるべき"ものであるらしいのだ。
"誰も自殺を止めやしないぞ！"これが世間の言い草だ。刑法はただ、他人の自殺への積極的協力を禁じている。そして自殺するならひとりでこっそりやらなければ、まわりの人も「人命救助を怠る」罪に問われる、と規定している。なんとも功妙なやり方ではないか。自殺というものは一種の恥ずべき自由であって法律はこれに言及しないことで逆にその性格を浮き彫りにしているのだろう。
自殺の権利は認められる。だが自殺人の権利は認められないのだ。自分は死にたかったのに無理矢理に息を吹きかえさせられた、この損害をどうしてくれるのだと言っても誰も相手にしてくれない。自殺とは幾世代にわたり風軸なものでありママ子扱いされるのだ。

■「われわれは何も自殺者を鞭打ち、首枷、烙印の刑に処せよ、と時代遅れのことを主張するつもりはないが、もっと罪人に恥をかかせる方法があるはずだ。自殺者の名を官報に掲載し、"自殺者、人間として、市民としての義務から逃げだした背任者"という烙印を押してやることもできるのだ"（とある弁護論の話）自殺に対する社会的予防措置を考える、などと司祭、精神病医、教育者が寄ってたかって"安全対策"というあの薄気味悪い錬金術に精を出し、社会を守ると言いながら恩着せがましく、救主に乗り出してくるのである。未遂に終った未成年者は病院施設（つまり精神病院の事だ）に送りこまれ法精者の監督の元に、薬物中毒療法の開発研究も着々とすすめられているわけだ。
だが社会が自殺防止に必死になればなるほど、自殺というものの存在がわれわれの心には深く浸透してくる。治療のための知識を死ぬ為に役立てるのは簡単だ。これ以上の皮肉が他にこの世にあるだろうか。

●自殺する前に知っておくべきこと

1 精神異常者なら無罪？

世間は自殺者を「精神病理学の症例に」つまり抑え難い衝動によって本人の意志が働かなくなってしまった不幸な人物」に仕立ててあげてしまう。法律はさらに「自殺の決意とか「理性的自殺」を否定する。自らを意図的に傷つける者には社会保障の適用も与えられない。何故、死んだのかという自殺者にとってもっとも大切なプライトはあっさりと無視されてしまう。だが自殺の方法が暴力的だった場合には他人も巻き添えを食って法の指定する「精神的・物質的損害」をこうむることが多い。ガス自殺＝ガス爆発、自動車自殺＝事故。新聞を開けばそんな記事に簡単にめぐりあえる。
ここでひとつ問題なのは、まわりの被害だけは大きかったが肝心の本人が生き残ってしまった場合は？ 状況、人柄や精神病の既往歴があれば、ますその人間の行為は精神錯乱の結果だと認定される。この一時的にせよ「精神異常」に侵された者の責任能力をめぐって、今まで法解釈はいつも揺れ動いてきた。自殺行為自体を「精神異常をきたした異常な行為」と法は完全

つたのである

※アメリカ合衆国…「ヘムロック」（毒にんじん）一九八〇年、カリフォルニアで結成。イギリスのジャーナリスト、デレック・ハンフリーは、「ジーンの歩んだ道」を出版している。「精神的な安楽死」の同調者として知られている。ただひとつだけ、細部が省略されているのは、医者の協力によって準備され、運命の日まで保存されていた、ジーン（彼の妻）のための薬物カクテルの正確な内容である。そうこうしているうちにハムロック協会はまた、ハンフリーの本を出版しているが、そのタイトルは「眠ってる間に死なせて」である。この本の中で奇妙なのは、彼自身、過激な方法は避けるべきだとしておきながら、一方では浴槽での感電死、自動車の排気ガスによる中毒死の方法を、こと細かに連ねているのである。

安楽死の方法論がもし、死に対する不安、恐怖を取り去くのだとしたら、人は死を恐れなくなるのであろうか。死に至るまでの苦痛をわれわれは忌み嫌っているだけなのだから。

●首吊り自殺

だいたい首吊りは部屋の中でもできるし、まず間違いなく目的を達成することができるため、多くの人がこの方法を試みた。その意味ではオーソドックスというか古典的な方法といってよい。人間嫌いなギリシャの哲学者ティモンは、自分の庭のイチジクの木でよく人が首を吊るので、アテネの市民に「もう死にたい奴はいないか、木を切ってしまうぞ」と怒りながら広告したという。

ソ連には自殺がない。ありえないことだとの建前なので国連の統計書にも載っていないという。しかしずいぶん以前の統計では首吊りが一番多かった国であったそうである。六〇歳未満での自殺のうちの七八%、六〇歳以上では九一%となっていた。因襲というものは容易に抜けないし、それに自殺にも、きっと国の風土的性格があるから、ソ連人の自殺はやはり首吊りこそふさわしいのかもしれない。農山村では、どこでも縄や綱は手にしやすいし、それに都合のよい納屋といった場所があるので、人目につかずに自殺を成功させる条件が揃っているのだ。

●首吊りは気持が良い?

首吊りは実は気持ちが良いのではないか。としたり顔で語る諸君よ。実際はあれはとても苦しいものなのだ。自殺願望者は首吊りとピストル自殺にロマンを見出すかもしれないがあまりにも生々しく、自己の肉体の息絶えるさまを体験せねばならぬ首吊りには少しもロマンは無いのではないだろうか。最後の最後まで透徹したマゾヒズムは感じられるが、その姿勢というか、精神状態に第三者は美意識を見出すのだろうか。先にも述べたように、これは自分で息の根を止める＝窒息死だ。頸部を締める舌の基底が上の咽喉壁に強く圧迫して気道を塞ぐわけである。また頸部が締められるので、血管や神経を圧迫して脳貧血を起こし、一方では心臓の故障が生じる。…このため顔面は充血して紫色に、唇も同様に充血して腫れあがる。鼻血はとめどもなく流出し衣服の襟に粘着する（死体発見後、その衣服が銀色に光っていたりするかどうか）しかも舌は実にだらしがなく（きっと）垂れ下がっているに違いないのだ。すると、首を吊るのではなくて首を締めるというやり方もあるのだが、こうなると自殺・他殺の区別をつけるのは実に難かしい

■夏目漱石の「吾輩は猫である」に「寒月君」が首くくりの力学を説明するところがある。古代の犯罪人の絞首刑はアングロサクソンの風習といわれている。その前は石を投げて殺したが、絞首刑の最も古い記録は、オデッセイの第二十二巻に出てくるとわざわざ調べあげた学者がいる。

●公刑としての絞首の始まり

中国の刑法に倣ってわが国にできた明治最初の刑法「新律綱領」はすぐに「改定律領」となった。これには公刑としての絞首が定められた。高台にしつらえた上に死刑囚を立たせ首に縄をかけ、縄の端におもりをつけて体を引き揚げ、踏み板をはずして本人の体重によって窒息させるという方法だ。たいてい数分で絶命したらしいが、十五分経っても死ななければ助命され、現にそういう人間がひとりいたという。

■十三階段というと現在ではたいがいの人が絞首刑を連想する。ムッソリーニも東条英機も十三階段を昇ったのであるから、さて、この十三階段のいわれは、実は、昭和三十五年に日本でも公開された、ナチ一二年の悪業史を綴った西独の長編記録映画〈十三階段への道〉の興業的成功の副産物として人々の脳裡にごく自然に浸透したのである

■たとえば、ある女性が、足を部屋の一端に縛りつけてから物の端から綱をおろしてハンモック型によって死んだ（同上・自殺物語）という事件があったがこれは他殺と間違えられたそうだ。つまり首吊りとひとくちに言ってもその過程には実は、自殺者の「研究と工夫」が重ねられてきたのだということも記憶しておくべきではないか。いわば首吊りの非定型・多様化である。

●ナイフの苦痛

原水爆といえば自然科学者は原子エネルギーを解放することで長い小道の果てに行きあたり、学問の中心課題は物質から人間に移項せさるおえなくなった。理論学者も生命現象に深い関心を持つようになった。アメリカで〈情緒的緊張時代〉という言葉がはやってからもう久しい。手慣れているにも関らず自動車を運転していると人をひき殺すような気がして病気になると訴えているタイピストやキーパンチャーは、ちょうどスタイルブックをみて服を作るように自分の病気をつくっていく。今度はこのような病気にかかるのだと思いこんでいると、きっとそのとうりの病気にかかる。自分の仕事、存在をあまり重大に考えすぎているからだともいうが、悲しみ・悩み・おそれ・怒り・屈辱感・懐疑・反抗・誤解・不信・疲労といったものは皆、情緒的緊張の産物なのである。

あるタイピストは次のように訴えている。（私は病気でもしなければとても生きてゆけない気持です。いろいろな人の関係にしてもうるさいことはあるが真の苦痛と戦うには、これがいつもの救いでした。（中略）心臓にナイフが刺されていると私は言うのですが、このナイフの苦痛はたいへん強く、他の悩みを抹殺してくれます。）

■(1)百貨店と教会は、私の知らぬ大戦後、その繁栄をとりもどしたが、教会のイスに腰かけるよりも病院のベッドに横になろうとする人の多いことは、むしろ残酷である。「精神身体医学」というのがあるが、われわれは、このロゴには慣れてきているはずである。ドイツのフェリックス・ドイッチェがはじめて使った名前であるが、これを実生活に応用したのがアメリカの婦人F・ダンバー博士であった。

●母胎に復帰する入水自殺

フランスの画家モネは光と色の効果を狙った印象派の一翼を担った人物だが、水の色が非常に気に入っており、自分が死んだら浮標の中に葬ってくれと言ったという。精神分析派によると、水とは母胎の中の羊水であり、人間は本能的にそれを恋しがるのだ、としている。夜の母胎より生まれた人間は、昼よりも夜を好み、したがって入水自殺はだいたいにおいて夜行われるという。

●祈りを伴う死―断食

（※栄養失調症という言葉を、現在はほとんど聞かない。かつて京都府立医科大学の吉村寿人教授は、この症状の自ら実験台に立ったことがあり（雪華社・自殺物語より）、その報告によると、体重10％減ることに区切りをつけて調べたが、症状の第一期は舌が荒れ、食欲を抑制する精神、肉体的苦痛がひどく、二～三期には次第に苦痛に慣れるが、全身がだるくなってくる。第四期、遂に決定的苦痛が全身を襲い、死に至る期間中の安静は蓄積エネルギーの浪費を節約して保ち、冬は体力の消失が夏より早いという。一般的には全期を通して夢をみるとのことである。あの、カフカの短編に「断食芸人」というのがある。サーカス小屋の中で、主人公は断食の限界に挑戦するさまをオリの中で、人々の前にさらし続ける。それが彼の「芸」なのである（もちろん彼にとってそれはもはや芸の域を超えた表現行為として昇華されている）この作品を読んでも、やはり主人公・彼の、夢と現実の完全にグチャグチャになった日常が興味深く描かれている

■近代ロシア文学の基礎を築きあげた戯曲

一八五二年、四十三歳の若さだったが、十日間、祈りと断食を続けたのであった。これに例をみるまでもなく断食とは祈りを伴う自殺の一方法なのである。精神分析学派は、これを個人に内在していたマゾヒズムの発露という。たしかに断食自殺とは自虐性の強い方法だといえる

●衰弱していく肉体の果てに

断食は外部から栄養は摂れないから体内で補給することになる。この場合、まず消尽されるのが含水炭素で、これは筋肉や肝臓に蓄えられているが、それを消費しても生命に危険はない。次に消費されるのは脂肪である。皮膚の下、目の奥、ほおの中、腹の中などに蓄えられているもので、これを失くしても生命に別状はない。ただやせるだけだ。だが、人間の体内で一番大切なものは蛋白質である。他に消費するものがなくなると、この大切な栄養素に移ってくる。まず腎臓や肝臓にある分から失われてゆき、最後に脳や心臓にあるものまで消費つくされて遂に死に至る。

先に書いた精神的変化の中で、体内では自己の肉体を食い尽くしているということだ。

●即身成仏…神へ近づく果てには…ミイラ

断食は西洋でも日本でも古くから行われている。神に捧げる犠牲と共に祭祀にはつきものであった。起因はこうした宗教関係にあったのは言うまでもない。即身成仏、ミイラ化だが、多湿の日本では放っておいてもミイラになるというわけにはいかないので手数がかかる。それでも死んだミイラになれば〈即身成仏〉というわけで真言密教を信ずる山伏の修験道で行なわれた。出羽三山の月山、羽黒山、湯殿山、がその道場で、ミイラ志願の者はここの仙人沢で準備に入る。まず三年間は穀物を断ち、さらに数年間は草や木の実ばかりで生きる木食行に入る。いよいよ本番になると、座禅の姿のまま棺に入れてもらって埋められるが、風通しの穴をあけておく。中にいる者は鈴を振ることもあり、鈴の音が絶えると成仏したというわけだ。さらに三年後掘り出されるが、それでもミイラになるとは限らな

さらに防干しとして法衣を着せるのである。

■ミイラといえばエジプトが本場である。完全に保存せられて数千年後の今日でも、なおその容貌を知ることができる。包帯は、そのものが防腐剤であったとも考えられる。

以下にミイラづくりの作業を紹介しょう。ます。左側の肋骨の下を深く切断し、その傷口から内臓をひきだすが、心臓と肝臓だけは残しておく。脳髄は曲がった鉄の器具で鼻から抜きだし、頭蓋と胴体との空洞はシュロ酒（エジプトの古代酒）で洗浄してから乾ブドウや乾草などを詰め、また頭蓋には鼻から色々な薬剤を注射する。こうして身体を七十日間ソーダ水につけるが、それから取り出してゴムで接合した麻布で綿密に身体を包む。これで作業は終りだが、たいがい富裕の家でないとできなかったらしい。しかし簡易な方法もあるにはあった。洗浄剤で死体を洗ってから七十日間塩水につけておくだけである。

●ハラキリ―この日本人独自の自殺法

ハラキリ、今日、アメリカ人が「ショーグン」「カミカゼ」と共に日本をイメージする言葉のひとつとして、そして世界史にみる奇異な風習として「ハラキリ」を興味深く感じているようだ。切腹、つまり封建社会の基底を支えていたとも思われるこの風習、義理、人情、忠義だのといった形容がかならずこの行為にはかって冠せられていた。注意したいのは、たしかに切腹とは自殺の一方法ではあったが、あくまで刑罰の一種であったということである。「賜死」という言葉がこれを解くキー・ワードだ。刑罰の中でも、自分で自分の命を断つ、というのはひとつの名誉であった。つまりはプライドであり、それを許されたのは武士や位の高い貴族に限られていた。武士は死の場面に臨んでも体面を重んじ切腹を強く希望したのだという。斬殺されるのは恥辱であった。プライドの為の死の方法論として切腹は存在したが、アメリカ人など、ともかく外国人の思考法の中ではその精神的な部分は興味深くはあれど理解にはいたるまいと思われる。彼らにとっては残酷以外の何物でもないからである。さて、こんな切腹の作法もまたにやかましかったらしく伝説を重んじ故実に従った。以下に切腹のプロセスを記そう。

切腹ははじめは寺院で行なったが検使人（監視人）ができてからその屋敷の庭で執行された。まず切腹人に行水をつかわせ髪を結ばせる。おからくしをとりはじめ右左上下と四くしを巻き、まげの下方へ逆に折り曲げる。（つまり全て通常の逆をいくのだ）次に無紋水色の麻かみしもを着せる。場所は六間四方がいちばん上等で南北の入口二ケ所。南は修行門、北はねはん門と呼ぶ。たての畳に白絹を敷き六尺四幅にして四すみに四天をつけ、四方に四はばの幕を張る。介錯人は、はじめ介添人といったという。切腹をアシストする仕事だったのが、首をはねる死刑執行人に変った。つまりここに至って切腹は形式化したものにすぎなくなった。真剣を持つ場合でも腹に突き立てぬことになったのである（あるいは短剣を廃して木剣、白扇が使われたりするようになった）。理由は腹綿の切腹時における流出が汚いとのことからである。あくまで刑場を汚すのは血だけで…というわけで、封建社会の後期には、もうほんとうの切腹は刑罰の形式の上からは姿を消してしまった。短刀を布か紙でぐるぐる二十八巻きにし、切腹を模して首を前にかがめたところを打ち落とす、というのが一般的になった。

■介錯の役は難しかったという。「のどの皮を右分はかり残す」（世界自殺物語より）ように切らねばならなかったが人によっては畳まで切りつけたりする。気が立っているからである。主役が失敗すると副介錯人が脇差を抜いてきることになった。

「末期の水」という言葉がある。切腹の時でも盃で水を飲ませたが、これはちゃんとした理由がある。つまりどんなに武勇すぐれた者でも死の直前には上気し、血液が頭部に集まり、首を落としたときに出血がひどいのでこれを止めるために水を飲ませ、神経をなんとか落ち着かせたそうである。

●乃木将軍の死―殉死としての切腹の形

「大正元年（一九一二）九月一三日、その日の早朝、乃木大将は陸軍盛装で夫人・静子とともに写真を撮り宮中へうかがった。帰宅して後、いかにも晴れ晴れとした顔で二柳の菅蔦に十分に馳走してやり、辞世をしたためた（中略）号砲を合図に（明治天皇の大葬を意味する）部屋の床柱をうしろに端座した乃木大将は、しずかに大礼装の上着を脱いでていねいにたたみ、白いヒモを首から足にかけた。姿勢の崩れるのを防ぐためである。ついで二尺三寸の軍刀でまず、左の腹に突き差して右に回し、一文字にかききり、切っさきを少し切り上げてから、今度は軍刀を持ち換え右ののどから左へかけて切っさきが五・六寸はみでるほど突き通した。夫人は大将と並んで白衣に黒いはかま、うちかけ姿で懐剣で三度胸を突き左の心臓を刺して八寸のよろい通しの上に身体をのしかけるようにして絶命した。大将は六十三、夫人は五十三歳であった。大将夫妻の自殺については国民が驚いたのはもちろん、世界にわたって、その是非論がとりかわされた」（世界自殺物語・雪華社より。全文引用）

●墜ちていく意識の彼方に―彼らに何が見えていたのか？

それにしても飛び降りてから死ぬまで、人間はどのような意識活動をするのであろうか。これはとても興味深いことだ。死人の口からきくことはできないが、以下に、誤って高所から墜落して助かったというある男の話を引用してみる。（世界自殺物語・雪華社より・生物学者カリントンの著述）

「自分は非常な高所から墜ちた。しかも後ろざまに。これまでこんな事をみたときに感じたような懸念は少しもなかった。それどころか巨大な翼に乗って、ゆっくりと降りゆくように感じ、落下の意識は持っていなかった。恐れることも慌てることもなく、静かに我身のこと、家族のことを考え、さまざまの想いが稲妻のように胸を去来していった。それから氷河のふもとの岩に墜ちたが、呼吸も失わず少しの苦痛もないままに意識を失った。落下の際、擦痕のや氷塊のために頭部と四肢にところどころ裂傷したが、これも感じなかった。とにかくこの時ほど、自分の生涯で痛快なことはなかった。私は夢中で自分の生命保険を数えて、丘陵の全が新しい紙幣や輝く金貨で、緑色の卓布の上に積みあげられるのをみた…」

これを書いた生物学者・カリントンは、さらに、「生と死」という著作の中で、「瀕死の場合にも墜落時と同じひらめきがあるが、何故ほんの短い間に、このような多くの回想が出来るのか、心理学的にも興味深い」といっている。まるで小説の世界みたいだが、あの～走馬灯のようにというのは実際に起こる現象であるようだ。普通、このような場合、脳髄は興奮せず、混沌となって外来の刺激になど感応できないはずだから、記憶を呼び起こしたり、正式に物を考えられたりは、「科学的側面」からみた限りは不可能である、と断定されているのである。けれど当時者にとって飛び降りとは、一瞬の事実ではない。時間のワクを超えた「スロウダイブ」なのである。

世界中からショッキングな素材を集めて映画にしたヤコペッティの世界残酷物語は昭和三十七年に東宝系で公開されて異常な人気を博したという。TVでもかって何度か放映されたこの作品を観た人はわりといると思われるが、その中でマライの〈海底墓地〉が出てくる。海底に沈む数えきれぬほどの骸骨はマライ諸島原住民の為の水葬である。死人を海に捨てると海がその身体を洗い清め罪から救い出してくれると信じられている。水葬のあとはサメの群がやってくる。この島はサメが人間の肉の味を覚えた初めての土地といわれているそうだ。その人食いサメを生活の為に獲っているのがマライ海岸ラブットの住民たちである。サメのヒレは高価に売れるので危険をおかして獲るわけだが、その為に漁人は、手足の一本ぐらいはたいていなくしており、五体満足な人間はいない。という冗談とも本気ともつかないような説明がたしか、この中でされていた。

●スロウダイブ―飛び降り自殺の願望

ソ連邦ウズベクのボハラには煉瓦づくりの二三〇フィートの〈死の塔〉がある。かって罪人を突き落とした、刑罰用の高塔は現在では、どうやらちょっとした観光名所になって、かの罪人達の頭蓋が鈍い音をたてて髄しょうを飛び散らせながら砕けたであろう地面の上を観光客のハイヒールが踏んでいるというのが現在であろう。ローマでも、トルコでもかって帝国が領土を治めた土地では刑罰としての飛び降りが存在した。

飛び降り自殺はまさに人間最後の自己顕示ともいえる。「精神的」なエンターテイメントとしての自殺ともいえないことはない。

■世界で派手な飛び降りは一九三六の六月の記録である。二十二歳の雑誌勤務の青年が一二五二フィートの世界一のエムパイアーステイト・ビルの八十六階から飛び降りた。（雪華社・世界自殺物語より）ニューヨーク文化の代名詞・高層建築（企業のシンボル）が、自殺者の最大利用価値として〈生命へのより高き礼賛?〉となったことは是非もなく、それこそ非情の集積・摩天楼の悲事である。

●情緒的緊張時代

ソ連が宇宙ロケット発射に成功したという報道のあった日、ニューヨークの精神病院の外来患者は平日の2倍あったという。水爆の犠牲になるよりはいっそうわが手で、と遺書を置いて親子心中を遂げたのはイギリスでの出来事だった。ノイローゼ時代、恐怖時代といわれる今日、それが自殺を誘い出すのである。

■私にとってこの地上に生きていくことは、各瞬間が底知れぬ戦りつに満ちているようだ。日毎、人間の心の中で消えていく悦楽―そういったものが、今は激しく私の中で渦巻く…（詩人はこのように言うのであった。）

科学の進歩は喜ぶべきかどうか。人間の心を空虚にし（月からウサギの消えたあの日）無感覚にするのは科学であるといえば言い過ぎであろうか。現代人に過度な刺激を与え正常な人生観の調節を破るものは科学である。われわれの神経が高度に緊張する時代、絶えず火花が飛んできてそれがときどき炎上するような暴発時代に住んでいる。〈不安の確立時代〉だと誰かは言った。いまや不安、恐怖なくしては、美しい魂も文学的才能も、なにもかもないのである。不安を乗り越え恐怖に打ち克つ者だけがこの世に生き残る。

怒りと悩み、驚きと輝きの交差…幸福と歓喜の果てへ。

●毒死　服毒自殺

薬物中毒が手遅れにならないうちに手当てされた場合の回復の見通しは今日ではとても正確に把握できるという。ピストルやカミソリ（ピストル自殺は、日本では法的措置によってあまりないが）や地下鉄などの電車や一酸化炭素で自殺しそこなう例はいくらでもある。その後遺症なら誰しもすぐに想像がつくであろう。それから都市ガスは一酸化炭素の含有量が少ないので使いたくとも使えないことを覚えておこう。その代わり、爆発力だけは強いので自殺は失敗するにしても、関係の無い人間も巻き添えで殺すことになる。確実に、そしてラクに死ぬためには？　そして服毒自殺は、うまくやれば実にラクに自殺者を迷うことなく死なせてくれる。だが毒物、一般には有毒物質に関する情報・知識はほとんど知られることもなくあいまいである。以下に「服毒」自殺者のためのできるかぎりの情報を公開しよう。どんな薬か！　どのくらいの分量か？　どういう危険があるのか？　初めから断っておくが、今日、どの薬をどのくらい飲めば確実に「安楽死」できると断定するのは不可能だ。現代科学の水準では、そんなことは、不可能とまでは言えないが、ちと乱暴な話だということになる。つまり毒物（もしくはなりうる）物質（薬品）の致死量は、いちおうどんな条件でも、どんな体格の人間でも確実とされる分量を指示しているが、アメリカ、ヨーロッパに散在する「安楽死協会」（安楽死の項参照）のメンバー達の調査及び実験（？）によって「どの組織でも、会員には、確実に死のうと思うなら、少なくとも最低致死量の三倍は必要だ」と忠告している。（「眠っている間に死なせて」自己解放のためのヘムロック協会のガイド）のが現状だそうだ。

■方法論　毒物の致死量から方法までを実に詳しく親切に説明している自殺の手引書を以下に掲げておこう。（日本で入手するのはかなり困難と思われるが）

EXA－「安楽死・自己解放への手引」A guide to self deliverance　イギリス・エクジットの小冊子（一九八一年六月）

鎮痛剤だけでは信頼するに足りないということを強く訴えている

EXE－「いかに威厳をもって死ぬか」How to die with dignity　ジョージ・B・メイラー　スコットランド・エクジットの小冊子

HOL－「合法的な安楽死」L'euthanasie légalisée　アートミラール博士　自由意志による安楽死のためのオランダ協会発行　一九八一年

HEM－「眠っている間に死なせて」Let me die before I wake　デレック・ハンフリー、自己解放のための毒にんじんハムロック協会の本　一九八一年

服毒自殺の例をとりあげ（成功、失敗）成功例の、使用されたさまざまな薬品の致死量が示されている

GPI－「中毒のための実用的ガイド」Guide pratique des intoxications　フルニエ、ウール・ド・フランス出版社　一九七七年

VID－「ヴィダル事典」Dictionary Vidal

●薬品（〝自殺〟クロード・ギヨン・イブ・ル・ボニエック・五十嵐邦夫訳・徳間書店）を参考文献とする。

バルビツール系催眠剤

この系統の薬の十分な量を静脈、または筋肉に注射すると中枢神経と呼吸器の両系統が衰えて昏睡状態に陥る。そして血管と心臓にショック症状が起きて、死に至る。**筋肉注射は静脈注射よりも効め目は遅い。**「死亡率が最も高いのは即効性バルビツールを単独に、またほかのバルビツール系薬剤と併せて用いた場合である」（『中毒死』ルジウー、バリアート共著）蘇生した場合でも、バルビツール系なら**神経系統の後遺症**を残さない。資料を元に以下に最低致死量及び示唆量を示すことにする。（なお、上の太字は資料の関係上フランス名、（　）内は世界共通の一般名）

⑴**ヒノクタール** BINOCTAL（**アモバルビタール＋セコバルビタール**）
最低二・五グラム、示唆六グラム　つまり五十ミリグラムの錠剤一二〇錠　即効

⑵**エノクタール** EUNOCTAL（**アモバルビタール**）最低六グラム、示唆六～八グラム、つまり一〇〇ミリグラムの錠剤六〇～八十錠　四～八時間後

⑶**カルデナール** GARDENAL（**フェノバルビタール**）最低六グラム　示唆六～八グラム　つまり〇・一〇グラムの錠剤六〇～八〇錠　効果遅く八～一〇時間後

⑷**イメノクタール** IMMENOCTAL（**セコバルビタール**）最低二・五グラム　示唆六～八グラム　つまり一〇〇ミリグラムの錠剤六〇～八〇錠　即効　三～四時間

⑸**ネンブタール** NEMBUTAL（**ペントバルビタール**）最低六～八グラム　示唆一〇グラム　つまり一〇〇ミリグラムの錠剤一〇〇錠　または二・五グラム注射用アンプル四本　即効

ペントタール PENTOTHAL（**チオペンタール**）
致死量は静脈注射一グラム　超即効性があり麻酔剤として使われるが、ネストナール NESDONAL の商品名でも市販されている

⑹**ソネリル** SONERYL（**ブトバルビタール**）
最低三グラム　示唆六グラム　つまり一〇〇ミリグラムの錠剤六〇錠　効果は普通

バスパラックス VESPERAX（**セコバルビタル**（即効）＋**ブラロバルビタル**（ふつう））示唆約三グラム、つまりセコバルビタル一〇〇ミリグラムの錠剤三〇錠　これはセコバルビタル三グラムとブラロバルビタル一グラムを合わせた分量に相当する　一五～六〇分の睡眠状態の後、四～八時間で死亡する。

非バルビツール系催眠剤

⑺**ドリデン250** DORIDEN 250（**グルテチミド**）最低五グラム　示唆八グラム　つまり二五〇ミリグラムの錠剤二五錠

⑻**マンダラックス250** MANDRAX 250（メタカロン＋ジフェンヒドラミン）五グラム、つまり二五〇ミリグラムの錠剤二〇錠。肝臓、腎臓にはアスピリンと同様に有害　自殺に用いるのは難かしい

致死鎮静剤

モルヒネや、その系統のもの（**ヘロイン**）の適量を静脈注射すると強度の呼吸困難が生じ呼吸停止と無酸素血症（血液中の酸素濃度の減少）のため死に至る。だがヘロイン常習者ならば三〇〇～五〇〇ミリグラムを注射しても一日数回くらいまでは呼吸困難はまったく起こらないという。注射してから死亡するまでの時間を正確に言うのは難かしい。数時間から、ときには数日にまで及ぶこともあるという。どのくらいの量で、確実に死ねるか、というのも断言できぬのが実情といえよう。いずれにせよ、静脈注射が最適であることは信頼できる。モルヒネの扱いは欠点が多いばかりか手に入れるのも難かしいそうだが海外の密売ルートに依るしかないのではないか？　混ぜ物も多く、品質を確かめるも不可能であるという。

トランキライザー

⑼**エクアニル400** EQUANYL 400（**メプロバメート**）
致死量は一五～二〇グラム　つまり四〇〇ミリグラムの錠剤三八～五〇錠

抗ヒスタミン剤（吐き気防止剤）
これだけでも死ねるし他の毒物を使う時の吐き気止めにもなる

⑽**トラマミン** DRAMAMINE（**ジメンヒドリナート**）
最低二・五グラム　つまり五〇ミリグラムの錠剤五〇錠

⑾**マルシン50** MARZINE 50（**シクリジン**）
最低五グラム　つまり五〇ミリグラムの錠剤一〇〇錠

抗うつ剤

とてもよく効くらしい。意識不明になり心臓が止まるという。死ぬ前に眠りこむようなことはない、というか昏睡はごく浅いものでも心臓障害と痙攣がおきるとか。どの薬も致死量は五グラムとされているらしい

⑿**アルティルブ** ALTILVE液（**ノルトリプチリン**）
最低四グラム　つまり〇・八グラムのドリンク用のアンプル160本

⒀**アナフラニル25** ANAFRANYL 25（**クロムプラミン**）
最低四グラム　つまり二五ミリグラムの錠剤一六〇錠　または二五ミリグラム注射アンプル一六〇本

⒁**エラヴィル25** ELAVIL 25（**アミトリプチリン**）
最低四グラム　つまり二五ミリグラムの錠剤一六〇錠

強心剤

⒂**ジコキシン** DIGOXINE（**ジゴキシン**）
致死量は一〇～二〇ミリグラム、つまり〇・二五ミリグラムの錠剤四〇～八〇錠、または三ミリグラムのドリンク用アンプル四～七本、または〇・五〇ミリグラムの注射アンプル二〇～四〇本　効果は遅く、確かではないか、時間が経てば効くこともある

⒃**ナチヴェル・ジキタリン** DIGITALINE NATIVELLE（**ジキトキシン**）　最低は約三ミリグラム、つまり〇・一ミリグラムの錠剤三〇錠、または〇・二ミリグラムの注射アンプル一五本　トリンク用のアンプル一本は最低致死量の三倍（一〇ミリグラム）にあたる　効果は遅く確かではないが、時間が経てば効くこともあるという

クラーレ系のものについて

クラーレ（植物の根からとった黒い樹脂状の毒で南アフリカの土人が弓矢に塗った。『自殺』徳間書店より）を静脈か筋肉に大量に注射すると、数分も経たないうちに横紋筋が完全にシビれてしまい呼吸がストップするために心臓も止まる。意識不明の病人以外には、これを注射してはならないのは当然である。だから、これは誰かに手伝ってもらって実行しうる自殺法であり、たとえばパリウム四〇ミリグラム（最低致死量）を注射してから用いるべきなのだ。「クラーレを自分ひとりで扱うとひどい目にあう危険がある（呼吸器の筋肉がだんだんしびれてくる）口から飲んでも効果はない」（『自殺』徳間書店）

■先に掲げた薬品の製薬会社を（　）で以下に示す

⑴日本では注射のみ
⑵日本の「イソミタール」（日本新薬）にあたる
⑶日本の「フェノバール」（三共）、「リナーセン」（第一）にあたる
⑷日本では注射のみ
⑸日本では「ネンブタール」（大日本・注射剤）にあたる
⑹日本にはない
⑺日本の「ドリデン」（

8一の配合剤は日本にはない
9日本の「アトラキシン」（第一）、「メプロバメート」（各社）にあたる
10日本の「トラマミン」（大日本）にあたる
11日本にはない
12日本の「ノリトレン」（大日本）「センシバル」「ファイザー」にあたるが、このような水薬はない
13日本の「アナフラニール」（藤沢）にあたる
14日本の「トリプタノール」（万有）、「ラントロン」（山之内）「アデプレス」（塩野義）にあたる
15日本の「ジゴシン」（中外）、「ジゴキシン」（三共、山之内）にあたる
16日本の「ジギトキシン」（各社）にあたる

●**有毒物質**（『自殺』クロード・ギヨン、イブ・ル・ボニエック・五十嵐邦夫訳・徳間書店）を参考文献とする
これは単に指摘しておくだけのものと、まったくすすめられないものがある

指摘しておくだけのもの

毒にんじん 生葉六～八グラム 三～六時間で効果がある 植物の場合は、毒にんじんに限らず毒性はどの部分かによっても異る 採取時期、乾燥法などの影響を受ける

青酸カリ 致死量は〇・一五グラム つまり胃酸の作用で青酸カリから青酸（致死量〇・〇五）が発生するために死ぬ

モルヒネ 致死量は一二〇～二五〇ミリグラムあたりと言われている 飲む場合は一二〇～二〇〇ミリグラム、静脈注射では三〇ミリグラム 六～十二時間で呼吸が停止して死ぬ

ニコチン 致死量約六〇ミリグラム（紙巻きタバコ一本で一～二・六ミリグラム） ニコチンはまた、殺虫剤のような農村液体にも含まれているという（リッターあたり三～十二グラム）ニコチンはきわめて強力な有毒物質で中毒には激しい苦痛を伴う（『自殺』徳間書店）数グラムのタバコを食べてしまうと死ぬこともあるという

りんごの種 りんご、桃の種を五個一杯食べると死ぬことがある これらの種には、青酸を出すという有機化合物が含まれているからだが、死亡する場合はまれであるらしい

まったくすすめられないもの

無水砒素 致死量は体重キロあたり約二ミリグラムか、あるいは〇・一～〇・八グラム 四八時間にわたって作用する

ベラドンナ（アトロピン含有の植物）致死量は一定していないようだ 効果不明。心臓症害を引き起こす この植物のどの部分も有毒だという 解毒剤は無いらしい

ジギタリス 最低三グラム この強心剤は効き目も遅く確実ではない 致死量は足元に落ちている落ち葉なら二・五グラム、染料用の葉なら三〇グラム、粉状のものは二・五グラムという

リチン（ひまし油の原料のひま） 致死量は約五～一〇グラム 消化器系に激しい障害を引き起こすといわれている

ストリキニーネ 致死量は三〇～五〇ミリグラムか一〇〇～一二〇ミリグラムとも 苦痛（激しい痙攣をともなう）ことについてはどの資料にも異論がなく、死はその一時間後にやってくる ストリキニーネとバルビツールを使用すると効果はうすれる



● 使用上の注意

無理に息を吹き返させられるのは嫌だと思ったら、使った薬の空き箱をキチンと始末しておこう 手紙や、ニセの処方箋や、コネで作ってもらった処方箋など、自殺を準備するのに故意であろうとなかろうと、人が協力した証拠となるようなものは絶対にとっておいてはいけない（紙クズ箱に入れただけではきっと探し出されるぞ）人に迷惑をかけたくなかったら、身近な人には一切、責任がないとするメモを残しておくのも手だ

●日本における自殺、安楽死、薬物中毒に関する問い合せ先

死ぬ権利のために活動している組織は、現在、世界一九ヶ国に三一ある 日本では**日本安楽死協会**がこれにあたるだろう
〒101東京都千代田区神田小川町一－一二 井総ビル7F 03（295）4128
自殺の研究グループとしては**日本自殺予防研究会** 03（263）5794 がある
東京都薬用植物園 毒草の問い合わせに応じてくれる
〒187東京都小平市中島町七二 0423（41）0344



葬式

●よいお墓の建て方、まつり方

①地相・地形えらび

(1)日あたりの良い風通しの良い場所。
(2)陰湿でジメジメした場所は避けること。
(3)できるだけ、東または南向きであること。
(4)地盤のしっかりした清浄な土地を選ぶこと。宗教的霊地であることがのぞましい。
(5)造成が完全な土地。畑の土とか土質のよくないばあいは、清浄な山土と入れかえること。
(6)分家（結婚し家をたてるとき）するには、家をたてる前にまず、狭くても墓地をつくること。そのさい、本家（生家）の墓の土や小石をいただいてその墓地に埋納し、木標でもよいから供養塔をたてること。
(7)本家のばあい（分家でも二代目以降）は、今までの宗旨でまつれる墓地であること。
(8)分家で自分が初代のばあいは、本家（自分の生家）の宗旨（宗旨がえ）の墓地であってもさしつかえない。

●墓地の広さと値段

新しく墓地を入手するばあい、公営墓地では、だいたい四平方メートルを単位にしている。これは土地によって墓石の形状がちがったり、立って礼拝するのとかがんで礼拝する習慣、また、墓地内で礼拝するのと墓地外で礼拝するなどによって多少ちがってくる。

墓地外で立礼するばあいは、墓壇を高く地上より上げて、その上に墓石をのせている。そうでない場合は、三〇センチまでの高さに結界石をめぐらし、その上に墓石をつくるので、それぞれ最小墓地面積が少し変わってくる。蹲踞（かがむこと）の姿勢をとるのは、京都や奈良などで墓地の歴史が古い地方に多くみられ、そのばあいは、墓壇自体も三〇センチ前後の高さにし、墓石も見上げるような大きなものはいけない。墓地の広さは、分家初代だと、供養塔と位牌墓が一本ずつ立つ全地が望ましく、間口は最低二メートル、奥行も二メートルほしいところである。

●墓地の値段

近頃は、公営の公園墓地でも私設の霊園でも、一聖地と一区画いくらという値段で、墓地の永代使用権を売っていて、私営でも公営でも、墓地は買うものではなく、「永代使用権」を得るという形をとっている。直系使用者に使用権が伝えられているため「永代使用」という。墓地は宗教法人による宗教活動のために、知事または百万都市以上は市長の許可を得て経営され、地目が墓地に変更されると固定資産財税を払う必要もなくなり、もともと宗教法人だから所得税も免除されている。このように、宗教法人が経営する墓地は優遇されているのである。

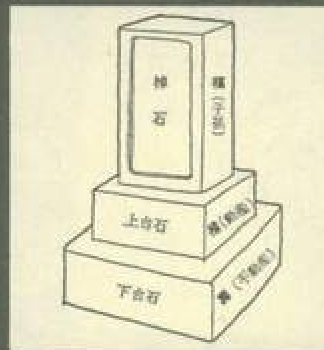
墓地の借地料（昭和五十四年十二月現在）東京都営八王子霊園（芝生墓地のみ）
一区画（四平方メートル）…一一六、〇〇〇円
年間管理料…一三〇〇円
東京近郊の民間（寺院）霊園（広さも各種あり）四平方メートル安い所で…一八〇、〇〇〇～二〇〇、〇〇〇円、高い所で…四〇〇、〇〇〇～五五〇、〇〇〇円。具体例を掲げると。

大阪公営北摂霊園
一聖地（一平方メートル）…七〇、〇〇〇円

市営高槻霊園
一区画（四平方メートル）…三〇〇、〇〇〇円

●墓石の大小

墓石はふつう、三つの部分からなりたっており、下から上へ順に、「下台石」「上台石」そして文字を彫るのを「棹石」という。または、福石、禄石、寿石ともいい、墓相学では、下台石はその家の不動産、上台石は動産、棹石は家族や子孫の健康と深いかかわりがあるといわれる。墓石の大きさは地方によってちがうが、一般的な寸法としては、八寸角（棹石が二十四センチ角）、九寸角（棹石が二十七センチ角）、尺角（棹石が三十センチ角）がある。また、下台石の下にさらにもう一つ石をおいて四つ組とする場合もある。



●墓石の質と色

一般に墓石の色は黒みかげ、青みかげ、白みかげ、最近では赤い石などいろいろあるが、石は硬質で、傷のないものが最上である。石が生きていることが大切で、風化に弱いのは死に石である。

ふつうは、白色系の花崗岩が良質な墓石とされており、清浄な感じを与え、耐久性にも富んでいるからである。有名な花崗岩としては、四国・香川県の庵治石、茨城県の真壁で産出される小目みかげ、稲目みかげなどは最良で吉相とされている。

ついで墓石に用いられるのは安山岩で、この系統の石では神奈川県真鶴の小松石が昔から有名だ。安山岩は花崗岩にくらべてやや暗色だが、耐久力は強いといわれており、静岡県の根府川石、山梨の山崎石、甲州小松などが知られている。

最近の傾向としては、外国産の黒みかげが墓石に盛んに使われている。輸入先はスウェーデン、インド、アフリカだが、値段もこの順である。

外材でお墓を建てる人々は年々増加しており、品質・価格の面で一般向きだからである。

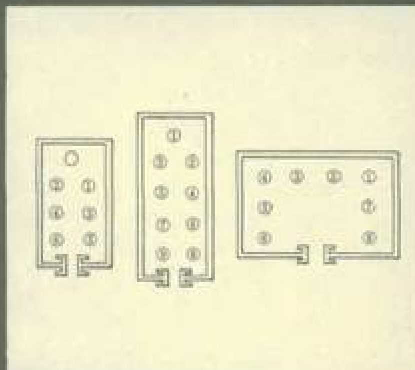
外材が一般に用いられる以前は、黒色系の墓石は主として富士川から東の地域で建てられてきたが、これは産地との関係でそうなったので、つまり、富士川以西では産地が殆どなく入手難だったので、関西地方では黒石の墓石は多くないだけのことで、また、機械加工が発達していなかったころは、仕上がりが汚くなり、仕上げに手間がかかったので、石屋自体が黒石を嫌ったという事情もあるだろう。外材の黒みかげの特色は、均一の地肌をしており、ムラが少なく光沢がよいということと、彫ったさい、字映えがするのも特色である。

●墓石の並べ方

一般に、墓地の正面に向かって右側が上座とされ、この位置に五輪塔などの先祖供養塔がまつられる。あとは順に左に初代、二代、三代…と配列するが、墓地の広さで変わる場合がある。

また、家柄が古いなどで墓地がタテに長く、間口も広い場合や供養塔が中央にあるときは最奥の向かって右に初代、左に二代、また右に三代、左に四代と順次に並べ、一番手前が下座になるようにする。

死んだ幼子や相続しないで死んだ独身男性、未婚の女子のお墓は、一番下座に建て、その石塔は、先祖供養塔に対して直角（つまり横向き）になるように建てる。子どもが可哀そうだからと上座にするのは、よくない墓相とされている。



●墓石に彫る文字

墓石の文字の種類は、ふつう前字（棹石の正面の文字）に名号（南無阿弥陀仏、南無妙法蓮華経）とか、先祖代々之墓、〇〇家の墓と印したり、戒名（夫婦墓や位牌墓）を彫る。

横字（棹石の横面の文字）、また後字（棹石の後面の文字）は、施主名、建立年月日、死亡年月日、俗名、死亡時の年齢などを記入する。石塔正面の最上部に梵字などを彫るが、宗派などによって異なるという。禅宗は、"一切空"をかたどって円寂の"〇"を彫る。真言宗、天台宗は梵字の（ア）という文字を刻む。浄土宗、浄土真宗は、阿弥陀仏をまつっているので、それをあらわす（モリーク）という文字を刻む。日蓮宗では"妙法"浄土真宗では釋という文字を使う。

●お墓に関するタブー

墓地に関するタブー

①お墓のない家

家運の定まらない不安定な家で、子孫と財産が両立しない。各人がバラバラで家の観念がうすく、人に惑わされやすい人間となる。いつも中途挫折なのだ。相続運がなくなり、子どもが親より早死にして孫が相続したり、娘に養子を迎えなくてはならなくなる。

家族の中から精神病者が出やすいとか、長男が家を相続すると破産するともいわれる。

②墓地があってもまつりのない家

先祖のまつりがなく空き家になっているということは、死者を待っている墓と等しいということで、ゲンの悪い墓の代表的なものだ。したがって、家族から死者がでるといわれる。

3)谷間の墓地

病人が出たり、早死にする人が出るといわれる。谷には何でも流れこんでくる。良いことも悪いことも一度に襲ってくる家運で陰気な家で福がこない家といわれる。

4)道のない墓

他人の手助けがないと世に出られないことになる家。他人の墓地を通らないと自分の家の墓に行けないような場合、事業に行きづまりをきたす。また逆に通られるほうの家では、人の出入りが多く、厄介者が出る。

5)一日中陽が当たらない墓地

病人・病弱者に縁のある墓で、いつも弱々しく元気のない人が出る。

6)境界線のない墓地

他人との財産争い、不動産の土地争い、物品の返還争い、近隣との勢力争いを生じやすく、それが結果的に財産を減らす。

墓地に境界がないと、墓地争いを生じやすくなる。墓は家の相続と深いつながりがあるので相続争いが絶えないということになる。また境界がないので、出入りが自由となり、他家の侵入を受けやすく、墓の主棹もなくなり、いつになっても家運が安定しない。

7)分散している墓

施主や長男の住所が不安定で、親にさからう子が出たり、家の中もバラバラでまとまらない。相続人が何人も必要となり、女性は墓で苦労する。

8)変形の墓地

不安定な形状はつりあいを失い、不安感を与える。変形の土地に四角い墓石を建てると、どこかが足らず、どこかが余り、精神が不安になる。家庭内の均衡を失った、家族の心のバランスがくずれた家になりやすい。

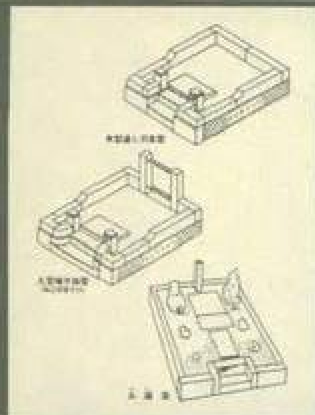
9)鉄など金属の柵のある墓地

世間と隔離するということから、他人が訪問しにくい家庭になり、家運が衰退する。また、不具者や精神病者、刑事問題などで世間に秘密をもつ家となる。

とかく自分だけの世界をつくり、自我の強い人が多いのも、この墓の特徴で、世間体を気にしたり、女性問題でトラブルが起きやすい家でもある。

10)板石、コンクリート敷の墓地

自然の恵みを絶つということは生命を絶つことにつながり、大地をコンクリートで密閉しては、土も死んでしまい、浄化作用の力もなくなり、遺体が土にかえることをさまたげる。よって、跡とりにしている男子が死んだり、子供が出て行って、三代は続かないとされている。でなければ、子供が病弱だったり、男子が育たない家になる。よって、財産もふえず、家庭内での出費がかさむことになる。



11)墓石でいっぱいの墓地

新しい相続の芽の出る余地がない、ということで、家は発展の余地がなく、家運も衰退していく一方である。長男が別居するか死亡またはその土地を離れ移転することになる。

●墓石にまつわるタブー

1)三重台石の墓

墓石の重圧にまける家運となる。少しずつ財産が減り、三代続くと移転、変死、けがなどにあい、主人が世間から見下げられる家となる。



2)台石が土に埋まっている家

家の基礎のないのと同じで、家の存続があやぶまれる。金銭、財産、子孫に不安がつきまとい、財産はふえず、長患いの病人が出たり、一生アパート暮しの家運。また、この場合、親子の愛情にも問題があるとされる。

3)台石が自然石の墓

相続者がなく、金銭に困る。自然は、あくまでも一般庶衆のもので、古代日本人は、自然石に霊力を感じ、神体として崇拝したもので、一般的に民衆のための記念碑などに使うのはよいが、個人の墓には避けるべきである。

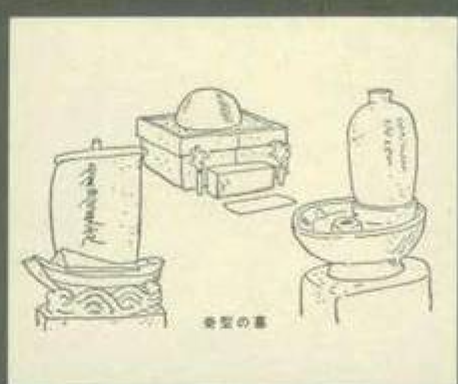
4)棹石が自然石の墓

自然石に戒名や俗名を刻んだ墓は、墓相上、大変よくないとされ、後家や養子になったり、ひどいときは絶家のうき目にあう。病人や精神病者、不具者が出たり、金銭の不足に苦しむともいわれる。とくに、小さな河原石などは、死人が死人をよぶ家となる。

（天災による犠牲者や事故死した人の墓に自然石が多いのは、昔、辻斬りにあった人とか、行きだおれの人とか、変死者のあった場合、仮埋葬して、その怨霊が出ないように、手近かにあって只なので大きな自然石をのせた名残である。そのため非業の死を連想させたり、祭祀する子孫が絶えている無縁仏の墓を思い出させるので、自然石の墓は不吉とされている。）

5)奇型、変型の墓

養子になったり、直系の絶える家となり、父親が早死にして幼年相続することが多いといわれている。また、高慢ちきがいる家でもある。



奇型の墓

6)墓石が割れている墓

けが人や大手術をうける人が出るとか、主人が放蕩で財産を失ったり、大損失を受ける事態が起こる。

7)土中に墓石が埋まっているケース

土中に埋まっている墓石は、たいてい無縁仏だが、この場合、いろいろと不幸をもたらしがちで、特に、この墓石を建物の土台などにつかうと、施主か、または可愛がっている子供が死んだり、刑事事件が起きたりする。家庭内にゴタゴタが起き、変死、急死、狂死などが出て、陰惨極まりない家となる。

8)一つの台石に二つ以上の棹石

軽い不具者が出たり、または、主人以外の人間がその家を支配するようになる。

墓と相続は、切っても切れない関係にあり、こんな場合は必ず二人の権利者が出て、双方が相争うことになる。

9)文字の刻み方のタブー

(1)正面に何々家と刻んだ墓

親子の関係に不安のある墓相で、財産があれば養子相続となり、なければ家は絶えてしまう。墓が大きいほど、無縁となる可能性は大だという。親子が同居できない家運である。

(2)夫の戒名が左、妻のが右にある墓

向かって右が上座、左が下座である。女性が支配する家運となり、後家や、カカア天下になり、女子は強情者になる。女系家族となる典型的な墓相。

●その他のタブー

1)夫婦別々の墓

夫婦がそろって長く生活できない墓相だ。後家になったり、相続人で苦労する。

昔、貴族や武士は側室制で、お墓も別々だったので、その名残といわれ、結婚にトラブルを生じる家が多いとされている。

2)建て方の乱れている墓

家の中にもめごとの多いのが、こうした配列の乱れている墓を持つ家で、親に逆らう子供が出たり、娘が未婚のまま終るか後家になる、カカア天下になるとか離婚するなどのトラブルを生ずる

3生前に自分の墓を建てる

子供が無能力になりやすい。ただし、夫婦のどちらか一方が亡くなっているときは別で、生存中に死後の法要をすれば、七倍の功徳があるとされている。死んだ自分の伴侶とともに墓石に戒名を刻み朱筆を入れておくと長生きする、といわれる。自分が死んで埋葬されるとき、その朱を消す

4兄弟や親戚が同一墓地のケース

相続者としての座がなくなり、自分の墓志ては何もできない家となる。どうしても兄弟や親戚のなかの地位のある者、金のある者がリーダーシップをとるようになり、誰が親の位牌持ちをしたか、祭祀の相続責任者があいまいになってくる

5嫁に行った娘の墓を生家が建てるケース

将来、その娘が出戻りになったり行かず後家になり、つまりなの厄介者をかかえる

6庭に石塔がある家

常に病人が絶えず、不具者が出たり、主人が病弱となる。五輪塔などの石塔は信仰の対象物で、過去の供養の残存念力＝霊力を持ち、こうした野仏や石塔は一種の無縁仏なので、これを庭に放置してはならない

7屋根や笠つきの墓

人間の脳に関するトラブルが多く、秀才が出ることもあるが、脳の病気とか低脳者が出る。笠は、その地位をあらわす封建社会の遺産で、因縁も深く、何事も尊大主義になりがちである



●おくり戒名

亡くなった当時はよかったが、追福追善のために供養塔などを建てる場合に、もっとよい戒名をつけたいとか、父が早死にし、母が子を育ててその子が成功したような場合、母だけによい戒名がつけられ、父は母より格の低い戒名のままであったりしたとき、お坊さんに戒名の昇格をお願いすることになり、あとからつけ直した戒名を「おくり戒名」という

戒名は金で買うものでなく、本来は故人の生前の善行によって授かるものだが、遺族がさし出すお布施に応える意味で「おくり戒名」をもらうことができる

●戒名を彫る順位

先祖代々の墓石は一基でも、祖先を供養しようというときは、戒名を彫らなければならない。戒名がなくては、だれをまつっているのかわからないし、墓石には必ず戒名を彫るのが死者への礼であり、先祖供養でもある。彫るはあいは、向かって右側面より順に彫り、後面へと彫るのが普通であり、このはあい右側が上段で、その面の右側から最初に「為　家先祖代々菩提」と記し、弔いあけ（三十三回忌もしくは五十回忌）のすんだ祖霊はこのなかに含めてまつる。あとは、弔いあけのすまない故人を相続順に彫っていく。夫婦を単位とし、子どもその他も、その順位で並べるが、相続者以外は別の場所に刻む

ただ、死亡の順位と相続の順位は一致しないので、そのはあいは、あとで入れるように空けておく

●死亡年月日・俗名・年齢

戒名につづけて、死亡年月日、俗名、年齢を彫る。なかには俗名だけを並べている墓石があるが、よくない。必ず死亡年月日はいれなければならない

また、神道の墓を除いて、一般には、俗名で祖先をまつることはない。つまりは、いつまでもこの世への妄執を残すことになり、故人も成仏ができない

●施主名と建立年月日

施主名と金を出して墓石を建てた人は必ずしも一致しない。施主とはその家の相続人であり、墓域を供養し、布施をする主人である。建立年月日も同様に、墓石を建てた日時だと思われがちだが、そうではなく、正式には、「維時昭和　年　月建之」と刻印する。これは、無事に葬儀をすませ、相続はもとより、追善供養、納骨と、故人を円満に浄土におくりとどけるというたいへんな事業なので、この事業をめでたくしとげてここに墓石も建つようになりました、ということで、「維時」という言葉が使われるのである。いいかえると、相続人がほんとうに相続したという確定日付けが、建立年月日ということになる

●先祖まつりに不可欠な祭具

1香立て石

死者の枕元で線香をたくのは、死臭を消し空気を浄化するためであり、死のけがれをはらう作法といわれる

お墓にお参りする人が多いほど先祖もよろこぶので、香立て石は線香がたくさんたてられなければいけない。五、六本たてるともういっぱいというのでは、情けない話で、線香が豊かにたっているということは、一族の強大さと家運の隆盛をあらわしている。最初から貧弱な香炉は、未来運も貧弱だということになる

2水鉢

お墓参りしたとき墓石に水をはくが、これは死者のけがれを洗いおとすのである。まず墓石を水できれいに洗ってから、清め水を水鉢にたっぷり満たすようにする

3花立て

切り花自体は、死者のほうに向けず、生者の側に向けて活ける。これは死者と生者が一体となり、相互のきずなを確認しあう意味がふくまれている

4ロウソク立て

ロウソク立てはおいてあっても、風ですぐ消えてしまい、石の上にロウソクをたらして立てるとあとが汚れる。なかには、燈明は不要だという石屋さえあるが、ロウソク立てはお墓に必須の設備である。風にも消えないロウソク立てによって、生まれかわりのために祖先が失った生命の燈明、伝燈相続の子孫が供える燈明の火を絶やさないようにする

5位牌の種類

位牌とは、死者の戒名を表に書き、裏に俗名、死亡年月日、死亡年齢、家族関係などをしるした木牌で、仏壇や寺院に安置してまつるもので、故人の霊の象徴ともいえる

位牌には札位牌とくり出し位牌がある。札位牌とは故人一人用の独立した位牌で、黒塗りのものや金箔のものなどがある。これに対してくり出し位牌とは、ひとつの位牌の中に十枚ほどの板片が入っていて、それぞれに戒名が書きこめるようになっており、祥月命日（死亡年月日）の順に重ねていくことになっている。葬儀のとき白木の位牌が用いられるが、野位牌ともいい、野辺おくりに、喪主が胸もとにかかげて持参することになっている。この位牌は仮りもので、忌明けの四十九日までしか用いず、四十九日が明けたら菩提寺に納め、あとは札位牌やくり出し位牌にして仏壇にまつることになる



●戒名はなぜ不平等になった

元来、戒名は生前であっても、死後、葬儀の時であっても、授戒を受けて仏の弟子となった人の名前である。仏の弟子となれば誰でも、合理的に考えると同じ位の戒名でよいはずであるが、現実的には、戒師に支払う金額の多い少ないによって、戒名の位はつけられている

「地獄の沙汰も金次第」という諺があるが、果たして、現世と死後の世界の橋渡し（？）の戒名でさえも金で差別されるとは、まったくナンセンスな話である　合掌

●戒名の意味

戒名は授戒やおかみそりという帰敬式の儀式をうけ、釈尊の教えに帰依して仏教的名前を戒師や門首・門主から授かるのである

そもそも戒名は二文字で、本来の意味は出家した僧侶や尼僧につけられる名前であり、出家しない一般人にはつけなかったのであるが、時代を経るに従ってだんだんと普遍化されて、一般人でも授戒を受ければ、仏弟子として戒名を授けるようになった

今では二十一文字のものが最もよい戒名とかいわれ、一般では何文字あっても全体を戒名と思い、文字数の多いほどよい戒名というのが一般的である。
さて、戒名は院号、道号、戒名、位号から構成されている。

殿号の場合

殿号	道号戒名位号	
院殿	大居士	男の場合
院殿	大姉	女の場合

院号の場合

院号道号戒名位号
院　　居士
院　　大姉

居士（大姉）号の場合

道号戒名位号
居士
信女

子供の場合

戒名位号
童子（児）
童女
孩子（児）
孩女
水子

殿号
仏教への信心がもっとも篤く、江戸時代には大名、藩士やその夫人、今日では大臣や知事などに準じて、仏教、教団、菩提寺、国家社会等に対して、特に貢献した人に授ける戒名である。

院号
社会一般によい戒名といわれており、殿号に次ぐ位の戒名である。院号は一般人には授けなかったが、時代とともに普遍化され、最近では職業、地位、学識、財産の多少有無に関係なく、請われるままに授けているのが実情であり、大都会では六割以上の人たちへ院号を授けているといわれている。

居士（大姉）号
院号を冠しないのが通例で、篤信な檀信徒のうち、菩提寺への協力の度合い、地域社会への貢献度を検討して授けられる。また宗教的境涯に達している人には、大禅定門（尼）禅定門（尼）などの位号を授けることがある。

信士（女）号
一般の檀信徒に授ける位号で、仏の道に帰依し、仏の教徒を信奉して、生死に関係なく生きようとする男女を意味し、もっとも仏教的であるといわれている。

童子（女）
童児ともいい、四、五歳から十五歳くらいまで（中学生くらいまで）に授ける位号である。

孩子（女）
孩児、嬰子、嬰児、嬰女ともいい、誕生してから、二、三歳までの乳幼児に授ける位号である。

水子
死産の胎児に授ける位号で、堕胎した胎児を供養する水子地蔵はここからきている。

法名
院釈
院釈尼
釈
釈尼
浄土真宗では戒名といわないで、法名という。
浄土真宗では、法外に必ずといってよいほど釈尊の釈の一文字を法名二文字の上に冠し、女性には釈尼と尼の一文字を入れて男女の別をしている。

また戒名を授けるのに経典や祖師の書かれた文を参照したり、親からつけてもらった実名を入れてその人となりにふさわしい戒名を授けることもある。

＊釈尊は印度に四段階の階級制度が確立していて身分的にも社会的にも階級があることを不合理な社会と考え、本来四姓は平等であるべきと考えて『皆出家して釈氏を称せよ』といわれたことに始まる。

●三途の川

三途の川というのは別名みつせ川、わたり川、葬頭川といって、人が死んで初七日にこの三途の川を渡るといわれている。この川には緩急の瀬があり、生前のなり業によって渡るのに三通の別があってこの名がついたといわれる。この三途の川の川畔に脱衣婆がいて亡者の着衣を剥ぎとり、その着衣を懸衣翁が衣服樹の枝にかける。すると罪の軽重に従って枝が下がるという。

●火葬場

東京の場合、公営は瑞江火葬場、民営は桐ヶ谷、町屋、四ツ木、代々幡、堀ノ内、落合、戸田火葬場等である。その費用は次の通りである。

●遺産相続

人が死亡すると相続人に遺産を相続する権利が発生する。遺産には現金、預貯金、有価証券、土地、家屋、書画、こっとう、貴金属、借地権、電話加入権などがある。
又、相続人になる順序と、法定相続分を一覧表にすると表2の通りである。
戒名しかり、葬式しかり、遺産相続しかり人間は正に、ゆりかごから墓場まで、その価値を金銭や物によって問われているかと思うと、せめて死後の世界くらいは、のびのびと暮らせる環境であってほしいものだ。

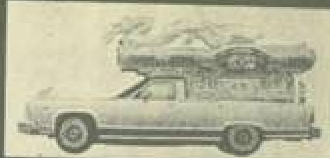
表1　相続財産一覧

財産の類別	財産の種別
土地	田（耕作権および永小作権を含む）
	畑（耕作権および永小作権を含む）
	宅地（借地権を含む）
	山林
	その他の土地
家屋	家屋
	構築物
事業（農業）用財産	機械器具・農耕具
	じゅう器・備品 商品・製品・半製品・原材料・農産物など
	売掛金 営業権 電話加入権

財産の類別	財産の種別
有価証券	株式・出資・公社債・投資信託・貸付信託・受益証券
預貯金	現金・小切手・受取手形・為替など
	預貯金・無尽・金銭信託
家庭用財産	家具・什器・備品・書画・こっとう
その他財産	生命保険金等
	生命保険契約に関する権利
	退職金・功労金等
	年金（定期金）に関する権利
	立木
	果樹
	船舶・自動車
	貸付金・未収入金・その他

表2　民法で定めた相続順位と相続分

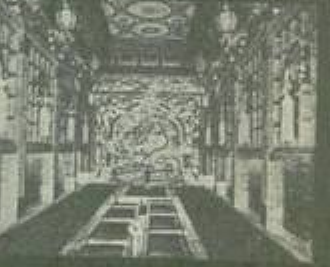
順位	法定相続人	法定相続分
第一位	配偶者と	$\frac{1}{2}$
	子（孫）	$\frac{1}{2}$
第二位	配偶者と	$\frac{2}{3}$
	父母（祖父母）	$\frac{1}{3}$
第三位	配偶者と	$\frac{3}{4}$
	兄弟姉妹	$\frac{1}{4}$


①


②


③


④


⑤

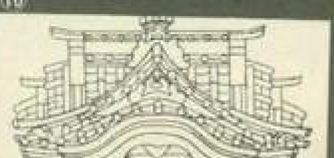

⑥


⑦


⑧


⑨


⑩


⑪

●霊柩者の誕生

1 霊柩車の種別

霊柩車とは、文字どおり遺体をおさめた霊柩を運搬する自動車のことである。葬儀、告別式の会場から火葬場まで霊柩を運ぶ自動車のことを総称して霊柩車と呼ぶ。

図1〜3の写真は、いわゆる霊柩車の写真である。これを見て神社仏閣、または、仏壇を思いおこすひとも少なくないと思う。業界ではこのタイプの車を宮型霊柩車と呼んでいる。

霊柩車の種別は、現代の日本では、バス型、寝台型、宮型の三種類に大別できる。バス型は、文字どおりバスを改装して霊柩を安置できるようにした車であり、寝台型は乗用寝台自動車を遺体搬送用に転用したものである。オーソドックスな宮型は大都市部に多く、バス型や寝台型は地方に多くなる。

宮型霊柩車の製作過程について、まず、図1の宮型は、「米津工房」によって組み立てられたもので、この会社は、宮型霊柩車の製作においては、業界でも最大の規模をほこっている。日本中の宮型霊柩車のうち、七割までがここでつくられている。

図2は、「神宮寺宮型四方破風総黄金造り〈大龍〉」と名づけられた霊柩車である。この車の屋根には「大龍」の彫刻がのっている。さらに全体に金箔でおおわれ、たいへんきらびやかなデザインになっている。この車の値段は、資料によると〈昭和五七年度〉、一三四一万円。もちろん加工費用だけで、エンジンやシャーシの代金は含まれない。

図3は「神宮寺宮型四方破風標準仕上げ」と命名された車である。費用は加工代が四六〇万円。図2にくらべれば、ずいぶん安い値段だといえる。もっとも、そのぶん装飾も簡素だし、金箔もあまり使われていない。

宮型霊柩者のインテリアだが、図4の「神宮寺宮型四方破風金堂造り」は、たいへんきらびやかな内装だが、改装費は同じく昭和五七年の時点で二〇四万円だった。これより安価な仕上げには、図5の「鈴木造り」などは七八万円。いまひとつ、値段はわからないが図6も紹介しておく。尾形光琳の「かきつばた図屏風」をそのまま写した内装である。

日本の宮型霊柩車の七割は「米津工房」でつくられているが、残りの三割は東京、京阪、中京、新潟を除く北陸などの各地方で生産されている。これらの各地には、地元に宮型を組み立てる工場がある。たとえば、東京の「東礼自動車」、名古屋の「名古屋特殊自動車」、金沢の「小林製作所」などである。そのため、宮型霊柩車のデザインは各地方によりずいぶん違うことになる。職人の手仕事であるため、どうしても各地方の郷土色が前面に出てしまうのが面白い。とくに金沢の宮型には、その傾向が著しい。以下に例を掲げる。

四つのローカルカラー

(1)京阪地方

図7、図8、図9は、いずれも京都市内で使用されているものである。それぞれ「白木霊柩車」、「特級霊柩車」、「一級霊柩車」と名づけられている。図7の「白木霊柩車」は、ヒノキなどの白木を素材としてつくられている。外装もペイントなどの加工をほどこさず、白木の地肌がそのままむきだしになっている。京都ではよく見かける。もっともポピュラーな霊柩車である。大阪でも、このタイプが大半を占める。

「白木霊柩車」の製作コストは、先ほどの図2にくらべてさほど高くはないが、京阪地方では、もっとも高級だとされている。事実使用料もこれがいちばん高い。その理由は維持経費にある。白木は太陽光線に弱い。やけてしまいやすく、くすんだ色になるので、年に一度くらい表面をけずっているのであるという。京都ではしばしば、白い布で宮型をおおいかくした霊柩車を見かけるが、白木の地肌を太陽光線から守っているのであって、カバーをはずすのは送葬のときということになる。

図8の「特級霊柩車」。これは紫檀、黒檀を素材としてつくられている。さらに、図9の「一級霊柩車」。これは堅木のうえにペイントを塗って仕上げられている。いずれも、そう多くはなく、利用者は少ない。

図7など「米津工房」製の宮型をくらべると、その意匠は京阪地方のもののほうがおとなしい。一番の違いは金箔類がもちいられないことである。

(2)東京

東京では宮型の多くは「東礼自動車」から供給されている。新宿の三栄町に本社があり、「米津工房」は、この会社から独立した会社なのである。当然、「東礼」の宮型には「米津」に似たところがあるが、全体的な印象は、「米津」の宮型のほうがより簡素である。もちろん、京阪の宮型よりはにぎやかだが、「米津」のものにくらべれば、ずっとおとなしい。

これは地方都市では、大都市よりも、にぎやかで派手なものを好む傾向にあるようで、事実、地方都市を主要なマーケットとしている「米津」は、東京をマーケットとする「東礼」よりはきらびやかな意匠の霊柩車をつくっている。

(3)中京地方、北陸

いずれも、京阪風のところと東京風のところのクロスオーバーであり、関東と関西の中間といった意匠であるが、北陸南部の宮型には、この地方独自の意匠、他地域には見られないようなスタイルもそなわっている。

図10と図11は、金沢で製作されている霊柩車とその設計図である。これは日光東照宮の陽明門を模したものであり、地元では「陽明門型霊柩車」と呼んでいる。「陽明門型」では、唐破風の上に千鳥破風が重ねられており、また屋根には瓦までのせているのである。

金沢は伝統工芸の技術をもっているし、金箔の産出量も多い。そのような「風土的好条件」があったから図10のような宮型ができたという。このように、似たような経過が他地方でもあったと考えられる。大正末期、大阪では、さまざまなタイプの宮型霊柩車をこしらえていた。それらのうちから、各地がそれぞれ好みのものを選んでいく。そして、それが各地方の地方色となる。地方によってはこれをさらに改造させ、独特の意匠がほどこされるようになり、デザインの地方差がでてきたようである。

なお、京阪地方に多い白木の霊柩車については、宮型霊柩車誕生のころからそうだったわけではなく、比較的新しい現象であって、紫檀、黒檀などを素材とし、金箔類をほどこしたものも少なくなかった。

●明治時代の葬送

1 おともらいかせぎ

「おともらいかせぎ」というのは、葬列に加わり、葬式の「引きもの」を手に入れ、それを現金にかえて収入とする。そういう仕事である。「いつ、どこのうちに葬式があるか」ということをさぐり、「帰りには菓子オリをくれるか」どうかを調査する。そのために、子供が使われた。さらに、子供は、次のような点でも、役に立った。図29は、供養菓子を子供にくばる情景である。これは大阪の例だが、同じことは東京でもあった。子供をつれていれば、2人分の引きものがもらえたのである。明治ころには、葬式にたかるだけで生活ができた「おとも

いかせき」などという仕事で生計がたてられたのである。都市の貧民たちも葬式には期待した。葬式にさえむらがっていれば、全日のものにありつけると、明治中・後期の都市貧民たちは、そう考えていたのであろう。貧民たちは、葬式と聞けばたちどころにむらがり、くばりものがなくなれば不平を唱えたり、「罵詈雑言」を放ったのである。

ところで、葬式にむらがるひとたちの要求をいれ、「引きもの」をあたえることは、喪主にとってかなりの負担だった。これら貧民のために千個の員数を増加しなければならず、金持ちならよいが、そうでない場合は、かなりの無理をしなければならなかった。

●葬列の歴史を観る

明治期に葬送の儀式が、よりはなやかに規模を大きくしたものが葬列であり、明治中期には、ますますはなやかで長大なものになった。これには、旧幕時代の大名行列と密接なつながりがあり、以前の大名の供え奴や道中師などが、明治維新と共に大阪へ流れ込んで、何の職もなく葬儀人足になった者が増え、かつての大名行列が葬送の行列に吸収されていった。

図12から図16は、いわゆる「奴の行列」の写真である。大名行列の奴が、葬列をいろどっている。

この行列は、ただ歩けばよいというものではなかった。歩きかたにはルールがあり、またそのルールは、かなり年季をつまなければマスターできなかった。しかし、このようなことは、明治時代の現象であり、大正時代にはいれば、葬列の有様は一変する。

大正時代にはいって、葬列はすたれていったが、その末端は、昭和一〇年代になっても残っていた。また、死体を自動車で運搬するという過激な近代主義にも抵抗はあった。そこで自動車には、葬列を暗示させるにぎやかな装飾がほどこされていく。

霊柩車は、衰弱しつつあった葬列の聖性に致命的なダメージをあたえた。そのことにより、葬送形式を見世物として再編成するには、うってつけであった。

●霊柩電車

明治後期以後の鉄道網の整備により、私鉄沿線に多くの人々が住みはじめたため、人口がどんどん郊外へと移るようになった。それに合わせて墓地や火葬場も郊外へと移されていったため、電車で葬送をおこなおうという計画があった。これが大正時代中期に存在したのである。

京阪神急行（阪急）電鉄千里線では、終着駅に墓場の建設を予定していた。京王電車では、支線をひき、市が「葬儀用電車」を運転する、という計画があったが、いずれも実現はしなかったようである。しかし、名古屋では実際にそれが運転された。大正一〇年頃から昭和一〇年頃までのことであった。尾張電軌（昭和三年から新三河鉄道）が、千早または池上から大久手を経て、東八事に至るまで。のちの市電八事線にあたるところである。大正四年、八事に共同墓地、火葬場ができたのに応じて施設されたものらしい。ここに、その「霊柩電車」の復元図を示しておく（図17）。

●とむらいの諸相

●告別式

現在では、葬儀と告別式は、同じものとして考えられる傾向にある。葬儀と告別式は、本来その性質を異にしており、その起源もまったく違っていた。

明治・大正期の作法書には告別式に関する記述は見られない。告別式という儀式は大正時には目あたらしく、まだ、定着していなかった。それが昭和初期ころからひろく普及していく。昭和八年頃の作法書の中に昭和以後、告別式が普及していく様子が描かれている。

現代は一般に告別式と称し、家族・親類及び親しい間柄の人とだけ別席の上で済まし、別に時刻を定めて知人の告別式を行うことが多く行われている。そしてこの場合には、葬儀を家庭で行い、告別式も家庭で行う場合もあるが、多くは告別式のみ寺院又は斎場で行われるのが例である。

さて以前はどのような形で執り行われたか。

明治三四年に死亡した中江兆民は、告別式によって知己たちに別れを告げていた。おそらく、これが告別式の最初だったと思われる。この告別式では、宗教との関わりが否定されており、聖性をとり除いた世俗的な儀式としてとりおこなわれたのである。その後、中江兆民の死去に端を発した告別式は、しだいにひろく普及する。しかし、それは、大衆への普及過程においては、大きく変貌していった。まず、その葬式場だが、大衆は、わざわざ別会場を借りなかった。彼らの告別式には、知人がおおぜいつめかけるわけではない。自宅で、じゅうぶん事足りた。ために、大衆は、告別式を自宅で執行するようになる。それも、葬儀の直後に、つづけて告別式を行うようになる。つまり、葬儀と告別式が連続した一連の流れの中に位置づけられていく。こうして告別式は、葬儀と混同されるようになる。

●服喪

「忌中」あるいは「喪中」という言葉がある。近親者が死亡した場合、身をつつしみ家にひきこもる。いわゆる服喪期間をさす言葉である。

服喪の風習は、基本的には喪屋生活の遺風である。喪屋の制が転化したもの、あるいは風化したものだといえる。かってのとむらいでは、近親者たちがある期間、遺骸のそばで寝おきをしながら、遺骸とともに忌みこもりをした。墓地のそばに喪屋という小屋をたててそのなかで遺骸といっしょに生活をしたのである。この習俗を喪屋の制と呼ぶ。しかし、こうした習俗は時代がさがるにつれてすたれていき、自宅で喪に服する風習ができ、喪屋の制はいわゆる喪中の風習、服喪に転化していった。

では、いったい服喪は何日ぐらいつづけねばならなかったのか。実は明治初期にこの期間を公式にさだめたことがある。明治七年一〇月の太政官布告による「服忌令」である。これの概略を左にまとめておこう。

続柄	忌	服
父母	五〇日	一三ヶ月
義父母	三〇日	一五〇日
嫡母	二〇日	三〇日
継父母	一〇日	三〇日
夫	三〇日	一三ヶ月
妻	二〇日	九〇日
嫡子	二〇日	九〇日
末子	一〇日	三〇日
養子女	一〇日	三〇日
夫の父母	三〇日	一五〇日
曾祖父母	二〇日	九〇日
祖父母	三〇日	一五〇日
伯叔父母	二〇日	九〇日
兄弟姉妹	二〇日	九〇日
異父母兄弟姉妹	一〇日	二〇日
嫡孫	一〇日	二〇日
末孫	三日	七日
曾孫玄孫	三日	七日
従兄弟姉妹	三日	七日

「忌」は自宅にひきこもり謹慎する期間である。この場合、外出は墓参りのみとなる。「服」は、文字どおり喪服を着用する期間である。つまり、父母が死ねば、五〇日間は外出をひかえ、一三ヶ月間は喪服を着る。そういう布告である。

時代は、しだいにビジネス・ライクになり、宗教うんぬんより、事務が優先されるようになってきた。だから「服忌令」も守られなくなる。そして大正中期には、次のような「忌服中に於ける心得」すら書かれるようになった。

一、食物も仏式にては精神として肉食を為さず、身を精にして仏道を修むることなれば、其の精神よりして美食等を為さざること

一、衣服類は、華美ならざるもの用ひ、随って髪飾を用ひず、仮令白粉を用ふとも、紅を用ひざること

一、神社に詣です、物見・遊山其の他祝宴等の席は遠慮すべく、又頼親・結婚等を為さざること

●葬送ドラマのクライマックス…

通夜

通夜は、遺族らがひと晩だけ、生前同様に遺骸とつきあい故人をなぐさめることをいう。通夜もまた、喪屋生活が世俗化したなかで生まれた風習のひとつだといえる。もともと通夜は故人や遺族とごく親しいひとだけでおこなっていた。告別式のように、一般会葬者などを予定していたわけではない。昭和初期からその性質が変貌しはじめたようである。近親者に限定されていたものが、オープンになりだしているのである。さらに、現在では通夜が葬儀・告別式に代替しうるものとして意識されている。葬儀告別式が混同されただけではない。告別式と通夜までが同じあつかいになってきている。

通夜は本来の性質が変容してきた。もともと、葬儀と通夜はそのお勤めがことなっている。通夜は、喪屋生活の転化したものであり、葬儀とは動機を異にしていた。また、

その独特時間も変わっていた。夜どおしでおこなうことが、少なくなってきたのである。こうなると、もはや、夜を過すという本来の意味でなくなったといえよう。

●喪服

喪屋生活という風俗が転化したかたちで、服喪という風習が成立した。喪屋を捨てずに自宅で忌みごもる風習である。実は、この忌みごもりのさいに着用する衣服が喪服であった。喪屋で着用する、あるいは服喪中に身につける、そういう衣装であった。

喪服をまとうのは「忌服を受ける」ひとびとだけであった。つまり遺族のみが、喪服の着用を義務づけられていたのであり、一般会葬者にはそのような義務はなかった。

喪服は「身分の貴い」ものだけが着た。しかし、それ以外は「羽織袴、或は洋風の礼服」を着るようになってきた。喪屋の遺風は、かろうじて、葬儀の喪服となって残存していた。それが、明治期を通じてくずれていき、明治期には、上流階層のみが喪服を維持するといった状態になる。おそらくここにも、とむらいが世俗化していく過程が読みとれるだろう。礼服は、葬儀のためだけではなく、**儀礼全般**にもちいられる装いである。それが、**服喪の装束にとって代わっていった**。喪専用のいでたちをおしのける。**脱聖化**。**喪の解体**は明らかであろう。

ところで、遺族たちは、明治期をつうじて喪服から礼服へとその服装を変えてきた。では、一般会葬者たちは、どのような衣装で参列していたのか

会葬用に特別な服装を指定してはいなかったが、ただ、**華美ないでたちをいましめているだけであった**。喪服うんぬんという議論も見られない。どうやら会葬者にたいしては、衣装に関する**一定のルールはなかった**ようである

しかし、大正後期から昭和初期にかけて、大きな変化がおこる。一般会葬者も、いわゆる礼服を着用すべきだとしだしたのである。以後、戦時中の一時期を除き、この傾向は変わらず、基本的には、会葬者も礼服で参列するものだとされるようになった。

現代の葬儀では、一般会葬者も、しばしば喪章をつけることがある。男性ならば洋服の左腕に**黒い紗の腕章**をまき、女性なら**胸に黒いリボンをつける**。とくに「**平服で告別式に参列する場合に喪章をつけるよう**」になっている。しかし、喪章も、元来は一般会葬者たちが身につけるものではなかった。

医学的死

●価値を失ってしまった人間の死

植物人間という言葉はここ数年のうちに耳慣れたものになった。現代医学の進化は、つまり**最後の自由**だった死をも人間から奪おうとしているのだろうか。恐怖も感覚も思考も、言葉も持たない生の在り方。誰も否定もしようとしない。**禁忌**として、離れてはいけない領域として、本能的にこの問題には触れようとしない。これが現状だ。ただ、ひとつだけはっきりしていることとは植物人間とは人間としての存在価値を全て失ってしまったただの物体にすぎないということである。彼らは生かされているだけで生きているのではない。さて、もともと人間という個体の死は瞬間的に全組織が死ぬというような、極端な事故死の例を除いては、点としてとらえることのできない、**連続的なもの**であろう。**死はすべての生命機能の永久的停止である**と定義するのは簡単だが、確実な点としてとらえようとすれば容易なことではなく、結局、肉体の腐敗にまで辿りついてしまうだろう。だから人間は長い間、個体としての生命が一度とよみがえることのない時点を呼吸の停止とか、心臓の拍動の停止とかで経験的にとらえて、死としてきた。**三徴候死**は慣習として定着し、近代医学にも導入され現代まで続いている死のとらえ方である

■**三徴候死**とは、**肺・心臓・脳**という三つの器官の**不帰**の点を、呼吸の停止、心拍の停止、**瞳孔散大**(対光反射消失)という徴候でとらえ、その全部がもはや元に戻らなくなった時点を死とするとらえ方であり、いわゆる「**心臓死**」である。瞳孔散大とは瞳孔が開きっぱなしで、光を目にあてても小さくならない状態のことで、こうした生理的反射の消失は脳に残された最後の機能の停止した証拠であると、早くからとらえられていた。現在も、医師が「**御臨終です**」という時はこの三徴候によるが、ICU(集中治療室)など、生命微候監視装置のついたところであると、同じ微候死であっても、たとえば心電図にあらわれた波型の完全消失を待って死亡時刻を記録するので、聴診器による場合より**十分くらい遅れる**ことがある。つまり断続的に死んでいく肉体を医師という第三者に観察されながら(だってその時点での我々は単なる肉の塊りにすぎないのだから!)生命を消失していくのだということを改めて認識してもよいのではないか。宗教が、思想が死を修飾し昇容しようとする。イメージとしての死は我々に時として甘美なロマンとエロチシズムを提供してくれる。多くの諸君の持っている死の観念はみなそういったものだろうが、しかし**肉の塊りに帰結するものが死**だという現実は、絶望と不安しかあたえてくれない。それでも死を完結しえた者はまだ幸福かもしれず、限りなく無と死に近い、生という檻に閉じこめられてしまうことの恐怖と不安のほうがそれよりまさると思われる。

●**断続的な死―死が確定するまでに**

有機的に統一された生物個体としての人間の死は、健康な状態からその個体を構成する細胞がすべての機能を喪失するにいたる間の一連の過程と表現できる。この間において、まず心臓拍動と呼吸運動が不可逆的に停止したときに、その人の社会構成単位としての生活生命が絶え、**個体の死**(Somatic Death)が招来されたとみなすのである。しかし心臓拍動と呼吸運動が同時に停止することは実際にむしろ稀なことで、呼吸運動の停止が先行したり心拍停止が先行する場合が多く、前者を**肺臓死**、後者を**心臓死**と呼んでいる。いずれにせよ**循環と呼吸が不可逆性に停止**すればともなって脳中枢の機能も当然失われることになるが、**脳幹部**にある呼吸や循環の中枢に重大な一次的障害がおこれば、その結果として心拍動と呼吸の不可逆停止を招くこともあるわけで、さきに述べた心臓死や呼吸死と同様の意味で**脳死**が先行する場合も考えられることになる。心拍動と呼吸運動が停止し、個体死と確認されても、全身の機能を停止するわけではない。また細胞が同時にその機能を停止するわけではない。また細胞の種類によっても死滅進行が異なる。ちなみに脳細胞はもっとも早く死滅するが、腸の蠕動運動、精子や白血球の運動、筋肉内の機械的ないし電気刺激に対する興奮性などは、個体の死後も数時間以上残っている。(**超生体反応または超生** Supravital—reaction)時期と経過とともにやがてこれらの機能も消失し、ついにはすべての細胞が完全に死滅して**細胞死**(cellular death)または**分子死**(molecular death)にいたる。以上の経過の間に死体の冷却、乾燥、死斑、硬直などの死の徴候が順次あらわれてきて、死は確定的となるのである。

我々の意識できるのは死に至る苦痛と不安と虚無とわずかな意識の続きえる限りまでであり、以上の経過から論ずるのは、人間は**死のイントロダクション**だけしか知らないという**驚異**である。

■人間は己れの肉体の消滅を感知できぬ運命にある。いや、生命体の運命といえようどこからどこまでが生であり、(つまり限りなく死に近い生)どこまでゆけば完全な死にするのか? 医学的にみた現状での死の定義は、ほぼ、生命保持上重要な器官―脳、心臓、肺臓―の永久的不可逆的機能停止を根拠にすえ、人工的処置を加える場合は脳活動の永久的停止をもって死とするとの見解もあった。

●死亡認定の根拠(死の徴候)については

(1)中枢機能停止の指標として

(a)意識及び刺激に対する反応の喪失

(b)各部反射の消失(特に角膜及び瞳孔反射)

(c)脳幹部の消失(証明可能ならば)ただしこれは(b)によって一部表現されると解されるが、脳皮質脳波の消失では充分とはいえないとしている

(2)循環機能停止の指標としては心電図検査を考慮しつつ

(d)心拍の停止(15~20分持続)

(e)心音停止

(f)血圧消失(人工的維持不可能)

(3)呼吸機能停止の指標としては

(g)呼吸停止(15~20分)

(4)その他の死体現象として

(h)死斑の出現

(i)死直後の筋肉の完全弛緩と、それにつづいておきる死後硬直発現

等を指摘している。結局のところ、現在の医学水準では、やはり心拍動と呼吸の永久的停止をもって死の判定規準とする以外に道はなさそうであるが、将来、脳の不可逆的機能停止を明確に判定できる手段が解明されれば、**脳死の概念**も死の判定規準として公認されてしかるべきものと思われる。



●**生命維持機構(装置)―シュミレイトされる肉体**

人間がその生命を続けるためには、少なくともエネルギー源の摂取機構、呼吸機構、体内物質の運搬機構および代謝終末物の排泄機構がとどこおりなく営まれていることが前提となるが、これらの諸機構が阻害され、その役目を果たしえなくなったとき、その機構をシュミレーションして人工的に作成した機器を用いて、一時的あるいは長期的に代行させるのが**人工臓器**である。**生命維持装置**とは広義にこれらの人工臓器を

ふくめて、生命維持に不可欠な機能を機械的に代行ないし補助する装置をさす。実用段階にあるものとして人工心肺、人工腎、人工呼吸器、人工心臓、人工ペースメーカー、人工腎臓（人工透析）などがあるが、狭義には部分的機能を代行するペースメーカーや間欠的使用でこと足りる人工腎臓などは除外され、臨床的には循環ならびに呼吸機構のように継続的な運転が不可欠な装置に対する呼称である。部分的とはいえ人間の肉体のマシニック化は現実にここまですすんでいるということ。しかも生命に直接関わる中枢機能を機械で代行させるというのは現在の日本人にとってはまだ抵抗がある。こういった人間自体のメカニズムに関する研究はすべて欧米の方が優っている。国民性・死生観の違いであろうか。きわめて短期間に急激な工業化と近代化をはたした日本ではあっても、その表面的な合理的思考とは裏腹に、日本人の精神的構造の深層には古くからの原日本人的な思想ないし死生観が依然として存在しているとの視点から興味ある見解もある医学者によって提出されている。日本における腎臓移植は移植手術にはまったく遜色がないのに欧米に比していちじるしく少ない。また腎の提供者（donor）の内訳をみると、日本では血縁者が85%で、このうち両親が64%、同胞が24%。死体腎移植はわずかに11%にとどまる。これに対し欧米では70〜80%が死体腎の移植で、提供者も非血縁者が少なくないという。これらの理由を考えるに欧米（特にアメリカ）では個人の意識は強いが、公共への連帯意識も強く、他者に腎を提供することを隣人への奉仕であると考えるためであるとしている。これに対し日本では死体腎を忌み嫌うと同時に、親子関係、特に母子一体感が強く、自分の子供を自分とは別の人格に考えにくい感覚が、腎提供を親子間で高率にしているゆえんであり、他方このような親子の強い一体感が、自殺の[illegible]としての心中においても、容易に親子心中ないし一家心中の形をとる傾向が強く、この腎移植に対する感覚と、親子心中の心理は日本人の精神構造ないし死生観念に共通の根元を求めることができるのではないかということである。

■ところが、そこへ人工呼吸器が登場して脳が死んでいる場合にも呼吸や血液循環が可能となり、ここに脳死という問題が浮上したのである。人工呼吸器がなければ、脳死に続いて直ちに心臓死がくるので、脳死状態は保たれない。そこでは、脳死が特に問題にならなかっただけのことで、脳死そのものは、人類の発生と同時にあり得たわけである。脳が完全に死ねば、呼吸中枢も血管運動中枢も死んでしまうから、肺も心臓も、その運動を停止する。こういう場合ふつうの順序としては、まず肺の呼吸運動が止まり、肺から酸素を送りこまれて血液自体ポンプの働きをしている心臓が、その動力源を断たれて止まるという形になる。ところが人工呼吸器をとりつけ患者の身体の状況に合わせて、呼吸の量、回数、吸入する酸素の濃度などをよく調節した空気を肺に送りこめば、心臓は今までどうりに動き続け、脳を除く全身の血液循環が保たれるので、他の臓器は生き続ける。では脳死した人は、人工呼吸器により呼吸を代行してもらってさえいれば生き続けるのかというと、通常はそうではない。多くは一日か二日、延びても、せいぜい十五日以内には心臓もまた、死ぬという。

●脳死─管理された生命〜価値持たぬ肉体

脳のしくみをここで説明しよう。脳死の問題に触れる前にいくらかの予備知識は必要だと思われるからだ。メカニックとしての脳の構造を以下に説明する。まず脳とは─**脳幹**、**大脳**、小脳からなっている。脳と脊髄を合わせて**中枢神経系**とよび、それぞれ頭蓋骨と脊骨の中におさまっている。これらの骨と脳、脊髄との間には三層の膜があり、これを**脳脊髄膜**（髄膜）という。さて脳膜には表面から順に、骨の下にある**硬膜**、中間の**クモ膜**、脳、脊髄の表面に密着している薄い**柔膜**がある。クモ膜と柔膜の間は無色透明な**髄液**で満たされている。脳の中には一定の形をした**脳室**という空洞があり、これも髄液で満たされており、これらの髄液は互いに交通している。中枢神経系の働きは、脊髄、脳幹、小脳、大脳という順で高度になっていく。大脳は左右一対の大脳半球からなり、ここには、視覚、聴覚、触覚等、感覚の中枢や、運動中枢があり、記憶、感情、思考に関与している。大脳は各部分によって役割分担をしており、たとえば、**大脳皮質**という脳の一番外側をつつむ神経細胞の層は、知的判断や、高等な精神活動の場であり、また、**大脳辺縁系**とよばれる内側の進化論的に古い部分は、喜怒哀楽のような情動をつかさどっている。小脳は大脳の運動中枢を助けて、**随意運動**をより正確で円滑なものとし、姿勢の保持等を受けもっている。大脳と小脳の間、頭蓋内の中心に、縦に長く、脳幹がある。脳幹は**中脳**、**脳橋**、**延髄**とよばれる部分からなり、大脳の運動中枢の命令を脊髄を経て手足に伝える**下行性神経路**、**また逆に手足や内臓からの知覚を脊髄を経て大脳に伝える上行性神経路**の通路になっている。そこで、こうした脳幹の中の通路が損傷を受けると、意識があっても大脳の命令は手足に伝達されず、手足は麻痺状態となるし、また手足の知覚は大脳に伝達されず、手足の感覚がなくなってしまう。脳幹は顔面や耳、鼻、舌、咽頭の知覚や、聴覚、平衡感覚、味覚等の情報を受け入れて大脳に伝え、そして眼球の運動や、物をかんだり、飲みこんだり、声を出したり、というような運動に関与している。さて、こういった脳のメカニックを踏まえた上で、脳死と、その判定の具体的基準について話をすすめることにする。

■〈脳幹の中心部を占める部分に、**脳幹網様体**と呼ばれる部分がある。脳全体を自動車にたとえた場合に、エンジンに相当する部分がこの脳幹網様体である。知覚や運動に関係した部分は脳幹の周辺部にあるのに対し、エンジンに相当する生命中枢ともいうべき脳幹網様体はその芯にあたる中心部を占拠している。さて、この脳幹網様体は、大脳全般にその神経活動単位を投射して、大脳機能に活力をあたえることによって意識を保持するというきわめて重要な働きをしている。この意味で上部脳幹網様体は「**上行性網様賦活系**」と呼ばれている。ここは同時に眼球運動と関係しており、かつその中脳一部には瞳孔反射の中枢もある。この上行性網様賦活系が破壊されると永久に意識は出ない。どんな強い刺激をあたえてやっても意識が出ない状態を**昏睡**と呼んで、正常人の睡眠と区別している。……意識のない患者の頭を左右に動かすと、眼球は反対方向に動いてあたかも正面の一点を凝視しつづけているようにみえる。この現象を「**眼球頭反射**」などと呼んでいる。頭が動かされたということは、内耳の中の平衡感覚器で感じられ、これが前庭神経を介して眼球運動に関係した部分に伝えられ、このような特徴のある眼球運動を引き起こすのである。したがって**内耳**や**前庭神経**が両側とも破壊されても、この反射は消失するがそのような場合はきわめてまれであるので、この反射の消失は上行性網様賦活系の機能をみる便利な検査の一つといえる。したがって、たとえ患者が昏睡状態であっても、**瞳孔反射**、**眼球頭反射**、**温度眼振のいずれかひとつでも残っていれば、上行性網様賦活系は未だ完全に死滅したとはいえないのである**〈クリストファー・パリス『人間の死と脳幹死』医学書院・植村研一訳　より〉

■**脳を流れる血液の量は、心臓の拍出量の5分の1にあたる**。脳の組織の重量は体重の**ほぼ50分の1**にすぎないという事実をみると、いかに多くの血液量が脳に対して供給されいかに多くの酸素がここで消費されているかがわかる。脳の血液量は通常は一定に保たれており身体の他の部位の血液量が変わっても脳の血液量は常に一定に保たれる。局所的には血流の違いが起こるが、脳全体としての血液量は**精神活動時も睡眠時も同じ**だという。ところが頭部外傷による**脳挫傷**、そして**脳腫瘍**や**脳血管障害**が起きると、容積の限られている**頭蓋腔**の中で**脳浮腫**が進み脳腫や血腫が拡大すると**頭蓋内圧**が高くなり、この内圧が血圧よりも高くなった場合、血液は頭蓋の中へ流れこめなくなってしまう。結果的に脳組織に**血流不足**、**酸素不足**がおきる。ついに組織は機能しなくなりやがて全脳細胞は死にいたる。以上が具体的な**脳死のプロセス**であるが、さきほど引用した部分は上部脳幹網様体に関する機能及び内的の説明であるが、これに対し**下部脳幹網様体の主な機能は、呼吸と血圧の維持であり、正常な呼吸運動を維持するためには他の部分の働きも必要だが、ここさえ生きていれば一応、息をしていられるわけだし、血液の循環機能も維持されていくため、いわゆる植物状態**で生命を保つことになる。

●植物人間の誕生〜、倫理と論理の狭間で途方に暮れる人間達

生命維持装置で生きている患者は「**生きている**」のか「**死んでいる**」のか。これを断言することは冷静にいえばできない。代わってこれを限りなく死に近い生の姿である、と表現するのが適当であろう。医学用語はさらにこの状態を**最も適確に**、**最も残酷に**「植物人間」と表現した。一日でも一分でも一秒でも生命を延長させることを至上命令と考えてきた医療の立場からみれば「植物人間」はまさに**科学の勝利**ともいえようが、それはその人間に死をあたえるよりも**もっと残酷な仕打ち**であることにも気づかざるをえなかった。回復の見通しのたたない**植物人間の生命維持装置を何時とりはずすか**。とりはずすのは「**安楽死**」ではないか、とする疑問も当然ながら論議されている。しかし現在のところ、植物人間は**特殊人工臓器的維生状態**であり、それを中止することは死をひきおこす（causing）極論してしまえば他殺！）行為として区別すべきとの理念も提起されなお安楽死論はなじまないとの見解がこの問題に断決の方向を見出しているという。死ぬ意志も生きる意志ももたぬ人間の生命を**他意志の力で停止させてしまう**行為を「**良心**」**であり是認すべき**だと世論は簡単にいいきってみせるが、もしあなたが自分の近身者、友人、恋人のそういった現場に遭遇して、**看護**として生命維持装置を取り外せるかどうか？　「**むしろ自然に生命が断たれてしまったほうがよかった**」と苦しみ嘆くだけで、次の行為には容易に移れるものではないはずだ。死という自然を本能の帰結するサンクチュアリへ投入し、征服を試みた**人間の敗北の証明**が植物人間なのではないだろうか？

第2弾

" A FAREWELL TO ARMS "
 - A JAPANESE PUNK COMPILATION (BEL-12003)

4/25 発売 ¥2,800



リップクリーム,
ガーゼ,
グール,
オート,
エクスキュート,
ガスタンク

6バンド 17曲収録

SELFISH RECORDS は,
レコード店ではありません。
数多く存在する
INDEPENDENT LABEL の一つです。

第1弾



CHAOS UK 発売中!!

" JUST MERE SLAVES " (BEL-12001) ¥2,000



GAUZE 発売中!!

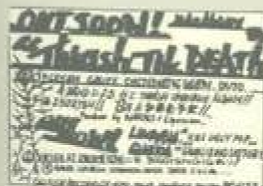
" EQUALIZING DISTORT " (BEL-12002) ¥2,000

GAUZE LIVE SCHEDULE

4/18 目黒鹿鳴館
5/ 3 名古屋ハックフィン
5/ 4 浜松ホットレッグス
5/11 新宿ロフト
5/18 目黒鹿鳴館 [消毒ギグ]
9バンド ¥500
5/24 大阪エッグプラント

MORE COMING SOON ……

オフマスク 00
JAMES WHITE & THE BLACKS / MELT YOURSELF DOWN (from NYC)
SYSTEMATIC DEATH /
THRASH TIL' DEATH / THRASH BAND COMPILATION
THE EXECUTE / SOULS OF WOLF 12"
LAST BOMB / RETRO FIRING
THE GHOUL / NO * COMMENT



* 通信販売は現金書留か郵便為替にて送料¥500(1枚増えるごとに
¥100増)を加え,下記までお送り下さい。

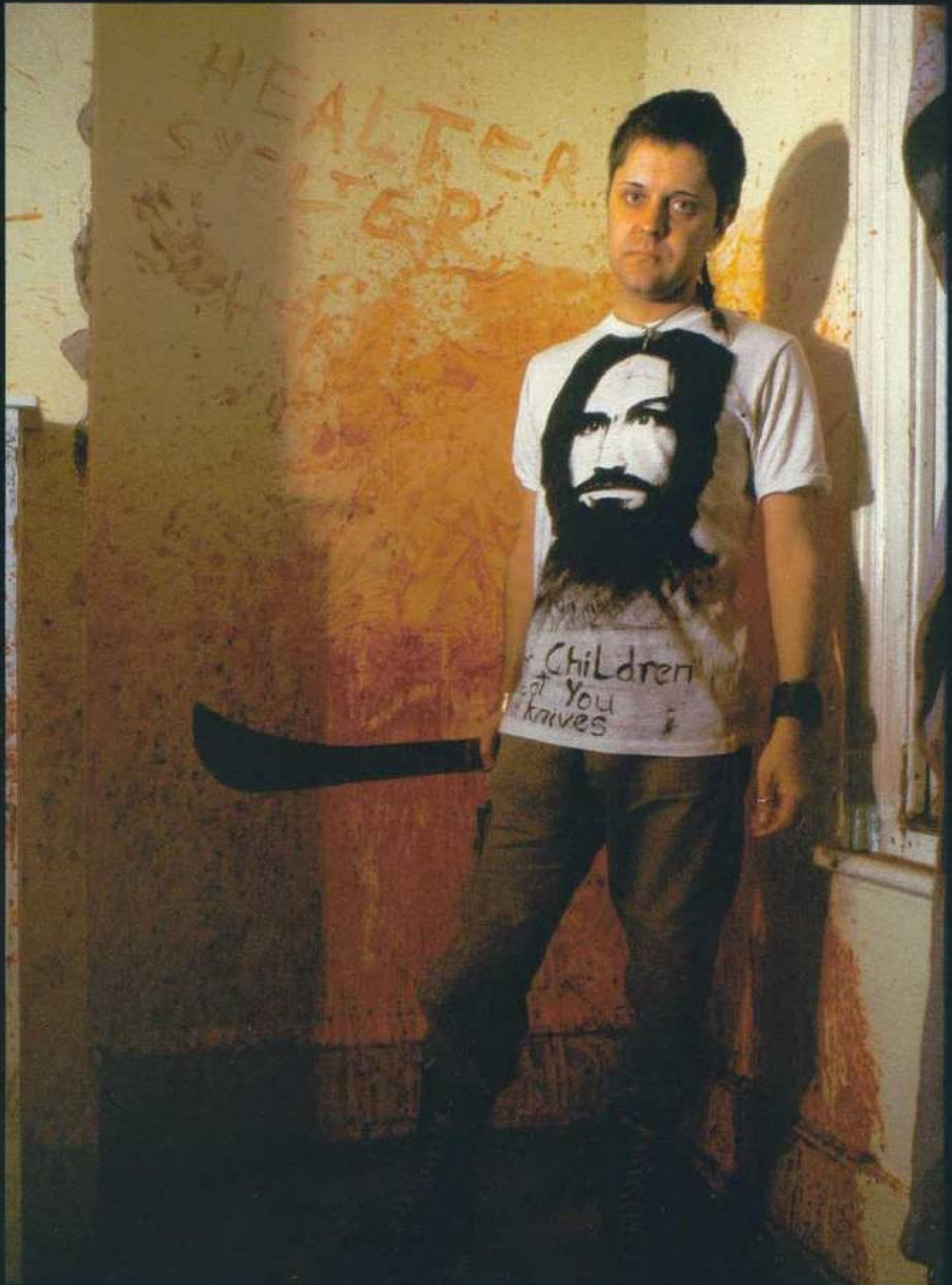


SELFISH RECORDS & MUSIC INC.

〒107 東京都港区南青山4-8-20 マック青南マンション401
☎ 03 (479) 7418

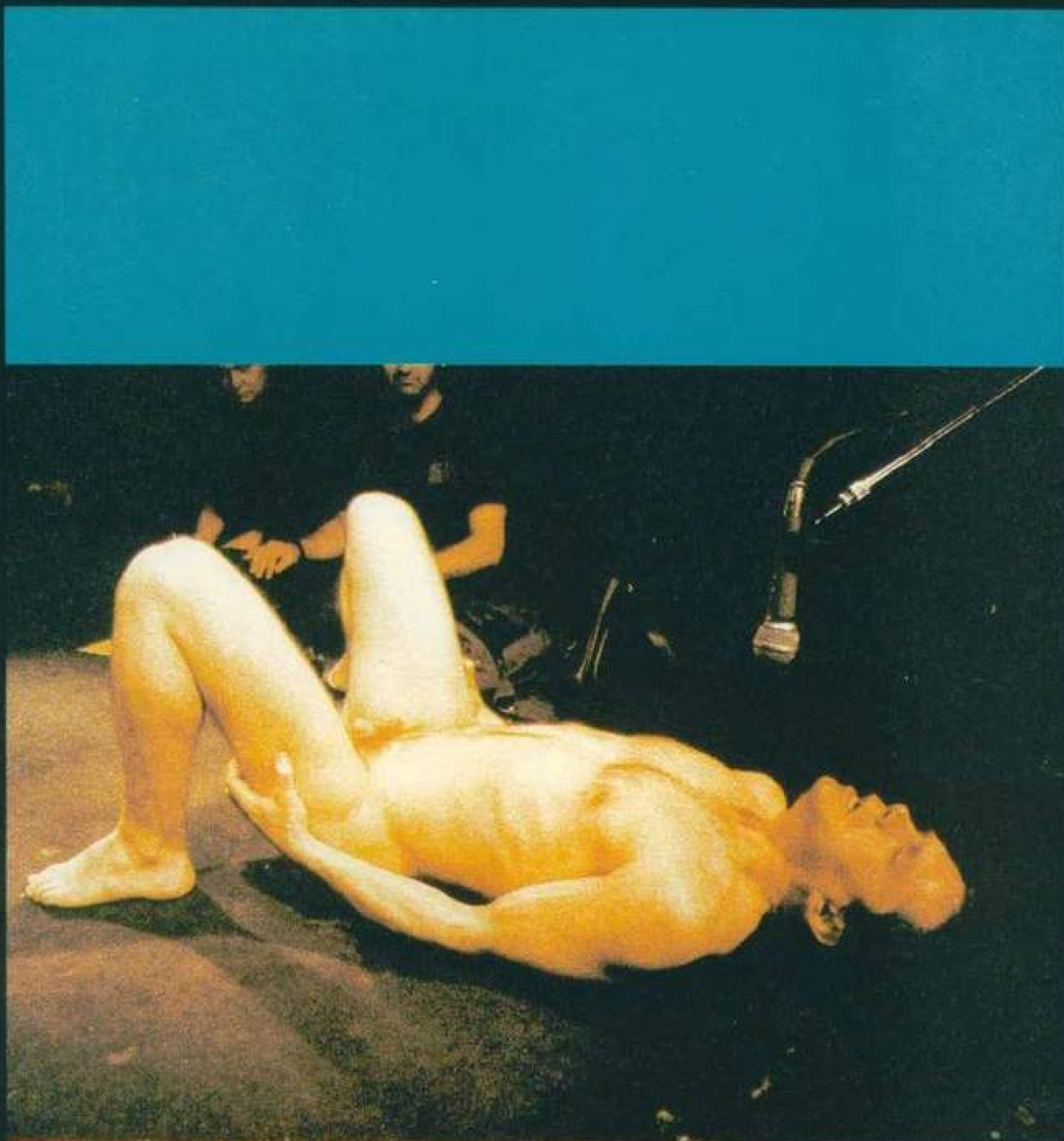
PSYCHIC TV

PHOTO:P·T·V



JOHN DUNCAN

PHOTO:Y・TANIGUCHI



SIGNAL

P.P.P PRESENTS

ANARCHY VIOLENCE

G.I.S.M. VIDEO VOL.2
"BOOTLEG·1986"

AT FINAL WARS 1. JAN. 86

4.20 ON SALE

LIMITED EDITION 100 COPIES

予約 UK・EDISON 03(369)3708他

GISM VTR "G.I.S.M" 限定発売中 UKエジソン、フジヤマ、オールディーズにて取扱中

P.P.P. PROJECT 〒151 渋谷区笹塚1-12-16 シティ・ライフ笹塚101号 TEL.03(469)6453

DEATH INTERVIEW
デス インタビュー
民族・祖国・自決
PLO

Translate by : Kenichi Takeda

Q　PLOについて簡単に説明してください。

A　本当に切りつめて、しかも簡単な言葉でいうと、以下のようになります。1948年に、パレスチナの人民は追いたてをくったのです。自らの国を去ることを強いられたのです。当時、イスラエルはパレスチナ人の土地の上に建国されました。それ以来パレスチナ人は、世界中に散りぢりになりましたが、主にパレスチナと隣り合うアラブの諸国にです。アメリカ合衆国に住むパレスチナ人も多く、一部の者は、アメリカ国籍とパスポートを持っていますし、大学で教えたり学んだりしている者もいます。追いたてられて以来、パレスチナ人達と民族自決を確立するために、組識化に努めてきました。そして祖国の地で、20年以上も前にPLOは結成されたのです。PLOはパレスチナ人の諸勢力を結集する統一戦線です。もちろん報道メディアは、われわれの活動をテロリストということもあります。私たちは武装闘争といっています。この二つの表現の間にはいささか違いがありますが、武装闘争も含むあらゆる手段で祖国を回復することは、われわれの権利だと信じています。PLOの内部ではテロ活動に反対していますが、占領者に対抗してとられるいかなる手段も、われわれは全面的に支持します。占領地域での武装闘争も含めてです。それは国連憲章にも直接的あるいは間接的に書かれている私たちの権利の一つなのですから。ジュネーヴ会議をはじめとする国際会議や国際的な宣言でも、占領下にある人民が占領者に対してあらゆる手段を使って抵抗する権利を認めています。私たちがしているのはそういうことです。私だってテロリストではありません。この（駐日PLO）事務所にはマシンガンは置いてません。見えないでしょう。私たちは日本で平和的に活動しています。もちろん70年代には、一部のパレスチナ部隊の行動を経験しました。飛行機のハイジャックです。その結果、パレスティナ人とPLOはテロリストだといわれはじめました。われわれはテロ活動に反対していますが、同時に、なぜ彼らが絶望的になったパレスティナ人があいう行動を取ったか、十分に理解できます。イスラエル政府がサブラとチャティラの難民のキャンプに対して行った、組識的なテロリズムはいったい何ですか！

Q　メンバーの自発的死についてのPLOの立場はどうなってますか。

A　第一に、殉教精神は世界中の諸民族に伝統的に受け継がれています。第二に、誰も好きこのんで死ぬとは思わないでください。誰だって死にたくはない。母親は息子や夫の死体を引き取る際、歌をうたい、踊りもします。そして他人が弔問に来ることを拒みます。でも、それが心から出たものだとは想像しないでください。

Q　あなたは死についてどんな個人的体験がありますか？

A　あなたがベイルートに行ったことがあるか知らないが、行ったことがない？　じゃ想像できないですね。ここではナイ





トクラブで踊ることもできるが、あそこでは20メートル先で戦闘が行われている。あなた方は戦闘など気にせず踊りつづけていられる。私たちが会議をしていると、たった10メートルのところで、戦闘の音が聞こえる。でもそれを恐れてはいません。通りを歩いていると爆弾が炸裂する、といったこともしばしばです。一緒に歩いていた人が死に、自分だけ生き残ったり。10メートルも離れていないところに砲丸が落ち、車が燃え上がる。狙撃者がいることもしょっちゅうです。頭の上の弾が飛ぶのが聞こえる。たぶん10センチほどのところをです。しかも銃弾の値段は50セントもしない。人間の値段は銃弾並みです。

Q　そのような体験は、あなたにとってどういう意味を持っていますか。

A　何よりもまず、私も人間です。だから血をみるのは気持ちよくない。街で交通事故を見かけたりしても、直視できません。顔をそむけてしまう。助けたいと思っても、顔をそむける。その光景を見るに耐えないからです。そんな光景を毎日目にすることを想像してごらんなさい。それも自動車事故とかたまたま起こったことではなく、自分の民族に対して実際に、組織的に加えられているテロリズムによってなのですよ。ときには、切り落とされてしまった頭とかを見ることがあります。ひどい光景です。でも、ときには、そんな体も生きていたら、病院に運ぶ勇気が湧いてくる。

PLOが出発したときから今日まで、私たちの道のりは長い、長征になる、とわかっていたしわかっている。敵は小物ではない。頭がよくずる賢い。最新の、精密な武器を使っている。だから、われわれの行く手が短くないことはわかっています。けれども、私たちは目的に達するまで歩みつづけます。



INTERVIEW : PLO
Interview by John Duncan

Q : Could you explain briefly about the PLO?
A : Very briefly, and in simple words, I would like to say the following. In 1948, the Palestinian people were expelled. They were forced to leave their country. At that time, Israel was established on the homeland of the Palestinian. Since that time, the Palestinians were scattered all over the world, mainly in Arab countries neighboring to Palestine. There are plenty of Palestinians who are living in the States, some of them with US nationality and passports, others are studying or teaching in universities. Since they were expelled, they tried to organise themselves, for exercising their human right, selfdetermination, in their homeland. More than 20 years ago, the PLO was established. The PLO is the front which is gathering all the Palestinian forces. Of course, sometimes some press media say the activities of the PLO are terrorist activities. We call it armed struggle. There may be some slight difference between the two expressions, but this is what we believe: that it is our right to recover our homeland by all means, including the armed struggle. In the PLO we are against all terrorist operations. But we are fully supporting using all means against occupier, including the armed struggle, inside the occupied territories, which is one of our rights which is written directly or indirectly in the United Nations Charter. In Geneva Convention. They gave the right for the people under occupation to exercise by all means their resistance against the occupier. So this is what we are doing. I am not a terrorist, there are no machine guns here in the office-do you see any see any machine gun? — we are working peacefully in Japan. Of course there were some experiences with some Palestinian forces in the '70's, they hijacked some planes and accordingly they start to say that the Palestinians and the PLO is a terrorist. We are against terrorist activity but at the same time we understand fully why these desperate Palestinians are doing this. What about the organised terrorism of the government of Israel against Sabra and Chatilla refugee camps?

Q : What is the PLO's position about voluntary death of its members?
A : First of all, martyrdom is a heritage of nations all over the world. Secondly, don't believe that anybody would like to die. Nobody likes to die. The mother receives the body of her son or her husband with songs. And dancing. And they refuse others to come and condolence them. But don't imagine that it's coming from their hearts.

Q : What personal experiences have you had with death?
A : I wonder have you been to Beirut or not? You can't imagine. You could be dancing here, in a nightclub, and 20 meters away the fighting is there. And you don't mind the fighting and you continue dancing. We'd have a meeting and only 10 meters away — we can listen to the fighting. And we are not afraid of it. And many times it happened that while walking on the street — one bomb in the street. Another person died and you are still alive. A shell, not more than 10 meters away — some cars burned. Also snipers. Many times. You hear bullets flying past your head. Maybe 10cm away from you and the cost of a bullet is less than half a dollar. The price of a person is the price of a bullet.

Q : What have those experiences come to mean for you?
A : I'm a human being, first of all. So to see the blood is not easy. Even if you see a car accident on the street, you cannot stand to look. You turn your face. You want to help but you turn your face because you're not able to look on that scenery. Imagine if you see this scenery every day, not by a car accident, not by chance but by real, organised terrorism against your people. Sometimes you look — the face is completely cut or something. It's a crazy scenery to look. But sometimes you have courage to take this body, if he's still alive, to the hospital. When we started we believed, and we still believe, that our march is a long march. Our enemy is not small. Our enemy is intelligent and clever. Our enemy is using the up-to-date, sophisticated weapons. So we know it's not a short march. We will continue until we will achieve our goals.

死者は語りかける

監察医務院

監察医務院インタビュー

Q監察医務院の組織と簡単な概略みたいなのから、まずお聞きしたいんですが？

Aこれだと…。（説明書をみせながら）死体解剖保存法第8条ー政令で定めるその都道府県知事は伝染病及び中毒患者、または災害により死亡した疑いのある死体、その他死因が明らかでない死体について、その死因を明らかにするため監察医を置きこれに検証をさせまたは検証によっても死因が判明しない場合は解剖させることができるー。これがアメリカの占領下にあった時に施行された法律ですよ。現在もこれ生きてます。そして現在、鈴木知事は「東京都23区内に発生した死因の明らかでない死体について監察医に検証させるが検証しても死因がわからなければ解剖して決めなさい」と…監察医に嘱託してるワケです。そして都内の衛生行政、予防医学に貢献している。そして他方面でも病死だと思ったら殺しだったとか、他方面でも貢献しているわけです。都内に発生した変死はすべて監察医が検証し解剖して死因を決めているわけですね。

Q病死と変死の具体的判断というのは？

A病死というのはどういう死に方をいっているのかというと「医者が経過を見ている患者の内因死、医者にかかっている場合、その患者がその病気で死んだ場合」ま、その先生が死亡診断書を書いていいわけです。これ以外の死に方は全部「変死扱い」になるんです。だから医療をうけずに死んだ人、初診の患者が急に死んだ場合、すべての外因死、外因は自殺、他殺、災害、事故死ーこれは全部外因死なんですけど、内因死か外因死かわからない、あるいは医療事故、そういったものが全部変死になるわけです。こういう場合は医師法によって警察に24時間以内に変死届を出さなきゃいけないという制度になっているわけで、日本全国この場合は死亡診断書は書けるけれど、その前に変死届を出して検証しますよということに…。検証をする場合は監察医制度のある地域とない地域に分かれる。監察医制度のある地域は東京・横浜・名古屋・京都・大阪・神戸・福岡の七大都市でやってたんだけど京都と福岡は脱落しました。大学病院の法医学部の先生数名が細々とやっている。警察官立会いで検証をして死因を決定する。そういう制度なんですよ。

Qで、先生がこの病院でやってらっしゃること、どのようなことなんですか？

A警察から当然、検死の依頼がくるわけ。すると車1台に運転手と監察医と助手が3人で乗って申し込みのあった警察に行く。警察では警察官3名が来て計6人で現場に急ぎ、そこで検証が始まる。警察は検死の依頼をする前に何故その人が死に至ったかを調べてくれている。その話を聞きながら「普段は医者にかからなかったけど血圧が高かったらしい」とか…警察が全部調べているんで僕らはその話を聞きながら検証する。で死体所見に間違いがなければ、死体所見と警察の調べた条件が合えば、死因が判れば診断書を発行し判らなければ死体を監察医院に送り込む。そして地下の解剖室で**行政解剖**というのを行うわけ。でその先生が死因を決定する。そういうことをくりかえしてますね。

Q行政解剖と司法解剖の違いっていうのは具体的にどういうところですか？

A**司法解剖**は犯罪を前提としている解剖ー指揮権は検事が持っていてその指揮下で検証を行う。行政検死と行政解剖は知事の命令で監察医が判断して行う。

Q所見の時、この死因そのものが他殺であるか、または自殺であるか状況からなかなかどちらとも判断つかない場合、この経路からいくとどういうようなことに？

A判断のつかないのは全部ここで行政解剖をします。行政解剖をやって殺しだとすれば司法解剖に切り換える。

Qま、お話を聞いている中で、この死者そのものを、つまり死体というか死者を対象として扱っている特殊な組織だと聞いたんですけどそのような死というものが日常我々が触れる以上に緊密なものとしてあると思うんですけど、先生みずから死についてはどうお考えですか？

Aあのねー。誰でも1回死ななきゃいけないもんね。生あるものはかならずね。その死に方についてね、病死なのか殺しなのか自殺なのか…。死んだ人は「もう言わないわけでしょ。医者にかかる人は「お腹が痛い」とか「胸が苦しい」とか、何か言って死んでいく。しかし僕らが扱う人は何もいわずに死んでいくわけですよ。それに対して私達が警察官と一緒にね、詳しく死体を監察することによって、物言わぬ死者が事実を我々に語りかけてくれるーだから私達は死者と対話しているんですよね。検証したり解剖やって終わるまではその人はまだ死んでいないんですよ。概念としてはー全部その人が言ってくれる。言い終った時に死んだということになる。そうしてその死者の人権を擁護しているわけですね。病気で死んだと思って解剖したらその人の胃袋から青酸カリが出てきた。もう一度調べ直してくれと警察に捜査をしてもらったら「毒を飲まされたんですよ」とその死者が言うことがあるんですよね。

Q1日に幾つもの死体を解剖することによって死因を追求する中で死者が身体の中の幾つもの兆候によって総体的に死因を告げるということですね。

Aそうですね。だから臨床の先生は生から死へと見ていくわけ。我々はこの人はどういうことで死んだのかと、死から生の方向へ見ていく、そういう仕事ですよね。

Q個人的に、臨床医と自分と違うなとすごく感じたという経験は？

Aだって僕達は医者の立場から死を見ているから死を科学しているから普通の見方とはまた違うんだよね。子供なんかが交通事故死で死んだ現地に行くとお母さんは気違いになっていますよ。血だらけになって頭のつぶれた子供を抱きかかえて「ママってもう1回呼んで」って血だらけになった子供を離そうとしない。そういう深い悲しみの現場もありますよ。90歳近くになって長生きして亡くなっていった年寄りのいた家庭へ行くと死の悲しみというより、「安楽に成就を全うした

んだ」という家族としてのほっとしたような雰囲気があるわけですよ。そういう対象的なものがありますね。**死のパターン**の中には…。

Q直接の原因かどうかわからないけど具体的な暴行など受けたという事実があって死んだ場合など実はそれそのものが直接の原因ではなくて内因性のものだったりとかで、遺族にどうしてもこれを内因性の病死であると説明しなければならない…。

Aだからね、肉体的に滅んだ時点を死といっているわけでしょう。僕らの概念では。しかし身内の者はそれで死んだっていうふうにはあえてないんですよね。肉体的には死んでますよ。だけど遺族の心の中ではその人間は死んでいないんです。だから検死に行って「これ解剖します」っていうと「死んでいる人をまた殺す」って怒る人がいるんですよ。僕達は法で判断して解剖するって決めるから人情的なもので「じゃ解剖しない」って済ませるわけにはいかないんですよね。

Q先生にとって「死」とはどのような意味を持っているんでしょうか？

A死ぬということを分けなきゃいけないんですよね。分類するんですよ。これは死亡届けという一枚の紙なんですね。手続き上のね。見たことある？

Qはじめてです。

A死亡届けという一枚の紙のこちら半分に医者が病名をつけてあるんです。死んだ人に病名をつけて署名、捺印して家族にわたすと家族はこちらの戸籍に関する記入欄に記入してできあがるんです。何処へ持っていくかわかる？

Qこれは役所に？

A区役所の戸籍係に持っていってこの紙とひきかえに火葬埋葬の許可証をもらえるわけ。「お葬式を出していいよ」と。そのかわり戸籍を抹殺しちゃう…。この書類によって「戸籍が死亡」になるわけで、重要な意味を持っているんですよ、これ。それでここの中に重要なことが…、ここに死亡の種類ってあるでしょ。死亡の原因をピックアップするとこういうことになるのね。死亡の種類は1番～7番までの分類になっていて、たとえばここに脳出血と書くとすると、その原因に高血圧症と書くわけ。すると普段この人は血圧が高くて脳出血である日突然死んだということになる。と、この1番～7番の闇のどれかに一ヶ所○をうたなければいけない。何番に○をうてばいいですか？

Q1番？

Aそうですね。1番に○をうつと立派な死亡診断書になるわけ。さらにここへ脳出血で原因に頭部打撲と書く…。頭に外傷が加わっただけで外傷性脳出血となるわけだけど何番に○をうてばいいですか？

Qその場合は3番

Aだけじゃなくて4番、5番、6番でもいいね。けど1ヶ所しかうてない。どこをうつか医者はわかんないんだよ。医者は患者を診察するから病名はわかる、けど何故頭に打撲症が加わったのかはわからない。周りのつきそいの人が「自殺だ」とか「災害だ、屋根から落っこって頭打ったんですよ…」じゃあそうするかって○うてばね。完全犯罪が成立するわけ。私があなたを殴り殺して意識不明なのを連れていって「そこで隣から落っこったんですよ」っていってそのとおり災害死に○をうてば他殺が成立しちゃうじゃない。医者は1番には○をうてるけど2～7番は変死体なんですよ。だから警察に届けて検死権のある監察医が何故その人の頭に打撲があるか調べてくれる。捜査した結果「殺した」と判れば5番に○をうつし「自殺だ」と判れば4番に○をうつ。医者、監察医の専門家はそうして死者の人権を保護しているわけですよ。それと同時に「生命保険」に入っているとどこに○をうつかによって利益が生ずる。自殺だと生命保険はもらえないけど災害死だと保険金がおりるとか、あと仕事中の災害事故死は殉職扱いだからたくさんお金が出るよね。そういう意味でこれを正確に判断していかなきゃならない。「変死体」としてね。

Q今まで一番厄介な死因を扱ったことありますか？

Aたとえば具体的にいうとこれなんか非常にわかりやすい…。これ1 2～3歳の幼女が「はいはい」をしていたの。そしたら石油ストーブにぶつかって熱湯のやかんがひっくりかえり彼女の背中にお湯がかかったの。大火傷で病院に入って手当てを受けたんだけど1日たらずでこの女の子は死んじゃったのね。病院の先生は「火傷死」と診断書を書いたんで区役所へ持って行ったんだけど、そしたら区役所で何ていわれたかわかる？ 火傷は外因死

医師法第二十一条

医師は死体又は妊娠四月以上の死産児を検案して異状があると認めたときは、二十四時間以内に所轄警察署に届け出なければならない

死体解剖保存法第八条

政令で定める地を管轄する都道府県知事は、その地域内における伝染病、中毒または災害により死亡した疑いのある死体、その他死因の明らかでない死体について、その死因を明らかにするため監察医を置き、これに検案をさせ、または検案によっても死因の判明しない場合には解剖させることができる

（以下略）

死
- 病死 → 医師が経過を診ている内因死 → 死亡診断書
- 変死 → 医療を受けずに死亡した場合／到着の患者が急死した場合／すべての外因死／内因死か外因死か不明の場合／死体を診た場合／医療事故その他 → 変死の届出（24時間以内に警察へ）

監察医制度のある地域（東京・横浜・名古屋・京都・大阪・神戸・福岡） → 監察医 → 警察官 ← 警察医・医師 ← 無い地域

警察官 → 検視・検死 → 死体検案書

瞬間

生 ── 死

脳
肺
心

it means he's alive and after this recorded point he's dead. But on the cellular level there is still life even after the heart stops, the beard or nails continue to grow. For up to a day, cells can live by taking nutrition from the blood. So, sometimes a family that can't accept death says,"He's still warm, Doctor. Please don't stop the treatment." If they ask, the doctor injects a heart stimulant or something even if the patient is medically dead. Anyway, the 'three symptoms of death' theory has been generally accepted and when these three stop functioning people recognise a person as dead. On the other hand, the concept of organ transplantation is that when a patient reaches a condition of brain death, the brain becomes so damaged that the patient can never return to the direction of life; he will absolutely go to the direction of death, even if the heart and lungs are still moving. ... when he's gotten into the condition of brain death,consider it as the beginning of death. And until the breath and pulse stop, by setting the patient up with an artificial respiratory system and injecting a cardiotonic drug, the patient could live for about ten days, even if the organisation of the brain is impossible to recover. It doesn't mean that brain death equals death, it means that death has an interval instead of a moment. Of course, if you take off the respiratory system and stop the injection of cardiotonic drugs, the patient would die immediately. ... during this interval, pronounce death and perform the organ transplant. This is the concept of brain death. And in America, there are many people who say that's fine. But Japanese people think that the heart and lungs are still moving, even artificially, so he's not dead yet.

Q : Is this from the difference in religious background?

A : I think American people adopt a clear-cut attitude on physical death within the entire meaning of death. Once I read a book that said that an organ transplant is "the same as giving a seat on the train." "I'll get off at the next station, so please have a seat here." Same as this feeling. 'Anyway, I'll die soon so why don't you use mine ? 'It's a sort of service. For us it sounds very... frank. The difference is from this way of thinking.

Q : One more thing I'd like to ask about is euthanasia.

A : The qualifications for a permit of euthanasia were indicated in the Nagoya High Court. At first: "His or her death must be imminent from an incurable disease, and more than two physicians must certify that condition". Secondly, there must be"unbearable pain" and a physician's unperturbed diagnosis is necessary. "The purpose must be solely for the removal of pain", so the use of narcotic or hypnotic drugs is no longer effective. . "When the patient is able to express his or her intent,there must be a reliable request made by the patient . . ", so it can't be momentary sophistry to avoid pain and the interests of the family members should be considered. "In principal, it must be performed by the physician's hands." "The method must be pertinent even though it is extempore." They say that if these six qualifications are met, it would be recognised as euthanasia. The fundamental idea of this is that it's better to give a peaceful death than to stand by and watch a slow, painful one. These were the conditions that the Nagoya High Court imposed as a judicial precedent but there haven't been any cases that have given agreement and passed a verdict of 'not guilty'.

Q : That means that euthanasia hasn't really been recognised yet, doesn't it? It's a big problem; a physician's assistance to death is considered murder.

A : That's right. A physician's raison d'etre is to prolong a patient's life, even for one second. So switching the direction to make it shorter can be considered murder.

Q : Do you do anything about the problem of euthanasia?

A : No, nothing special. Same as the problem of brain death; if I'm a patient and am in heavy pain, I'll probably say, "Kill me." , but I don't think they'd do it. If I were in the patient's place, I think I'd say"Let me be free soon."; but if I got a request to do it I don't think I could, even if he or she asked me. There's such a contradiction in this problem.

Q : Can I ask your personal opinion of euthanasia or brain death, I mean as the person who actually treats dead people?

A : Well, as I said, if I were on the side of the asking, I'd agree with it; but if I were on the side of the being asked I couldn't do it. There's such a conflict in my mind.
About brain death, too. If I were to reach the condition of brain death, I'd say, "Please use my heart, lungs, anything." But on the other hand, if the family were to say, "The patient is brain dead, so please give the heart." , it's difficult to say, "I understand." These problems have dual aspects, I think.

Q : It sounds as though these problems are too difficult for ordinary people like us.

A : No, no. Euthanasia and brain death are the problem of the right to die. Not only specialists or physicians can decide.



死亡の種類

1 病死及び自然死 } 内因死

2 不慮の中毒死
3 その他の災害死
4 自殺
5 他殺
6 その他及び不詳
} 外因死

7 その他及び不詳 } 内外因死の別不詳

死亡の原因

イ 直接死因	
ロ (イ)の原因	
ハ (ロ)の原因	

Translate by : Emi Saito

INTERVIEW : KANSATSU IMUIN

Q : First, I'd like to ask about the system and outline of the Medical Examiner's Office.

A : This is it (reading)"The Prefectural Governor may have Medical Examiners and request them to examine corpses which have doubt of infectious diseases, poisoning, disaster and all other corpses whose cause of death are undetermined. If the causes of death may not be determined by postmortem examinations, the Prefectural Governor may request them to perform autopsies."

A : This law came into operation while under American occupation and it's still effective. And now, Mr. Suzuki, the Mayor of Tokyo, says, 'concerning corpses where the causes of death are indistinct, we have medical examiners to inspect them and, if the cause is still obscure, to clarify it with an autopsy'. In other words, he trusts medical examiners. And we are rendering services to hygiene administration and preventive medicine. On the other hand, we contribute to other fields, for example finding a murder which was believed to be an illness. All unnatural deaths are inspected and if it's necessary, a postmortem is held by medical examiners to determine the causes.

Q : How do you tell the difference between natural and unnatural death?

A : Natural death is mainly death from an illness. What it means is endogenous death of a patient whose progress had been seen by a physician. In case of having been under the care of a doctor, if a patient dies from the illness the doctor writes a Certificate of Death. All other cases are unnatural death. A person who dies without a physician's care, a new patient who dies suddenly, all cases of exogenous death including suicide, homicide, disaster, accident, also cases that cannot be determined whether they're exogenious or endogenous, or a medical accident — all these are unnatural death. The Medical law says that doctors have to give a report of unnatural death to the police within twenty - four hours. It means they can write the Certificate of Death but before accepting it the prefectural office would do a postmortem examination.
In the case of examination, the areas where there is a medical examination system and areas where there isn't are separated. Tokyo, Yokohama, Nagoya, Osaka, and Kobe are in the system now. Kyoto and Fukuoka dropped out. The doctors of legal medicine in the university hospitals participate on a small scale. Examination is done and the cause of death is determined in the presence of police officers.

Q : What do you do in this office actually?

A : When a request of medical examination comes from the police, a driver, a medical examiner and an assistant, these three people get in a car and go to the police station. Then three police officers get in the car and a total of six people rush to the scene and the inspection starts. Before making the request, the police have already checked why this person died. Listening to their report, things like, 'He didn't consult a doctor but had high blood pressure'. We examine the body. And if the examination of the body is the same as the police report, if the cause of death is found, we issue a certificate. If we cannot find the cause, we send the body to the examination office and do an administrative autopsy in the autopsy room on the basement floor of this building. Then examiners determine the cause of death. We go through this process over and over.

Q : What's the difference between an administrative autopsy and a legal autopsy?

A : A legal medical autopsy assumes a crime's been committed.
The right of command belongs to a public prosecutor and under his direction a medical examination is held. Administrative examinations and administrative autopsies are held under the Prefectural Governor's command and are the Medical Examiner's jurisdiction.

Q : When you inspect the body, if you can't judge whether it's a suicide or a homicide, which type of autopsy do you perform?

A : In such cases we do an administrative autopsy. Then if we find that it's murder, it's switched to a legal autopsy.

Q : While I'm listening to you, I feel that your organisation is very special, I mean that your subjects are dead people.
You have contact with dead bodies daily, much more than ordinary people. How do you yourself think about death?

A : Well, everybody has to die once. If you have life, you must. But the way to die, from illness or murder or suicide... a dead person says nothing. The people who go to doctors say something, like, 'I've got a bellyache' or 'I've got a pain in my chest', and then die. But the people we take care of die without saying anything. Facing those people, we examine the bodies carefully with police officers; then the mute bodies tell us many facts. We converse with dead people.
Until the end of the examination or autopsy these people are not dead yet — in our concept. This person tells us everything.
After telling all, this person dies. In this way, the rights of the dead person are protected. While we're performing an autopsy on a person whose cause of death is thought to be illness, cyanide comes out. Of course we ask the police to check the case again. Then this person says, 'Someone poisoned me'. There are such cases.

Q : You mean that a dead person tells you the cause of death by signs in the body?

A : That's right. So clinical doctors watch from life to death.
Our job is to figure out why this person died by watching from death to life.

Q : What does "death" mean for you?

A : We have to separate "death", divide it into types. This is a Death Notice. Have you ever seen one?

Q : This is the first time.

A : On this side of the paper, a physician writes the name of the illness of a dead person, signs it and hands it to the person's family. Then the family fills in this space of a family register and offers it to an official in charge of the family register at their prefectural office. In return for this notice, the registrar issues a Permission of Cremation and erases the person's name from the register. With this notice, the registered person becomes officially dead. So it has a very important meaning.
On this notice, here (points), there is 'The Type of Death'. From this list you pick the cause of death; there are seven types. For example, if a physician writes 'Cerebral Hemorrage' here, and on the space marked 'Cause' writes 'Hypertension', in this case he puts a circle on No. 1. If he writes 'Cerebral Hemorrage' and 'Contusion on Head', it means that it's an external wound he can pick No. 3, 4, 5 or 6. But he can choose only one. In this case, a physician cannot make a judgement: they examine the patient so they know the name of the illness but they don't know how this person got the contusion. If the people who attended to the dead person say that he committed suicide or that he fell from the roof and hit the ground head - first and the physician puts a circle according to their word, the perfect crime can be established. If I beat you to death and bring you to a hospital saying, "He fell from the second floor", and the doctor writes 'Natural Disaster', homicide can be committed, can't it?
So physicians can put a circle around No. 1, but No's. 2 - 7 are all considered unnatural death. They have to report those cases to the police and officers who have the right of prosecution search for the reason why this person got a contusion. As a result of the search, if they find that it's murder a circle is put around No. 5; if it's suicide it's put around No. 4. The specialists, physicians and the police protect the dead person's rights in this way. At the same time, there's a problem of insurance. The choice of number makes a difference in the benefits. In cases of suicide life insurance would not be paid but in a disaster case, or if someone dies while he's working, the beneficiary would get more. So the type of death must be judged correctly, just as with unnatural death.

Q : Can you tell me the most difficult case you've had?

A : Well, this is a good example... a little girl, two or three years old, was crawling and bumped a kettle of boiling water off the oil stove. The boiling water spilled onto her back. She was taken to a hospital but died in a day. The doctor wrote, 'Death by Scalding' on a certificate and her family brought it to a ward office. Then, do you know what they said? 'Scalding isn't an illness, is it?' They said, "This is a case of exogenous death. There is an Examiner's Department in Tokyo, so you should give them a report of unnatural death and get an examiner's certificate. A physician's certificate isn't acceptable." and returned it to them. The family didn't understand because they were laymen, so they went back to the hospital and told the doctor about it. Then he realised that he should report an unnatural death... so the report of unnatural death was handed to the police. They investigated, called the Examiner's Office and requested an examination. One of the examiners went to the scene with a police officer, took the bandage off and found a round scar on the baby's back. Seeing that, he said that the situation was different from the original report: if a kettle had dropped and spilled on her back the scar would've been shapeless, but it was round. He said, "It's strange; check it again." As a result, what they found was that the baby had had Down's Syndrome and was retarded by nature. So, deciding that it would be better for both of them to be released from the suffering, the mother poured boiling water onto the baby's back.

Q : Some of the bodies that are brought here have such serious hidden problems.

A : When you catch cold you go to a doctor and if you get injured you go to a surgeon, don't you? In the same way, we say, "If you die, go to a forensic doctor." Forensic medicine or examiners because we can converse with dead people. In this story, the doctor at the hospital was completely taken in. But we are never deceived, 'cause we can talk to dead people. That baby said, "Mother killed me.", and we could hear it.

Q : All bodies, all death must be examined by forensic doctors once?

A : I mean it's better to consult a specialist who can converse with dead people for protecting their human rights.

Q : Performing autopsies every day, you must feel 'The Mystery of Life'. I mean, the human body becomes a mere thing.

A : Well, when we actually perform we should watch scientifically and objectively, or we wouldn't be able to talk with the dead person. Trying not to be sentimental, we remove these sorts of emotions.

* * *

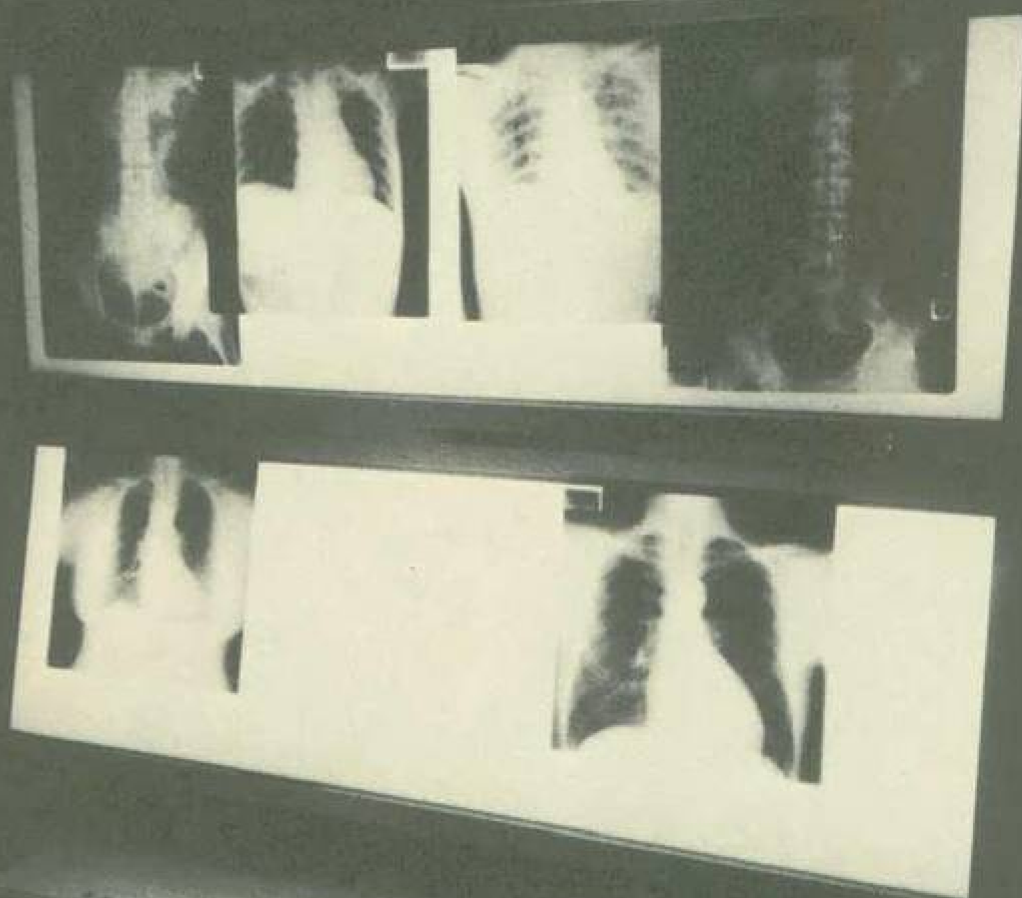
Q : When I heard that you examine fifteen to eighteen bodies a day with no holidays, not even Sundays, I was surprised.

A : 14 to 15% of all Tokyo, one in seven persons, is examined here. In 1984, 46,000 died in the Tokyo Metropolitan area and the number of exogenous deaths reported here was 6,677. Out of these, we performed at least 2,200 autopsies. This number divided by 365 averages out to about 18. Eighteen bodies a day. By the way, while we're on this topic I'd like to talk about 'Brain Death'. The Japanese feeling about this is very different from the American way of thinking. I'm a committeeman of the Forensic Medical Society and we're holing a seminar called 'Considering Brain Death'.

Q : Generally, the Japanese feeling is that that means putting one person's body parts into another not so acceptable.

A : According to the general concept of death at present, it's defined by "the theory of three symptoms of death": the lungs, the heart and the brain. When the functions of these three stop, the person is dead. If these all stop together it is instantaneous death, like falling from a high place and dying in an instant. But usually the brain stops first, the lungs move a little longer and finally the heart stops; then the person is dead. Before all three stop, the person is not considered dead. So according to this concept death comes in a moment. On the Death Certificate the time of death is written as, say, 11 : 15. Before this moment

A　いや、生きてます、生きてます。
Q　生きてたんですか、又？
A　ああ、まだ生きてます。電話かけてもね、「アーアー」って寝ぼけて声するけどね、あと声しないですよ。声だけしてわかるけどね。
Q　あのー、死んだ人がいるってさっき言いましたよね。聞いただけだっていう人に、それはどうなったんですか？
A　大丈夫、元気でいますよ。
Q　死ぬってことに関してどう思いますか？
A　あー、まあ自分もそういう場合はもう漆黒の闇の中に入っちゃってますからね、何も言えないですね。
Q　中に入っちゃってる…？
A　中に入っちゃってる。終りの世界の中の何ていうか……ようするに無くなっちゃったということですよ。
Q　どう思いますか？そういうことについて。
A　情けないねえ…。
Q　要するに世界がなくなっちゃうっていうことですか？死ぬってことは。できたら詳しく教えてもらえます。
A　なんというかもう何も用事も外も出歩けないね、小遣いももらえないね。…状態が悪いとか色々な暴力ふるうとかね、そういうことが抑えられちゃってというか看守さんがね、いや看護婦さんが抑えるんです。たまには怒ったり、歌、歌ったりねそういうことですよ。
Q　死ぬってことは暴力ふるったりすると看護婦さんにとめられることなんですか？
A　んー、そうそう。そうです。
Q　世界が無くなってしまうってことではないんですか？
A　うん、そうです。なくなっちゃうことです。



Q　他にどういうことがあるんですか？
A　姉がいますけどね、ここへ来て、来られないで、来れば自分が終りになっちゃうとか、又、姉が苦しくなっちゃうとかそういうことです。さっき殺しちゃえってふってたんですけど殺さなかったんですよ、相棒が。殺しちゃえって言ったんですけど、殺さなかったんですよ。
Q　あなたは殺人未遂でここに入ったんですか？
A　殺人未遂じゃない。恐かつ、窃盗とかねそういうこと両方やっちゃったんです。で、連れてこられちゃったんだ！警察の人に。
Q　ああ…、そうですか。
A　連れてこられてからここに置かれっぱなしですよ。
Q　もうどの位、ここに入ってるんですか？
A　あー、もう長いですよ。17年になりますよ。
Q　17年、長いですね。
A　長いですよ…(笑)
Q　これからの生活についてはどう思っていますか？
A　まー、退院ってことだよね。
Q　あ、そろそろ退院ですか、いつ頃ですか？
A　来月ってことで……。四日とか五日とか言ってるけどまだはっきり決まってないですよ。
Q　でもよかったじゃないですか、もうすぐなら。
A　……(笑)
Q　さっきの質問に戻りますけど、あなたの近親者とか親せきとかで、ですね、死んだ人っているでしょ？
A　あります。小さい頃ね、兄きがね、兄きと姉さんが死んだあと何ていうか切られたからって食った、肉にしちゃった

雄の軍像

自衛隊市ケ谷駐屯地

Q　まー、さきほど聞いたんですけど今回のインタビューの内容で、死の問題でですね、そちらではあまりかんばしくないというふうに聞いたんですが、できたらこの死の問題についてそちらの方の問題というか、そのようなことをお話しいただけたらいいと思うんですけども…

A　じゃあさきほど申しあげたとうりですね。

Q　具体的に死の問題がそちらの方に関係してないというようなことではないと思うんですよ。それでそちらの方では生きることを前提として動いているとおっしゃってましたけど、我の、すべての人間は生きることを前提として生きているわけですが…(笑)我々一般人よりも極めて厳しい現状に対峙してらっしゃると思うんで、その辺で他の一般人よりは特殊な組織だと思うんですよ。その辺で我々と違うという側面を私達はインタビューしたというようなことだったんですが、そのことについてはどうなんでしょう？

A　えー実はですね。あらためて申しあげることもなくさきほどのとうりなんですがね。

Q　というと…どういうことですか？

A　内容的には、私の個人的な考え方として、あれは一般論としててですね…ハイ。

Q　どういうことですか？　それは。

A　だからさきほど申しあげたのと変わりませんよ。さっき、ちょっと前にお話ししたんですけどもうお忘れですか？

Q　いや、さきほど他の用件で電話が入ってきたので途中で切らざるをえなかったんですよ。

A　そうじゃなくてその電話切られる前にですね…

Q　聞いていましたけれども、だから僕としてはできたらもう一度、違った形でインタビューしたいと思ってるんですけども。

A　あのーさきほど申し上げたのが一般的考えでして、私個人の考えに入りますが一般的にはそういう考え方ということで申し上げたわけですけど今、タイミングをおいて同じことを申し上げるつもりは私、ございません。

Q　さきほどの生きることを前提として、その過程で、死との接触というようなことも起こりうるとおっしゃってましたけどその辺で、死そのものが極めてそちらの任務遂行の中で大きな、ま、そういう個人個人の問題意識の中では程度の差こそあれ十分意識してきてると思うんですが、その中で、あくまでそれが起こるという前提として考えたとき、世界情勢なり政治的な動向なりが、論調に反して常に切羽つまった状態であるということは、そちらの広報の中でも、自衛隊の保存というひとつの大きな理由になっていると思うんですよ。その中で、死の問題そのものはそちらの資料外というようなことはないんじゃないんですか？

A　ええ、ま、警察の関係じゃございませんね。

Q　結局はそちらの組織的な支障というようなことなんでしょう？

A　ひとつはそれがありますね。

Q　他にはどういうことがあります？

A　それらの発表というかインタビューを受けるというか、それらのことを広角的に判断をして可とするか否とするかという第一段階の判断において今回の件については否と私は判断を決して申したわけなんですが。

Q　それは部隊上層と連絡をとる中での結果としてではなくあなた個人の意見及び結論ですね。

A　まー個人というか前段階としてのですね。すべて了解というわけではございませんから。

Q　だから第一段階でストップされてしまったということだと…

A　この件についてはですね。その中にはいちおうの過程は踏んでますよ。試考の為の資料とかですね…

Q　それはどういうことですか？

A　私どもの判断等については自分における知識で判断するんですが、知識が足りない場合には周辺のものから補観というか、判断の為の資料が要りますからね。

Q　前回そのような資料が無かったとしてそれに抵触するような部分での資料はあると思うんですよ。というのはね、国民一人ひとりの国防意識の中には自分、





こう日本国民を、自国の国民の生命と生存の安全を守るということは究極的には生命の維持ですよね。その帰結するところは生きるか死ぬかということだと思うんですよ。だからそのような国防的な問題をクローズアップする場合に、単に日本の状況をどう把握するかという問題以前にもっとひとりひとりの考え、生きるか死ぬかという意識というか、ま、それはいざ何かがあった時に考えるものじゃなくて常に想定して考えとかねばならないことだと思うですけど、その辺はどうでしょう？

A　そうですね。それが教育事項であり非常事項の一端であるわけですが、しかし私のさきほどの結論に達した、あれにも、部ありますが私達は市ヶ谷の駐屯地というごく狭い範囲の組織であり、その部隊の中での判断であり、ですから高度なものについてはまた別になってきますその範囲においては否という判断をしたということになりますので。

（中略）

Q　さきほどの死に関しては、生きるということを前提として、要するに任務達成に関して、生き残ることが最重要任務であるわけだし、それが死に対する唯一のそちらの対応であり、決死の覚悟で対応されると、そういうふうに思うんですが、それに関してはどうですか？　まったく問題ないですか？

A　若干のニュアンスの違いはありますね。

Q　いや…(笑)　ニュアンスの違いというのはいたしかたないとしてですね、大まかなスジはまったく違わないワケでしょうか？

A　結果的にはそうですね。その問題に関しては常日頃考えているということですね…

Q　ですから今回そちらの方へ連絡を入れたということは、実はひとつに死の問題との兼ね合いで、一般市民よりも特に表に出る組織の性格上、我々よりも極めて特殊なケースだと思うのでとりあげたということなんですよ。

A　そうなんですか。

Q　ええ、その辺で、そちらの方で死に対する教育上の実施を行っているとおっしゃってましたけども、具体的に、まったくそれを問題に挙げないということではないと思うんですよね。その辺の問題意識をもっともっと明確にすることによって、自衛隊としての究極的な広報活動にもつながると思うんですが…

A　一面、ですね。

Q　で、今回とりあげたのにも、いろいろな政治的動向なんかも無視できないということがありまして、自衛隊存続、軍備拡張とかその中でそちらの意識の問題として、そういうものから離れたところで、「身を盾にする」という現場の声を聞きたいと思って連絡入れたんですよ。

A　その辺のところが、一番難しいところなんですよ。

Q　どういうようなところで難かしいんですか？

A　これはどこでもそうでしょうけど企社なんかでも社員の意識、隊員の意識というのは大きな要素なんです。だから、全部がそこに確立された、理想的な方向にある場合には、これはもうそういうことでいいんですけど、もし、誤解を招くようなことがあると、これは今後は教化をする段階で、部隊側としては予期せざる方向の理解をいただくということがあると、危惧の念をもって話してるわけですがね。けして現状がそうだからというようなことではないんですけれどもね。そういう意味で、いうなれば大事なことなんですね。組織としては。そういう中枢上の事に触れるわけなんですよ。(死の問題)内容が。

Q　個人の意識の程度の差というのはあると思うんですよ。

A　それはありますね。十人十色ですからね。

Q　それをひとつの組織の中で括ってしまうという事に対しての危惧というのは充分考慮してるつもりですし今回のインタビューもできることであれば管理職の方にそういう危惧をあまり持たない形でお話を聞きたいと、そういう意向を出したことはご承知だと思うんですが、広報の立場として無視はできないし、聞てきないことはないと思うんですけども？

A　まあ、我々は表面的な広報活動を主としておりますが、そういう部分になってくると…。結局高度な問題なんですね。人間の、というか隊員の内情を考えてる信任上の問題、あるいは意志の問題ですからね。高度な部類に入るわけですから。

Q　あなた個人はどうですか、その辺の問題に関しては？

A　ま、こう雑談的な話の中で、間違えて使われるとぐあいが悪いですけれど、正式なインタビューでもなしコメントでもなし、私の考えを申し上げたんですね。それをさらにかわって（正式なものとし



日帝本国における反日武装斗争史（抄）

71・12・12 静岡県熱海市伊豆山の興亜観音像（侵略の南京大虐殺を推進するために建てられたもの）と殉国七士の碑（A級戦犯の慰霊碑）を同時爆破 ——東アジア反日武装戦線"狼"の前身部隊

72・4・6 神奈川県横浜市鶴見の曹洞宗大本山総持寺納骨堂（朝鮮侵略日本人殉死者の遺骨が、記念碑を建てられる前提で納められていた）を爆破 ——東アジア反日武装戦線"狼"の前身部隊

10・23 「北海道」札幌市北海道大学文学部北方資料室（アイヌモシリ侵略のイデオロギー形成とアイヌ文化遺産収奪の拠点）と旭川市常磐公園内風雪の群像（アイヌモシリ侵略の記念ブロンズ像）を同時爆破 ——東アジア反日武装戦線"狼"の前身部隊

74・8・30 東京都千代田区三菱重工本社を爆破（白昼、歩道に爆弾を仕掛けるという作戦上の失敗から通行人多数を殺傷） ——東アジア反日武装戦線"狼"部隊

10・14 東京都港区三井物産本館電算室、税務部配電室を爆破 ——東アジア反日武装戦線"大地の牙"部隊

11・10 「北海道」札幌市「北海道」神宮を放火 ——アイヌモシリ部隊

74・11・25 東京都日野市帝人中央研究所配電施設を爆破 ——東アジア反日武装戦線"狼"部隊

12・10 東京都中央区大成建設本社一階を爆破 ——東アジア反日武装戦線"大地の牙"部隊

12・23 東京都江東区鹿島建設資材置場内プレハブ工場を爆破 ——東アジア反日武装戦線"さそり"部隊

75・2・28 東京都港区間組本社を"狼"の前身、旧日本陸軍の…9階電算コンピューター室と埼玉県与野市間組大宮工場を同時爆破 ——東アジア反日武装戦線"狼"・"大地の牙"・"さそり"部隊

4・19 東京都中央区韓国産業経済研究所（韓国・台湾・マラヤなどへの日帝企業の侵略拠点）と兵庫県尼崎市オリエンタルメタル製造本社（韓国産業経済研究所が主催した韓国工業視察団の参加企業）を同時爆破 ——東アジア反日武装戦線"さそり"・"狼"・"大地の牙"部隊

4・27 千葉県市川市間組江戸川作業所を爆破 ——東アジア反日武装戦線"大地の牙"部隊

5・4 東京都江戸川区間組江戸川作業所のコンプレッサーを爆破 ——東アジア反日武装戦線"さそり"部隊

5・19 東アジア反日武装戦線3部隊の8名逮捕され、斎藤和戦士は日帝との一切の妥協を拒否して服毒自決

5・25 東京都立川市立川駅北口派出所を爆破 ——東アジア反日武装戦線

5・29 愛知県名古屋市名古屋駅西口派出所前のコインロッカーを爆破 ——東アジア反日武装戦線

75・6・25 船本州治戦士は、皇太子アキヒト・ミチコの沖縄上陸に抗議して、沖縄の大地で焼身自決 ——東アジア反日武装戦線

7・17 沖縄ひめゆりの塔、白銀病院に於いて皇太子アキヒト・ミチコに対して火炎びん攻撃 ——沖縄人2戦士、日本人2戦士

7・19 「北海道」札幌市、「北海道」警察本部警備部を爆破 ——東アジア反日武装戦線

7・23 沖縄海洋博会場、チリ反革命海軍練習艦エスメラルダを火炎びん攻撃 ——太田州夫戦士

8・4 佐々木規夫戦士は、日本赤軍の闘争により、他の4戦士とともに奪還される。

8・14 東京都杉並区高円寺駅前派出所、中央区佃島派出所、練馬区小竹町派出所を同時爆破 ——東アジア反日武装戦線

以上のような事情で、残念ながら、あなたのアンケートには、回答を控えさせていただきたいと思いますので、悪しからず、ご了解下さるようお願いいたします。

草々

PS なお、「死刑」に対する私個人の考えは、私の著書『爆弾世代の証言―東京拘置所死刑囚監房から』（三一書房 1985年5月発行 ¥1200）の第7章「死刑との闘い」に、その一端が表明されていますので、もし興味がありましたら、御参照願います。

前略

お便り受けとりました。私の方、多忙で依頼に応じられなかったため、片岡（益永）君の方に依頼したところ（あなたの組織とあったので、私でなくても、東アジア反日武装戦線の獄中者なら、誰でもいいだろうと考え）彼も書けないとのことで、申し訳ありませんが、原稿は書けませんでした。

もう、獄中生活も10年以上になり、POWという雑誌が、どんな雑誌なのか、わからなくなったために、たとえ書きたくても、書けなかったとも思います。

せっかく送って下さった100円切手、申し訳ありませんので、お返しします。

1985年10月21日

荒井まり子

MAIL INTERVIEW : EAST ASIA ANTI-JAPANESE ARMED FRONT

Dear Mr. Yokoyama,

I got your letter from Ms. Arai and she asked me to answer you. As you know, Ms. Arai and I are both on trial as accused in the 'East Asia Anti-Japanese Armed Front' case, and in this meaning we are in the same group. But now an organization called 'East Asia Anti-Japanese Armed Front' is not in existence, therefore the standpoint or view of the organization is not in existence, either. So we are not competent to anrwer your question No. 1. To No's 2 and 3, it is posible to tell you my personal opinion, but my position is very belicate, being condemned to death and appealing to a final court now, and under many kinds of pressure including daily treatment in the prison (Daidoji and I have been put in special wards called 'Suicide Prevention' and are being treated as 'Potential Suicides'since our arrest ten years ago.). Expressing a personal view on death may cause an unexpected reaction. Also, I have no knowledge of your organization and magazine called P. O. W., and am wondering about your purpose for collecting data on 'Death'.

Under these circumstances I am sorry to say that I must refrain from answering your questionaire.

Sicerely,
Toshiaki Masunaga

P. S. My personal opinion about the Death Penalty is written in my book, titled, 'Witness of the Bomb Generation' published in May 85; Chapter 7, The Battle Against the Death Penalty.

Dear Editors

I surely got your letter. I have been very busy and couldn't respond to your request so I asked Kataoka, one of our members. (you wrote 'your organization', so I thought it's not necessary that the response come from me, any member of East Asia Anti-Japanese Armed Front in the prison is possible). But he also said he could not write. Our lives in the prison have been more than ten years and we don't know what kind of magazine P. O. W. is, so I guess he could not write even he wanted.

I'm sorry not to give you any answer, so I return the stamps you sent.

Mariko Arai

Dear Ms. Mariko Arai

We publish a magazine called P. O. W. We are preparing to release the third issue and this time the theme is 'Death'. We would like to print about death in detail by asking the people who have a deep and direct relation to death.

So far we have interviewed the P. L. O. Tokyo Medical Examiner's Office and collected data about death.

We consider that your opinion on this theme must be very significant for us. We'll be very grateful to you for your answer. We are looking forward to your response.

Please answer the following questions.

1) What is your organization's point of view about death?
2) What kind of experience about death have you privately had?
3) How do you feel about these experiences? In the present time what does the experience of death mean for you?

PUNK ON WAVE

Translate by : Emi Saito

ヴィジュアルとしての死　JENET

Q—あなたの所属する組織について簡潔に説明してください。

A—過去において、反社会音楽表現集団としてのAUTO-MOD、及び個人的集団心理実験組織としてのTCC（但し双方とも1985年11月3日に解体）現在演劇実験集団［Phantasmagory art Laboratory Baji work Theater］として活動している。

Q—あなたの行っている仕事のタイプについて説明してください。

A—ペテン師

Q—死に関するあなたの組織の立場は何ですか？

A—死に対する恐怖をいかに自己消化できるか、それにより死（個人）と社会の関連性を解体すること。

Q—死に関してあなたが経験している個人の体験とはどんなものですか？　詳しく教えてください。

A—あまり体験がない。薬物における擬似肉体停止体験はある。

Q—あなたはそれらの経験についてどう感じていますか？　現在あなたにとってのその経験や死の持つ意味とは何ですか？

A—死に対する認識は、その肉体機能の停止、及びその破損、それに付随する痛み。そしてその精神エネルギーの肉体停止後の状態が究明されていないことに対する恐怖から生じるものであると考え、しかるにそれぞれイメージとして死というものが現代社会の管理システムの中に、支配者の論理として取り入れられ、常に支配との関連を匂わせる形で存在していくことに対して、それを自ら崩す為、現在ある死に対する幻想をひとつひとつくつがえし、その死さえも自らが最もいつくしむ存在となすことを考えている。これは仏教観に近いものかもしれないが、あくまでも社会的動きとしてこれを見、最終目的を死をもふくめた精神の自己支配に持っていき、かつ私が、香蘇味を持つ精神の組織化につなげていくことを目的とした運動の重要なファクターとして死を考えている。この運動の問題としては、組織した精神をインデビジュアルなものに極限し個人の精神の自由にどのようにつなげていくかという点がある。この問題の大きな障害となるのが、個人の心にひそむ被支配的欲求があることである。支配＝死と見た時、死への願望ともとれ、本質的に死への願望を持つ人間という生物をとらえた場合、その存在そのものが問題となってくる。



である、という。「死者の祭り」は、死者の仮面をつけた男たちが、雪の上を彷徨いながら暗闇から現れ出てきて始まる。彼らは口笛を吹き歌いながら、「我々は太陽を盗んだ。おまえたちは暗黒の中で生きるだろう」と宣する。イグルー（雪小舎）に隠れていた女たちは、叫びを挙げ、胸を叩きながら一斉に飛び出し、生命の源としての彼女らの力を主張する。死者たちが暗闇に退散すると、男たちは楽器を持ち、女たちは自然の黄金の円環を象徴する輪になって、太陽を母なる雪に返すよう死者たちに頼む歌をうたう。仮面を外した男たちも歌に加わり、夜が明けるまで手拍子に興じて、新しい年を迎えるのだ。

「死者の祭り」が同時に年を改める儀礼でもあるという構造は、世界中に存在している。縮め飾や門松でおトシ様という死者の霊（祖霊）を迎える日本の正月も、本来的には例外ではない。年毎に死者たちと太陽（世界）をキャッチボールすることによって、生者は新たな生命をもって甦える。死と生は交換可能なものであり、というより、死と生の交換によって初めて、生は生として自らを全うするというのが、エスキモーを初めとする伝統的な文化が伝えてきた"死"なのだった。

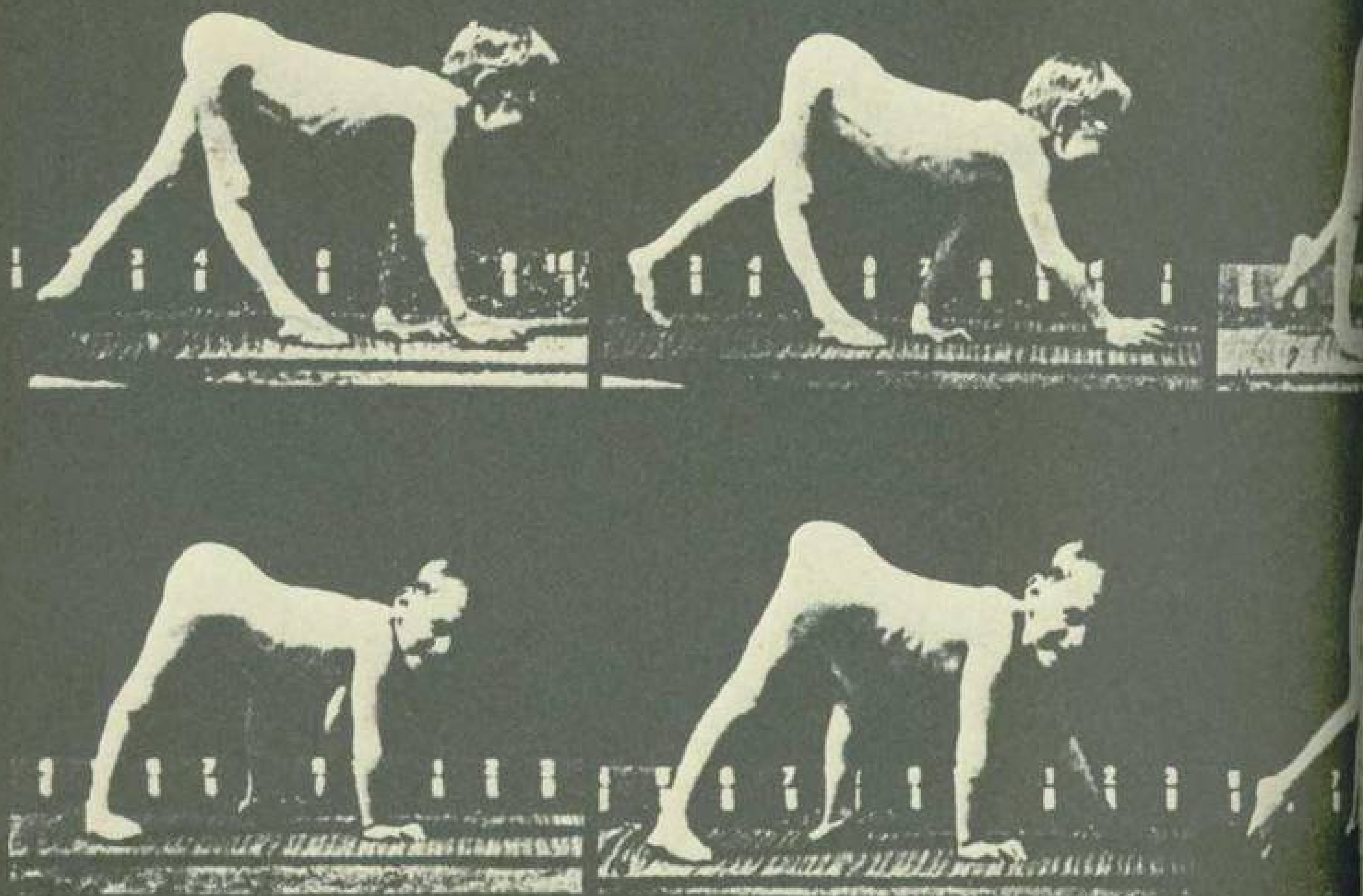
スウェーデンのパーカッショニスト、ベンクト・ベルイエルがアルキメデス・バドカールやエット・ミンネ・フォル・リヴェットのメンバーたちとともに、そしてドン・チェリーもゲストに迎えて制作したレコードに、『ピター・フューネラル・ピアー』がある。ガーナのロ・ピリフォル人、シサーラ人、エウェ人の葬礼音楽を基にした、ジャズの側からの、これも力作アルバムだ。

冒頭の曲はタイトル・テューンだが、ここではクンダル村の女性たちの葬礼の際の声がモンタージュされている。コメントによると、"子供たちはどうやって生きていったらいいかわからない。どうぞ子供たちを助けてほしい"と死者に対して頼んでいる歌だという。前段だけを取り上げれば、日航機事故で親を喪った子供を前に、TVレポーターが訴えかける言葉と変わりがないかに聞こえる。だが後段に注意してみよう。行政府に対し遺児育英資金を要求するのとは本質的に異なる訴えなのだ。なにしろ手助けを願う相手は死者なのだから。

詳しい資料が全くなくても、ここではっきりとわかることがある。ここでいわれている子供とは、単に親を喪った遺児ではない。死者に対する生者すべてのことなのだ。死ぬことは単に生の否定ではなく、子供の生から別の生へ移行すること。そして子供とは、"別の生"の生き方をまだ知らない存在なのだ。だから、生者は死者から"別の生"の生き方をこれから学んでいくために、死者の助けを願うのだ。

このレコードでは、いくつかの曲でエウェのドラム・アンサンブルをそのままシミュレートしている（指導したのはカクラバ・ロビ）が、全体の構想としては、ガーナの音楽の模倣ではなく、ジャズ・オーケストラのアレンジの枠組として、エウェ等の音楽がモデルとなっているにすぎない。しかし、『ピター・フューネラル・ピアー』から最後の『ダル・クペー』という葬礼ダンスに辿る道筋は、葬送儀礼の次第をかなり忠実に再現しているように思える。近親を喪った哀しみの声や音楽、それはぼくたちにも感情移入が可能な情景かもしれない（とはいえ、先の歌は女性たちの集団でうたわれるのであって、個的な哀しみと重ね合わせてしまうことはできない）。それから死のエネルギーを全面的に吸収して（ぼくたちの感想としては"生のエネルギーを全面的に発散して"となるのだろうか）リズムのドライヴの中の狂騒的情景への進行こそ、死と生のエネルギーの交換過程を物語っている。

"子供から大人へ、という過程は、ぼくたちにとって漸次に辿る移行形態で、強いて挙げ



れは就職や結婚か、不可逆の世界へ踏み込んだという実感を与えうるものかもしれない。

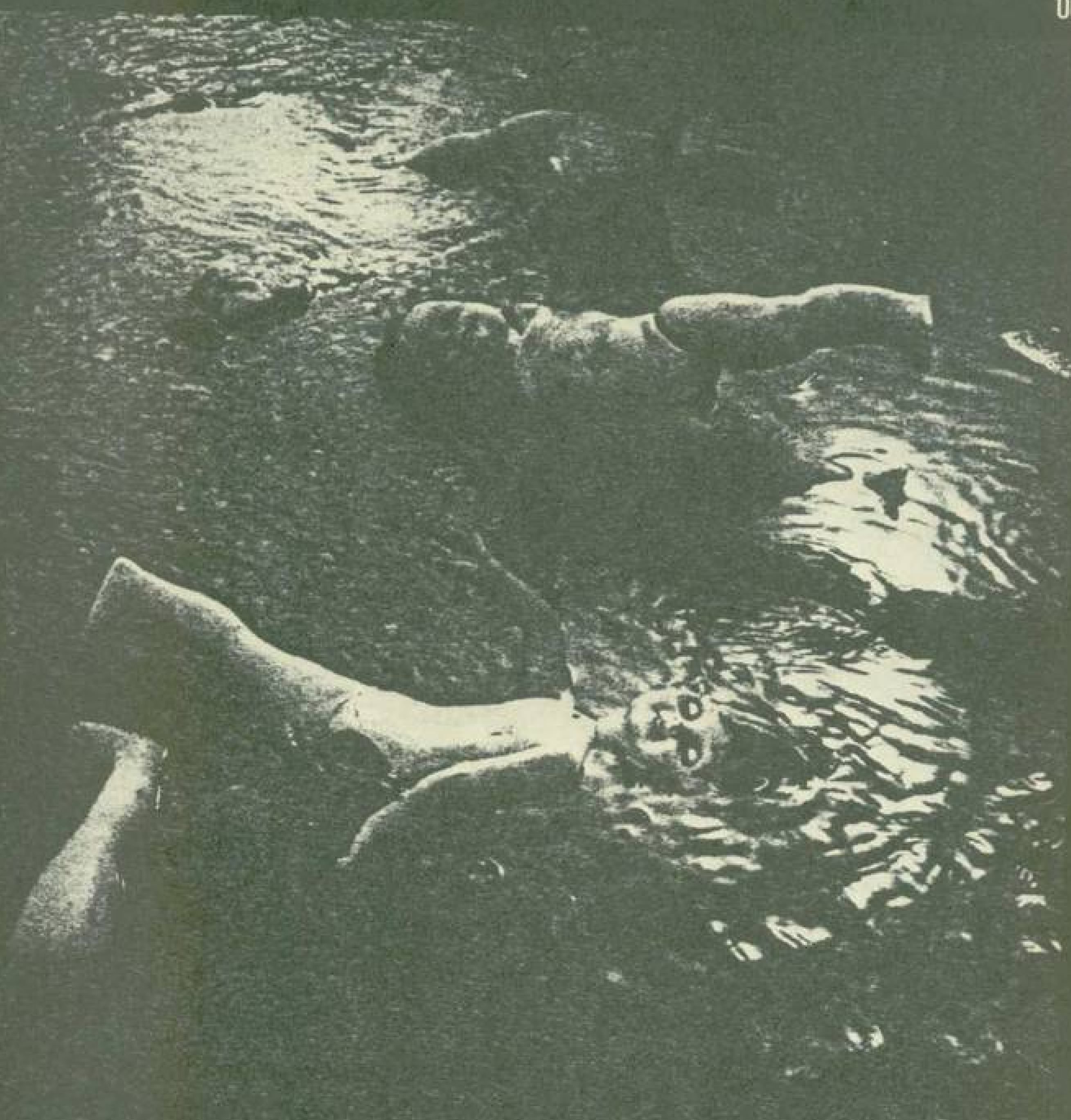
しかし、世界の多くの民族では、入社儀礼イニシエーションの儀式によって、子供の世界から大人の世界の間は画然と区切られる。日本でも古代期など見かけることがあるように、武士の世界には成人式ともいうべき元服という儀があった。その次第において顕著な行為は、前髪を剃ることだ。

髪の毛は、人体の各部分の中で（爪とともに）異常な生長を示すものだ。身長の伸びを遥かに上まわって伸びるだけでなく、体躯の生長が止まった後も伸びつづけ、死後もなおいくらかは伸びを止めない。それは人間のライフ・サイクルを超えた"生命力"を暗示するものだ。その髪を剃るということが象徴するのは、いうまでもなく"死"である。元服の際に前髪を剃るのは、象徴的に死を体験することなのだ。

多くの文化がなお保存する割礼という習慣をはじめ、入社儀礼に共通するのは、何らかの形で死と再生を模擬的に体験することそれは、死が別の生の端緒であったり、生を死と生の循環であると捉える意識と連なっている。生と死は別個のものではない。生と死は断絶しつつ連続し、連続しつつ断絶する生と死は相補的なものなのだ。

ぼくたちはいつの間にか、この生と死を交換する術を失ってしまった。背中や胸に竹のナイフで傷をつけるニューギニアのイアトムル族のかわりに、パンクスは服にナイフの穴をあけ、通過儀礼の模擬的な死を、さらに模擬的に想起する。ヴァージン・プルーンズやサイキックTVにとって、象徴としての死は常に彼らのテーマだった。しかし、彼らのかきたてる死への憧れと交換可能なものは、生への執着でしかない。

循環のシステムを失った生には、いくばくかのモラトリアムを許すことはできても、交換不可能な死か不可逆の運命しか残されていない。抑制の終わり、最終的な死



風の思考

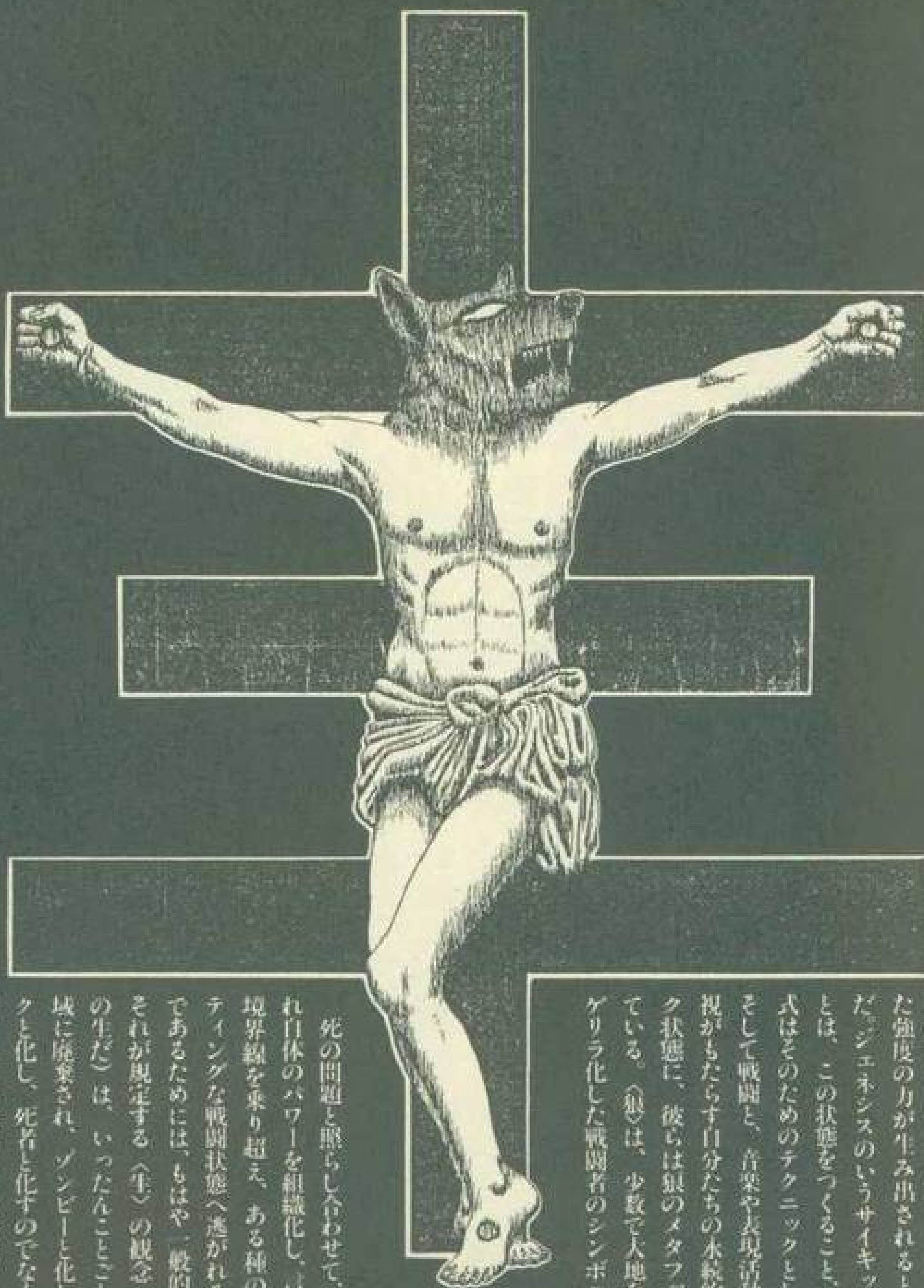
北村昌士



死は、なぜわれわれを恐怖させたり、魅惑したり、戦慄させたりする力をもつのであろうか。死は……と、この語を主語に何かが語られる場合、それはどのような思考、どのような欲求の道を形式することになるのだろうか。傷や穴や裂け目だらけの身体が、世界を通りすぎる。われわれは、そこに風を感じる。ざわめき／ノイズといわれている一連の気配が、その風に起因する。死の思考とは、この風にさらされ、風のゆくえに身体をゆだねる動作に、あるいはそれとまったく同じではないにしろとてもよく似ている。死とは、現存からの解放を意味するその閉ざされた領域からの消滅・逃走のエクリチュールなのだろうか。このことについては、死と対立するもうひとつのことば、生というものの息苦しさや重苦しさを知っていればよりいっそうの確信が得られるだろう。生が、言語活動の正の力に依拠した固く閉ざされた領域であるとするならば、死は逆に言語の負のパワーをみずからの依りどころに、生をおびやかし、言語や思考の正の機能である現前性を傷つけ、解体し、世界を砂漠に変える。そのような力を帯びた風なのだ。死は戦慄・恐怖・魅惑を生み出す風として、それは力であり、力の道、あるいはそのようにして闇と闇とを結びつける通路の全体、束、身体を形成する。したがっ

て穴だらけの、外と内とがごちゃまぜになった思考において可能なのはもはや意味あることばをつくる能力や知覚と実在とを一致する判断力ではないのはよくわかる。音楽とノイズとを聞きわける耳、ことばと叫びをよりわける耳、文字とらくがきとを見分ける目といった身体の政治機能さえ、そこではもはやまったく重要性をもたなくなってしまうことだろう。風の道と化した身体にとって、世界は均質な粒子の無際限にざわめく砂漠なのだ。禁じられたことばが闇のなかで語られようとする。というより、音楽・歌うこと・叫ぶこと。われわれは闇のなかで謎めいた合図を反響させ合うのにすぎない。沈黙の音楽であるような透明な身体が、声によって死の思考に道を与える。生と死とが背中合わせに、明確な境界線に区分されて出現するのをやめてしまうような一個の身体、それが音楽の身体／風の身体なのである。人はそのとき、不安や恐怖を通り越えたすえの恍惚というものが存在し、それが誘惑者の正体であることを体験的に知るだろう。音楽の恍惚、死の恍惚、そして戦闘の恍惚がそれである。そしてまたこの3種のトランスは、サイキックTVのいうオカルティックなパワー、セクシャルなエネルギーを生みだす原動力なのでもある。PTVの新しいシングル盤『God Star』には、ポップスター（ブライアン・ジョーンズ）の死がもたらしたセクシャルな神話と恍惚についての言及が見出される。死とは、逃がれ去り、消滅し、沈黙し、そのような仕草のうちで語られることば、パフォーマンス、生産なのではないだろうか。外側へ行くことだけが重要で、残りはすべて仮象でしかない。強度だけが知覚され、意味は廃棄される。またそのエネルギーのざわめきは、真理から最も遠いことによって音楽なのであり、生の有限性や現実の実在性をしばしば圧倒し混乱させる。巫女や神おろしやセイレーンといった死の世界とのつながりをもつといわれる身体が事実そのよう





なパワーをもっている。生と死とが、光と闇とが、無意味、声とことばとが混沌としてせめぎ合い、一種の戦争状態にある身体。そこにも風が生まれ、砂漠を駆ける音楽の身体、つまりエネルギー化した強度の力が生み出されるということだ。ジェネシスのいうサイキック・パワーとは、この状態をつくること、さらに儀式はそのためのテクニックとしてである。そして戦闘と、音楽や表現活動との同一視がもたらす自分たちの本質的なパニック状態に、彼らは狼のメタファーを用いている。〈狼〉は、少数で大地をさまようゲリラ化した戦闘者のシンボルだ。

死の問題と照らし合わせて、音楽がそれ自体のパワーを組織化し、言語を超え、境界線を乗り超え、ある種のエキサイティングな戦闘状態へ逃がれるような力であるためには、もはや一般的な論理や、それが規定する〈生〉の観念（それは大の生だ）は、いったんことごとく死の領域に廃棄され、ゾンビーと化し、ジャンクと化し、死者と化すのでなくてはならない。狂気や暴力と、機能性や合理性とが究極の地点で同一のものとなり、天国や地獄もなく、現実と幻とが境界をもたず、トランスに支配され、あらゆる対立物がごちゃまぜになった言及不能な身体でなければならない。ウィリアム・バローズの文法なき文法や、フィリップ・ディックやJG・バラードが時折書いているようなテクノロジーと始原とが怪物的に合体した新しい神のイメージは、そのような身体ととてもよく似ている。核の使用によって、あらゆる有機物（草、木、動物、人間）が死滅してしまえば、鉱物だけが自然をつくり、ロボットや機械の営みだけが生のありさまであるから、そこには無機体が権力の頂点に君臨する文字どおりの逆ユートピアがあるというよりも、自然淘汰の原則の合理的な延長上にある未来があるということしかできないだろう。そのような世界において、死とは何であり、生とは何であるのか。未来と始原、そして時間とは何なのだろう（バラードの描くバーミリオンサンズの砂漠のイメージが、この憂愁とみごとに対応している）。生と死が差異線を失ってごちゃごちゃに混じり合い、無機性と有機性とがギーガーのかくエイリアンのようにひとつの身体と生きている。トランス・ミュージックを奏でる身体とはそのようなものだろう。戦争機械は、死をポジティブな力にかえ、それによって生の有限性や限界性を徹底的に解体し、みずからを風に、そして世界を砂漠につくるのだ。彷徨する狼のイメージがわれわれに示しているのは、神の禁止や掟にまったく関わりのない人間、共同体の制約や制度の規制する生から、完全に自由であるような人間と音楽の、やがてきたるべき未来のイメージなのである。

DEATH INFORMATION
デスインフォメーション

Death Information



1953年5月25日ネバダの核実験場「ゼロ!」原爆実験の手動スイッチが入れられた
そのとき音もなく太陽が輝やいた。光は2、3秒変わらず、10秒ほどで大きくなり、少しづつ光が弱くなって巨大な油田の炎のように熱風をともなって燃えあがった。
計画の指導的立場にあったドイツ系ユダヤ人の科学者ロバート・オッペンハイマーは、その時「われは死なり、多くの世界の破壊者なり」という。彼がかつて読んだ詩の一節が心

核ジャック・テロリズムの脅威
—手製原爆の作り方—

1985年6月24日、米ワシントンで「核管理協会」およびニューヨーク州立大学国際テロ研究協会共催による「核の国際テロ」セミナーが開かれた。この席上でトマス・デービス退役海軍少将らはテロ組織による核のハイジャックが現実問題となっていると指摘した。同退役少将によると、世界中の民間原子炉から作られるプルトニウムは、いずれテロ組織が狙う第一目標となる可能性が大きいこと。また、既に米国だけでも少なくとも'81年以来9千ポンド（約4千キログラム）のプルトニウムが盗難になった計算になっていると発表した。ニューヨーク州立大学国際テロ研究協会のヨナ・アレクサンダー所長は「もし核や化学兵器や生物兵器のハイジャック事件が起きれば、一つの都市ないし一つの国全体が『人質』になる」と述べた。（6月25日付朝日新聞より）

「テロリズムは、さらに極端な破壊を生む起爆剤としての効果をもたらすところに存在理由がある。」と「テロリズム」（創林社）の著者オビッド・デュリスは指摘する。テロリズムの第一の目的がその語源どおり「テロル—恐怖」をあおる事にあるとすれば、今日最も効果的なテロルとは核によるものであり、核ジャック・テロリズムが現実的な脅威となる事は先の米セミナーの討議にみるように必至である。

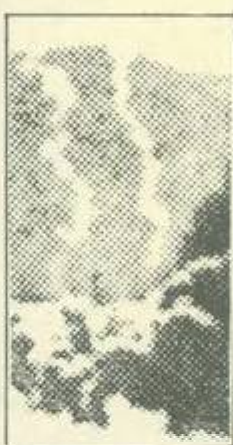
この核ジャック・テロリズムの核心となる問題として二つの事項があげられる。第一に民間原子企業からの核物質盗難の問題、そして第二に自家製原爆の製造が可能かという問題である。そして当然の事ながらこの第二の問題が重要なキーポイントとなる。

米の雑誌「ニューヨーカー」の常連ライター、ジョン・マックフィーは「原爆は誰でも作れる」（文化放送出版部・一九七四）というショッキングなタイトルの著書の冒頭部分でこう書いている。

「原子爆弾の製造が、どれくらいの少数の人数でこなせるかという点については、いろいろな意見があるが、兵器関係にたずさわった経験のある物理学者の中には、たった一人の人間でも民間産業から盗みだした核物質を使って、それをやってのけられると考えているものもある」

原爆は誰でも作れるか、という問題につい





をよぎったと述懐している。その直後、訓練に参加した総数25万人もの原子力兵士（アトミック・ソルジャー）に死の灰が降りそそぐ。彼らは顔と頭を隠すことで放射能を防げると信じていた。





原爆実験の連続写真▲▶

◀世界最初の原爆実験が行なわれた"ゼロ地点"だ。TNT火薬2万トンに相当する威力を持つ新兵器がここで誕生した。

て述べる前にマックフィーの本に述べられている二つの興味深い事件について報告しよう。

1971年、米国フロリダ州オーランドーの町で核爆弾をネタにした恐喝事件が起った。事件のあらましは次のようなものであった。恐喝犯人は、オーランドーの町を水爆で破壊するという脅迫状を何通も送りつけ、その代償として、現金百万ドルと政府に逮捕されないという保証を求めてきた。そしてもし疑いをもつならば、原子力エネルギー委員会に照会してみればいい。そこの倉庫から水爆の原料がなくなっているはずだというのである。そこで原子力エネルギー委員会は倉庫を調べたが何も異状はなかった。

この旨がFBIに報告され、オーランドー警察は犯人に、水爆を持っているのなら証拠を見せろと要求した。すると犯人は水爆の見取図と称するスケッチにメモをつけて送りつけてきた。メモにはこう書かれていた。

「これが我々の水爆のスケッチである。本当であるかどうかは君たちにはわからない。核兵器の専門家であればただちに本物だと断言するだろう。しかしそんなことをするまでもない。これは正真正銘の本物なのだ。」

このスケッチには、コバルトに乞んだ水素化リチウムを円筒につみ込み、その一端に爆縮装置をつけたものが描かれていた。スケッチはただちに、マッコイ空軍基地の兵器専門家に鑑定依頼された。その判定は「おそらく本物だろう」という事だった。結局、爆弾は使われず、犯人が逮捕され事件は解決した。驚ろくべきことに犯人は十四歳の少年だった。実は少年の描いたスケッチは水爆ではなく原爆だったが、警察はこの事実を発表するのをさしひかえた。この少年はその後地方の一人の科学者の監督下に置かれた。関係者はこの少年の才能を評価したのである。この才能は関係筋の手で正しい(?)方向へのばしてやらねばならない。刑務所などに入れては悪用される危険がある。というのが理由だった。

1975年、マサチューセッツ工科大学の化学専攻の学生が、科学TV番組「ノヴァ」の依頼で自家製原爆の設計に成功した。この学生は今まで核工学に関する知識は皆無であったが、「機密扱いでないいわゆる関係書類」を五週間かけて研究した結果37ページの設計図を仕上げた。この模様はドキュメントとして同番組で放映された。学生



▲広島で被爆した少年
彼はその時、強烈な閃光をあびた。

によれば、原爆の総重量は八百ポンド。そのうち十五ポンドがプルトニウムで十分の一ないし一キロトン級の爆発を起こす事が可能なはずで、製造費用の概算は約一万ドル。「原爆を作るのがこんなに簡単だったとは驚きです。」と感想をのべている。

この設計図は米国国防省の専門家に検討を依頼されたが、コメントは拒否された。代わりに、スウェーデン国防省勤務の核物理学者、ヤン・プラウィック博士に設計図はまわされ、博士の回答は「爆発するかもしれない。その割合は半々」というものだった。

「素人が原爆を作る事が可能か。」という問いに対して大概の核関係者は曖昧で否定的で





原子力開発が原爆製造計画として始まり、核兵器技術の発展と密接にかかわり進んできた以上、商業利用が核拡散をうながしつづける現実がある　一九七四年五月のインド核実験は、カナダから「平和利用」の名のもとに導入されたCIRUS炉で作られたプルトニウムが用いられた　威力はともかく、ほんのわずかな施設を用いて核爆発装置ができることをインドは立証したわけである　又、イスラエルが秘密裡にフランスから研究炉IRR-2を導入した事実もあきらかにされ　プルトニウム生産が目的だったようだが真相は明らかにされていない　アメリカの調査に対してイスラエルが「繊維工場の建設だ」と答えた有名な話がある　又、パキスタン、イラク、エジプトを始め、ほとんどの中東諸国はいま原子力計画をもつが、その主要な目的が核武装にあることは言うまでもない「イスラムの

ある。いわく、「新たなマンハッタン計画を必要とするだろう。」

「誰も厳重な管理体制のもとにある核物質を盗んで核爆弾を作ることなど不可能である。」

すなわち核爆弾製造の技術的問題、そして核物質入手の問題は素人によってそう簡単に解決するのは難しいという事だ。

1950年代のはじめ、原子エネルギー関係の分野に民間人のは入りこむ余地はまったくなかった。核に関する事項は軍事上の重要機密であり、人々は原爆を製造するにはマンハッタン計画のような壮大な計画が必要だと信じていた。

しかし現在、当時トップシークレット中のトップシークレットに属するものであった情報の多くは機密扱いを解かれ一般に公開されている。

例えば核分裂爆弾の数理的基本事項をまとめた『ロスアラモス入門』は、1964年に機密解除され原子力委員会から出版されている。また1946－7年に書かれた『マンハッタン計画区分史、Y計画＝ロスアラモス・計画』と題された、最初の原爆製造過程で生じた技術的な諸問題を解説した本は1961年に機密解除となり米商務省技術サービス局から出版されている。ここには様々なかつては最高機密に属していた文献の詳細なリストが付いている。

この本の表紙には次のような法規上の断り書きがしるされている。

「アメリカ合衆国政府、原子力委員会、或いは同委員会に属するいかなる個人も……本報告書で明らかにされたいかなる情報、機器、方法ないし過程の、いかなる利用、もしくはその利用により生じるいかなる損害に関しても責任を負わない」。

核工学に関するその他詳細な情報公開は、ソ連の核技術に関する情報が判明するに従い、アメリカでは徐々に行なわれてきた。ソ連が手にしている情報をいまさら秘密にしてもしょうがない。というのがその公開論理である。

また原子力委員会は、ワシントンのH通りに核関係の資料閲覧室をもっており一般公開されている。ここでは、原子力発電所の設計図、場所、発電能力、将来の建設計画、現在の核燃料保有高に関する資料、爆弾の設計図、核分裂係数、プルトニウム冶金術、爆発力、システム、性能、臨界質測定法、コンピューター暗号、流体力学、核反応断面積など詳細なデータが資料として閲覧できる。

これだけそろっていればマサチューセッツ工科大学の学生がたった五週間で核分裂爆弾の設計図を仕上げたという事実も納得できる。それはこの学生が特別の才能を持っていたという事ではないのだ。

しかし設計は可能であっても肝心の爆弾を製造するには厳重管理体制下にある核燃料を必要とする。

広島に落ちた原爆リトル・ボーイに使われた物質はウラン二三五であった。約六十キログラムの金属状のものでフットボールぐらいの大きさである。自然界に産出するウランはウラン二三五の原子一個につき、ウラン二三八が百四十個の割合で存在する。爆弾用に使われる分裂を起こし反応で熱を発生するのはウラン二三五の方であるが、二三五を分離



原爆」に向けて秒読み段階にあるパキスタンと、ふたたび核実験に意欲をみせるインドとの間の緊張はレッドゾーンに達している。ブラジル、アルゼンチン、韓国、台湾など、この他にも核兵器製造の動きが噂される国は多い。さらに恐るべき危機はせまっている。一九七八年、アメリカのヴェラ衛星がとらえた閃光は南ア共和国の核実験（濃縮ウラン原爆）によるものだと言われているのだ。


▲UGM-73ポセイドン

するのは非常に難しい仕事である。

又、プルトニウム二三九は長崎におちた原爆ファットマンに使われた。

プルトニウムは1940年バークレイ、カリフォルニア大学で作られた人工元素であり、原子炉内でウランの分裂工程の副産物として得られる。核爆弾を製造する為に、プルトニウム二三九はウラン二三五の半分ないし三分の一の量ですむという事からウラン分裂とプルトニウム製造は核工学の重要な部門として発展した。

ちなみに長崎上空でファットマンが爆発したとき、エネルギーに変換し火の玉を作りだし街を壊滅させた物質の量はプルトニウム全体量何キログラムかのうちたったの一グラムにすぎない。これだけで二十キロトン級の破壊をもたらしたのである。

アインシュタインの熱力学第二法則にあてはめると、E（20キロトン）＝m（1グラム）C^2（光速度の2乗）となる。

さてウラン二三五やプルトニウム二三九を素人が常規の形で精錬入手する事は困難な事項である。しかし先に紹介したTV「ノヴァ」はこれらの核燃料を入手するのはもしその気になりさえすればさほど困難な事ではないと報告する。

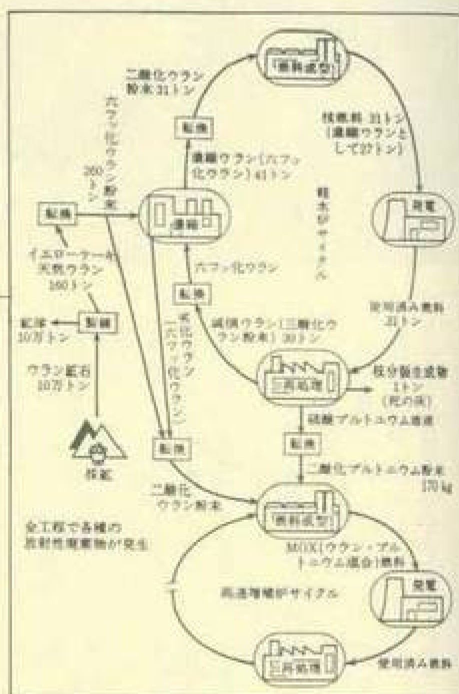
テロリストが、世界中の核施設へ核燃料を輸送中のトラックや飛行機をハイジャックすればことたりる。又、研究所や核施設に勤務する研究者ならば長時間わたり少量づつ盗めば気づかれないだろう。というのだ。

プルトニウムは猛毒性であるが、しかし使用済み燃料棒から分離すれば放射能を発する事はなく紙袋に入れて手で運ぶ事も可能だ。

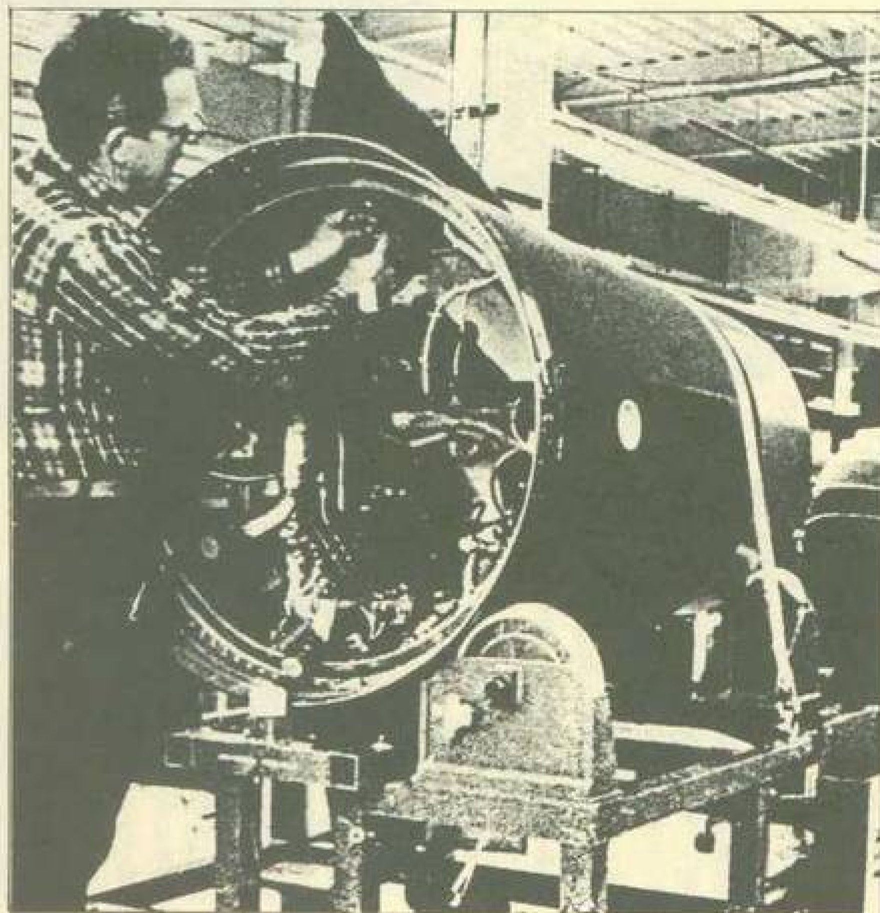
これら核燃料は厳重な管理のもとに関係施設、研究所等に保管してある。しかし核物質保安状況の監視作業を行なうインターナショナル・リサーチ・アンド・テクノロジー等による実体調査データはそれら核燃料管理状況のずさんな体制を示している。

核燃料を扱う施設は核物質の保有量を常に測定するよう義務づけられている。これは核物質盗難などのないようにとの配慮であるが、年間累積数十キログラム以上に及ぶMUF（不明物質）が生じている事実がある。多くの場合核物質の工作過程で目減り測量をする為に生じた不明量だが、万が一そのMUFが盗難された場合この体制はきわめて危っかしいといえるだろう。

又、核施設の警備保安システムも強行なテ



▲核燃料サイクルの見取図
（数字は100万kWの原発を1年間動かす場合）

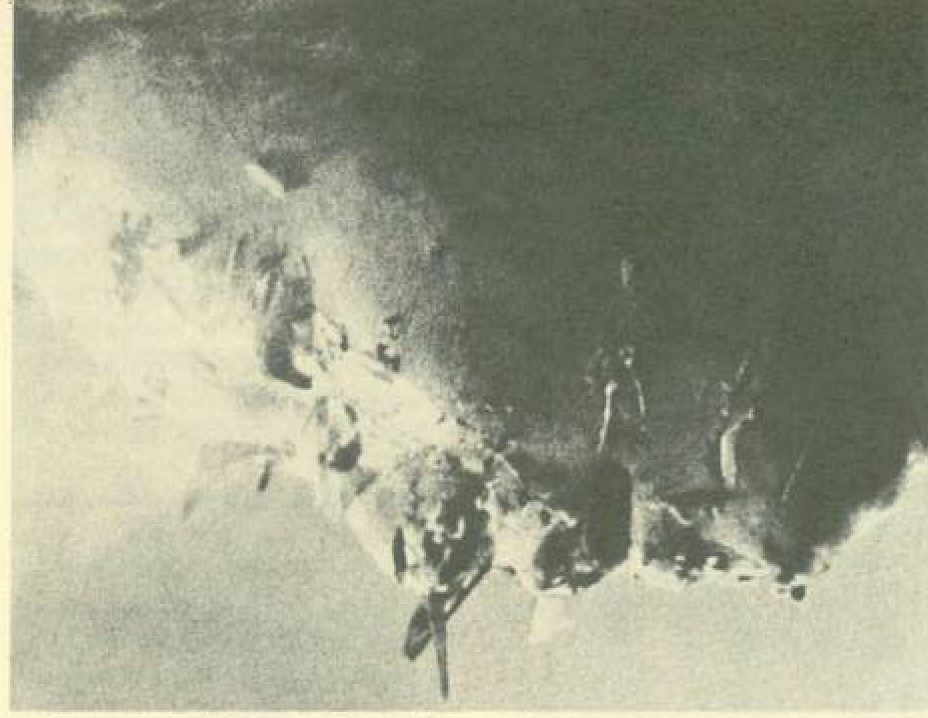






▶通行中左方向から熱線を浴びた女性
広島赤十字病院





ロリストの襲撃の前には一たまりもない事が多くの実地検査により証明されている。

すなわち核爆弾を製造するには「新たなマンハッタン計画が必要である。」といった核管理体制側の余裕がこうしたずさん体制の一つの原因になっている。例え核燃料を盗みだしてもそう簡単に爆弾にはできぬぞという論理である。

インターナショナル・リサーチ・アンド・テクノロジーのテッド・テイラー博士は長年こうした核保安管理体制に強い批判を続けてきた。彼は二十歳代からニューメキシコのロスアラモス科学研究所で核爆弾設計に携ってきた理論物理学者である。博士の設計による核分裂爆弾には、わずか五十ポンドに満たない超軽量原爆「デイビー・クロケット」、キロトン級では最大の高効率をほこる「ハムレット」、世界最大の威力を持つ原爆「スーパー・オラロイ・ボム」がある。

博士は冒頭の「原爆は誰でも作れる」の中で著者ジョン・マックフィーと対談し、既存の核工学公開資料を参考にいかに誰でもが原爆を作りあげる事が可能であるかを詳細に説明している。

博士の核保存管理体制への批判と核ジャックおよび素人による手製原爆製造への危惧は以下の、下院のエネルギー、環境に関する小委員会で発表した警告の中に端的に示されている。

「原爆を製造する為の情報や、核燃料を除く様々の材料は現在広く市場にゆきわたり誰でも入手できる状態にある。すでに多くの国が、信頼性が高く、軽量で効率的な原爆を製造する技術、設備を持ち、或いはそうする事が可能な技術水準を持っている。又、一方で少人数のグループや個人が、特殊な核燃料さえ入手できれば、信頼性や爆発力に於て劣り効率的でないが、きわめて破壊力ある手製原爆を作る事が可能だ。条件がそろえば、どこででも簡単に入手できる材料で日曜大工でも作れる。もしこのような手製爆弾が人工密集地域で爆発すれば一瞬にして数十万人が死ぬだろう。あらゆるタイプの原子炉で使用、生産されているプルトニウム、すなわちU―233と呼ばれている高濃縮ウランは原爆の爆薬となる。またそれが金属の形態でも、或いは酸化物その他の化学形態でもかまわない。簡単な手製原爆を作るには以下のようなものが原材料となる。グレープフルーツ大の純粋のプルトニウム二三九。或いは原子炉からでるプルトニウム、十七ポンド。或いは、燃料用としてボール型に成型されているプルトニウム酸化物、二十二ポンド。或いは、ヘリウムガスで冷却する高温増殖炉からでる核分裂性のトリウム二三二によって生産されるウラン二三三、十三ポンド。また原子力潜水艦やデンバー近郊のフォートサンプレインにあるガス冷却型高温原子炉の燃料として使用されている高濃縮ウラン、三十七ポンド等々。このいずれでも良い。」

では次に手製原爆の製造法の実際をみてみよう。まず最初に米国のインデペンデント・セキュリタリー・コンサルタント業務に携わっているというジョン・ミネリーなる人物が1979年にパラディン・プレスから出版した殺人のマニュアル『ハウ・トゥ・キル・VOL・3』の中の「手製原爆製造法―ワックスのボール」から概略を紹介する。このような本の中に手製原爆の作り方が載っているあたり、いかに核工学が公然の秘密であるかというテイラー博士の警告の一端を物語る一例だと思われる。ミネリーも又、『ロスアラモス入門』、『プルトニウム・ハンドブック』(ゴードン&ブリーチ社、NY1967)を基にしてこれを書いている。



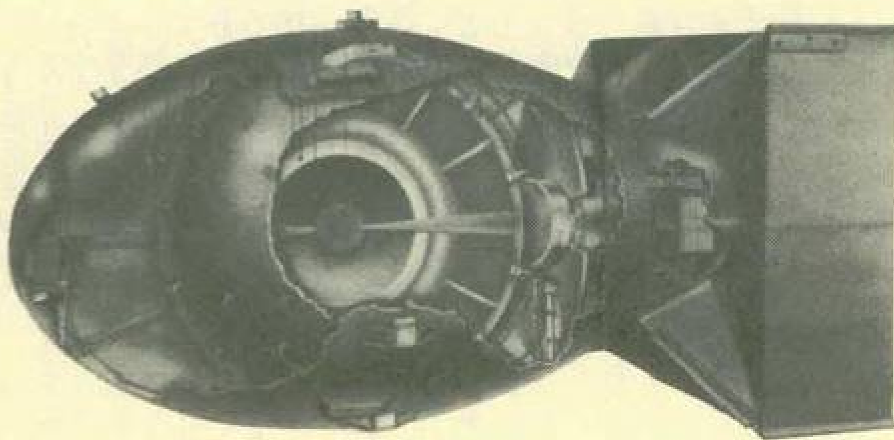
◀臨時救護所治療室、爆風で窓は飛び壁から落ちた室内には電燈もなく薄暗かった。



「まずベースボール・サイズのプルトニウム二三九を用意する。次にプルトニウム・ボールをパラフィン・ワックスでくるむ。反射板(アルミホイル等)で包み球状になるようパラフィンで包む。ボールのまわりをC—4プラスティックで包む。(プルトニウムはどんどん高熱をだし、事実このボール—クリティカル・マスと呼ばれる。—を放置するだけでも爆発する可能性がある。プラスティックの厚みは約6インチ。常時ガイガーカウンターで放射能洩れに注意をくばる事。次にボール表面に雷管を等間隔に百本挿入し並列にワイヤーをスイッチ、動力源に配線する。以上。完成された原爆は2フィートの大きさで、重量は120ポンド程。10キロトン級の破壊力を有する。雷管の爆発でプラスチックは内破(インプロージョン)し、プルトニウムはベースボール大からゴルフボール大へと圧縮し瞬時に核分裂反応を起す。一マイクロ秒後爆心から半径20フィートは30万度の高熱にさらされ、30秒後半径1200フィートは完全に破壊、半径5000フィートは重大なダメージを受け、半径4マイルは軽い被害を受けることになる。」

ミナリーの原爆作りの概略を次にマックフィーの著書からテイラー博士の報告をもとに補足する。

原爆の通常の構造は球を四層に包んだような形状である。中心の球は起爆装置と呼ばれ、圧縮されると数百万の中性子を放出する。起爆装置をとりまく球体が核分裂分質で金属ウラン二三五或いはプルトニウム二三九からなり、そこで起爆装置から放出された中性子が核分裂を起こす。核燃料サイクルの途中で抽出されたプルトニウムを使う場合は起爆装置は不要だ。自然に核分裂を起こすプルトニウム二四〇がその役割を果たす。核分裂分質の周囲には反射材(リフレクター、或いは反射体—タンパーという。)がある。これは天然ウランまたは他の重金属でできていて、中性子を外部へ逃さずに保存し、また、爆発飛散をおさえて核分裂の連鎖反応を長びかせ効率を上げる役割をする。この反射材の周囲に通常の高性能火薬、そして弾殻がある。高性能火薬は基本的にはTNTが使われる。現在は、



このTNTに可塑剤を加えた「C—4」というパテ状のプラスティック爆薬が使われる。これらの爆薬は核分裂分質を臨界以下の密度からそれ以上に高めると同時に、中心部の起爆装置を圧縮する役割をしている。

この高性能火薬は反射材を緻密な対称形で厚さを一様に包むように配置されていないと内破(インプロージョン)が難かしい。はじめは目分量で、ある程度まで厚くなったら目盛りワイヤーを爆薬につきさし反射材までの深さを側定する。ガイガーカウンターを置くのはこのとき計算ミスのないようにする為である。

こうして反射材の回りに火薬を装着している時にもプルトニウムは臨界点に近づいていっている為、ガイガーカウンターで臨界すれすれになった場合はもう一度全部分解して最初から計算しなおさなければならない。失敗すれば製造者もろとも一巻の終りとなる。

レンズ形の装薬は内破反応を効率的に起こすのに最適だとされている。この装薬の外側にワイヤーとりつけ用のボタンがありここから電源につながれる。これがスターターであり、各レンズの爆発に百万分の一秒の時間的ズレが生じても内破は効率的ではなくなる。これは高性能原爆製造にとっては重要事であるが手製原爆の場合そう綿密に考える必要はない。

次に素材であるが、核分裂分質については先のテイラーによる小委員会での報告にあるとおりだ。

反射材としては、天然ウラン、鋼鉄、銅、マグネシウム、鉛、アルミニウム、ベリリウム、水、ハンダ、ワックス等が適している。この他ステンレス製のボール2個の内側にワックスを厚く塗り、プルトニウム・ボールをぴったり包み、ハンダでくっつけても良い。又、深海へ観測機器を沈める為に使われるような特殊な圧力容器でも良い。この容器は鋼鉄製で壁の厚みは2インチ。この中へプルトニウム球を入れる。中性子反射材として何が最適かは、グラストンの「原子エネルギー資料集」の「原子炉—減速材と反射材」を参考にすれば良いとテイラーは云う。

弾殻、すなわち爆弾の容器は特別に指定は



▶パーシングII

米ソ間の核兵器開発競争はとどまるところを知らない。アメリカが開発した、新型の大陸間核ミサイル（MX）は、それまで、最新型であったミニットマンIII型の二倍近い推進力をもち、一発に積み込む弾頭数は十個、目標攻撃の正確度は百㍍という画期的なもので、トライラント型原潜の二倍以上の排水量を持ち、射程一万㌔のトライラントI型ミサイル二十四発を積み込む。潜水艦核ミサイルは、位置確定がむずかしいために正確度で、ICBMに劣るといわれてきたが、すでに、核弾頭が自動的に軌道を修正して目標を攻撃する機動核弾頭（MaRV）を装備して正確度を



▶潜水艦から発射されたトマホーク

ない。ゴミ容器でもゴルフバックでも使える。

さて以上のようにセッティングされた原爆の電源が作動するとまず反射材周囲の高性能火薬が爆発する。この爆発力の1/4が衝撃波となり内部におよび反射材を通じプルトニウムに伝わり、プルトニウムが臨界超過となると、プルトニウムの密度が高まり自由中性子とプルトニウム原子核との衝突の確立が増加。その結果が原子核爆発となる。

核爆発の恐怖は広島、長崎を経験した我々が一番良く知っているだろう。仮りに犯罪者やテロリストが自家製の一キロトンの粗悪原爆を爆発させたとしても都市の人口稠密地域に於ては何十万人も殺す事ができるだろう。

何も2、3人を殺すテロに核爆弾を使用する必要はないかもしれない。しかし核のもつ過剰殺傷能力こそ人民の恐怖をあおるテロリズムの最後の最も効果的な武器になる事は疑い得ない。

1976年、世界の警察の指名手配ナンバー・ワンのテロリスト、カルロスがあるアラブ国の大使館に小型核爆弾を持って潜伏中という うわさがたった。これはまさに核時代のテロ行為の可能性を暗示する危機であった。

さて最後に核ジャック・テロの射程内にはいるもう一つの問題について触れておこう。前述したようにプルトニウムは猛毒性の物質であり、極微量のプルトニウム粒子をひとたび肺に吸収するだけで数時間～数日後には確実に死亡する。一ポンドのプルトニウムを何らかの方法で飲料水その他に混入しこの汚染物質をばらまく事が可能であれば90万人もの人間を殺す事ができる。青酸チョコ事件を経験している我々にとってこうした形態のアタックの重大効果は周知である。

テロリストが核原料を直接入手する事が不可能でも、仮に放射性廃棄物を入手した場合も同様の脅威となる。何故ならば、廃棄物質から軍用核兵器を製造する事は出来ないが、それを通常の火薬に混入させて爆発させれば放射性のチリをまき散らす放射能兵器になりうるのだ。このように手榴弾大の核廃棄物爆弾の効果は大型爆弾に匹敵するだろう。

軍や民間原子企業のみならずこの放射能兵器に関しては医療用放射性物質を有する病院等の施設もテロリストの目標となるだろう。

先日の東京慈恵会医大病院の例にみるまでもなく医療用放射性物質の紛失は現実問題となっている。

日本も今や米仏ソに続く世界第四の原発大国である。今年の4月には原子炉に加え、ウラン濃縮施設、核燃料再処理工場、放射性廃棄物の貯蔵施設など核燃料サイクル3施設の一括立地が関係筋で本決まりとなり、いよいよ欧米並みの本格的な核産業時代の到来を告げている。こうした中で核ジャック・テロの問題は避けて通る事ができない。




▲ミニットマン（ICBM）

高める事になっている。ソ連も一九七四年に新型大陸間核ミサイル四種類（SSX16、SS17、18、19）の実験を行い、一九七五年には、SS17、18、19（いずれもMIRVを装着できる）の配備を開始した。潜水艦核ミサイルの分野でも、ヤンキー型、デルタ型原潜を配備し、デルタIII型に搭載しているSSN18ミサイルは、三～七個のMIRV弾頭をもち、射程は八千㌔を超えるという優秀なものだ。この他にもソ連は、戦略兵器と戦術兵器の中間分野で、新兵器体系の開発を進めており、中距離爆撃機「バックファイア」中距離核ミサイルのSS20などである。「バックファイア」は、一九七四年に作戦配備され、その後増強をつづけており、欧州やアジアを対象とした戦域核兵器とみられている。積載量は十二トンで、空中給油なしに、米本土へ片道飛行できるし、北東シベリアからなら米本土のロスアンジェルスから、ミネソタ州にいたる地域までの往復飛行が、出来る。また、前記のSS20は、MIRV三個を装備した移動式ロケットで、欧州向けに、ソ連西部、極東向けにチタ周辺に合計三百基ほど配備しており、欧州における、中距離核ミサイルの、バランスを崩すものとして、西欧諸国の不安の種にもなっている。

LESSON 30: THE WHOLE BALL OF WAX

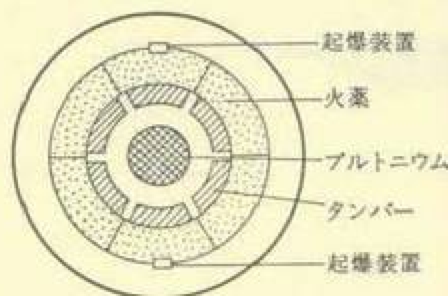
RECIPE: Take a ball of Plutonium 239 about the size of a baseball. Wrap a layer of paraffin wax around it (to retain the neutrons) then put a metal reflector around that—either aluminum foil or two aluminum mixing bowls placed top to top forming a sphere—surrounding the paraffin glob. Start packing a layer of plastique (Composition C-4) around the bowls; this will create what is called critical mass (the retained neutrons cause the 239 to get hotter and hotter and will in fact explode eventually if left to itself, but in this case we want a biggee). When critical mass has been achieved (must be ascertained with geiger counter) the plastique applique is ceased; the explosive will be about six inches thick. Start inserting 100 detonators equidistantly around the ball's surface, wired in parallel, and connected to switching system and power source.

The bomb when finished will be about 2 ft. in diameter and weigh in at 120 lbs.

EFFECT: Upon initiation, the plastique will implode the baseball into a golf ball—fission will be instantaneous; in a microsecond temperatures within a 20 foot area will rise to 300,000° centigrade, and 30 seconds later there would be total destruction within 1200 feet, heavy damage to 5,000 feet, and light damage to 4 miles. Expected yield: 10 kilotons.

NOTE: There has been to date no recorded instance of an atomic weapon failing to explode, at least in some fashion. It is estimated that two tons of plutonium are unaccounted for in the U.S.A. alone.

REFERENCES: *Los Alamos Primer*, *Plutonium Handbook*, *Bomb Squad*, and *Assassin Vol. I #1*.



HOW TO KILL

殺人技術の習得のために

Reprint from " How To Kill " by John Minnery Translate by : Emi Saito

All rights reserved. Except for use in a review, no portion of this book may be reproduced in any form without the express written permission of the publisher.

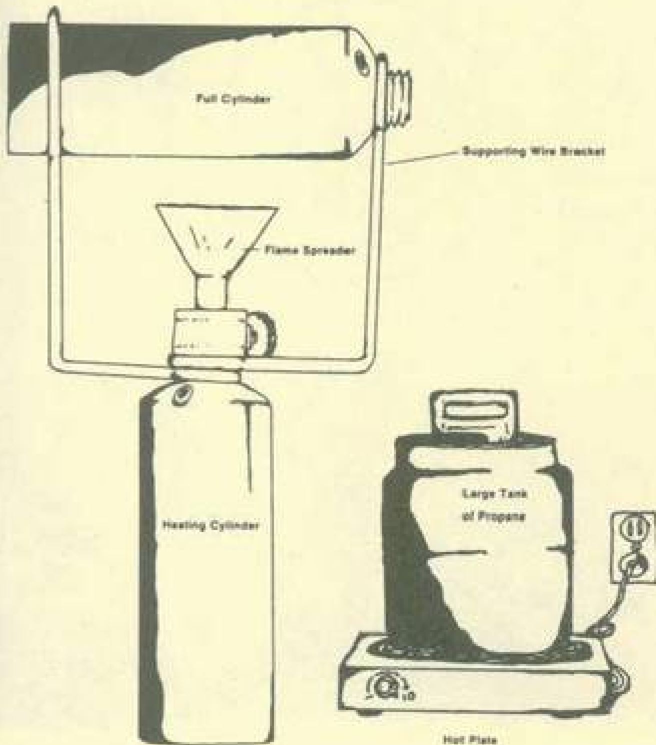
Neither the author nor the publisher assumes any responsibility for the use or misuse of information contained in this book.



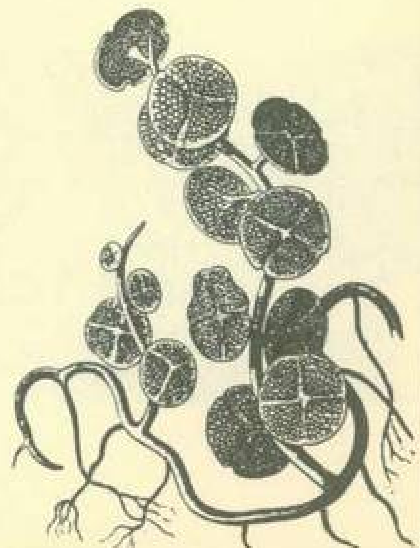
APPENDIX A: THE SIGNS OF DEATH
(before rigor mortis)

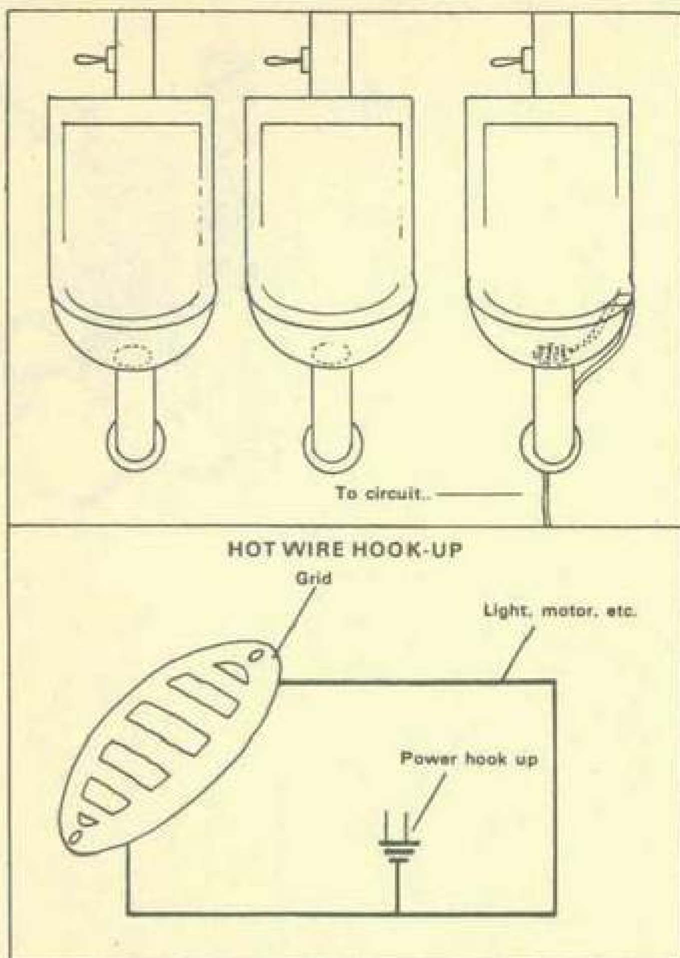
i/ Lift the eyelids and the eyes will be rolled back and the pupils will not respond to the light.
ii/ Mirror Test: Place a hand mirror in front of the mouth and observe if any fogging takes place. A small feather held in front of the mouth will indicate the absence of breath.
iii/ Pin Test. A pin thrust into the skin and withdrawn will leave a hole. In live tissue the hole will close, not so with dead.
iv/ Feel for pulse. . .none.
v/ Stethoscope for heartbeat, there should be none.

DELAYED PROPANE BOMB



OPERATION: Ignite the heating tank of propane about ten minutes before the explosion is desired. Use two full cylinders of propane for best effects. Alternate method requires electrical outlet to accommodate hot plate plug.





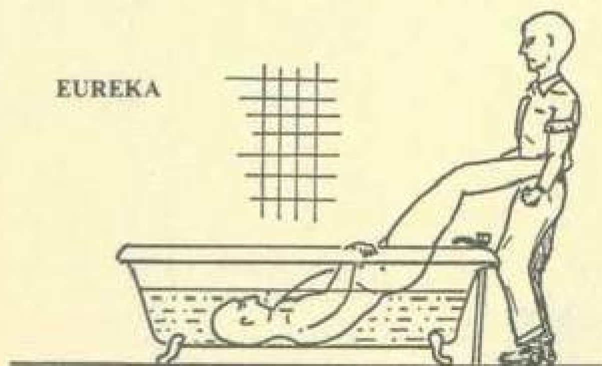
LESSON NINE: HOT WIRE

Essentially the weapon is an electrified grid in the urinal basin. This can take the form of a screen cover for the drain or a metal grill. If the urinal is porcelain completely the screen must be added by the assassin. The drain cover is connected to the electrical s;stem of the wash room by means of an insulated cord that is hidden behind the plumbing.

What happens when the subject uses the urinal should be obvious now. The subject's urine which is a salty liquid and a perfect conductor of electricity, makes contact with the charged grid and the shock will kill him.

This system can be selective by rigging the circuit with a switch that you can control. The wiring need not be elaborate and can be carried in your pocket and be hooked up within a few minutes. Normal 110 volt current is sufficient because it is the amperage that kills. The only thing necessary to look out for is that the circuit is not grounded — except by the subject.

This method lends itself to be used in government or large public buildings.



Subject is drowned in his own bathtub by grasping his feet and forcing his head and trunk under the surface of the water. The subject is quite helpless in this position. If the assassin is resolute through the paroxysms, the subject will expire. Similar techniques may be employed at poolside or overboard on small craft. The situation illustrated could be possible through an association or contrived intimacy, and shows a small statured assassin controlling a large subject. Under best conditions the reverse should apply. This technique actually used by a British mass murderer. When a police investigator and his assistants tried to duplicate the crime the investigator almost drowned.
The subject will succumb in this awkward position even if he can initially keep above the water. His efforts at catching a breath are even more hindered by his abdomen bearing on his stomach and diaphragm; neck distorted.

APPENDIX A: A GOOD DAY TO DIE

Bio-climatology applied to necrotechnics:

- On a warm sunny day a man's blood flows freely through his veins; his saliva protects his breath and keeps his breathing light and swift. There is no obstruction to blood or breath circulation. Best time for shooting or stabbing.
- On a cold blustery day the blood flows thickly and the breath is denied protection and keeps ebbing. Studies have shown that most coronary occlusions occur during such periods. Best time for strangulation, choking and some poisonings.

Other considerations:

- During a waxing moon, blood and breath circulate freely and are much enhanced. Shooting or stabbing indicated.
- During a full moon both the blood and breath are plentiful and the muscles and flesh firm. Shooting or stabbing indicated.
- During a waning moon the arteries and veins drain and the breath becomes more volatile. Air denial operations indicated.

Taken into consideration in planning a hit when all other things are equal, recognition of these conditions will give a tangible "edge" and a tendency to the situations outlined.

「死ぬのに良い日」

死の技術に応用される生態気候学

●暖かく晴れ渡った日には、人間の血液は血管の中を活発に流れる。唾液は呼吸を保護し、呼吸作用を軽く速いものにする。血液と酸素が循環を妨げるものは何もない。注射あるいは、刃物による殺傷に最適な時。

●寒い風の吹き荒れる日には、血液の流れは不活発で、呼吸は保護されず希薄になっている。冠状動脈閉塞の大半は、このような時期に多発すると医学は証明している。絞殺、窒息及びある種の毒殺に最適な時。

その他の考案

●月が満ちていく時期、血液と呼吸の循環は活発になり、増幅される。注射及び刺殺に良い。

●満月の時期、呼吸と血液は活発に循環し、筋肉と脂肪は引き締まる。注射と刺殺が望ましい。

●月が欠けていく時期、動脈と静脈に流れる血は少なくなり、呼吸はより速くなる。酸素供給を遮断するような方法が望ましい。

他の全ての条件（方法）が同じ場合に、計画が成功するよう気を付けるならば、上記の条件の考察は効果的な"刃"となるであろう。

毒性植物



▼イヌサフラン
球根が嘔吐と神経興奮を引き起こす。

▼アザレア
草の全ての部分が、吐き気、嘔吐、抑うつ状態呼吸困難及び昏睡状態を引き起こす。致死性。

▼ケマンソウ
葉と根、大量の場合は死に至る。

▼キンポウゲ
草部全てが、消化器管系統を激しく損傷しうる。

▼シチヘンゲ
未熟実が肺、腎臓、心臓及び神経中枢に作用を及ぼす。致死性。

▼ホタルブクロ
草部全てが脈搏低下、嘔吐、及びショックを引き起こす。致死性。

▼トウゴマ（ヒマ）
嘔吐、カッケ、意識の混濁、昏睡を引き起こす。リシンを含む。致死性。

▼セイヨウキョウチクトウ
草部全てが毒性。心臓を襲う。致死性。

▼サクラ
細枝及び葉。食した場合、シアン化合物を発生する。数分以内に呼吸困難、興奮状態、意識喪失となる。致死性。

▼タイフンセンダン
実を通じて、神経中枢に作用する。中毒性。

▼ダフネ
実が小児を死に至らしめる。

▼シロガスリソウ
草部全てが舌と口内に炎症としびれをもたらす。飲みこんだ場合、喉につかえ、死ぬこともある。（条件によっては致死性）

▼アメリカニワトコ
実以外の全草部が嘔吐と消化不良を引き起こす。

▼タロイモ
シロガスリソウの項を見よ。

▼ジギタリス（キツネノテブクロ）
葉が心臓を刺激する。血行障害と精神錯乱を引き起こす。場合によっては死に至る。

▼キングサリ
豆類のようなさや状の種が、めまい、けいれん、昏睡を引き起こす。死に至る場合もある。

▼ヒヤシンス
球根が嘔吐とカッケを起こす。極度の消耗で死に至る場合もある。

▼トコン
乾燥させた根は強力な催吐剤であると共に鎮静剤でもある。

▼アヤメ
茎が、死には至らないが激しい消化器障害を引き起こす。

▼テンナンショウ
根がショウ酸カルシウムの結晶を含んでおり、激しい炎症を口内と舌にもたらす。

▼ウルシノキ
神経系統を興奮させ、ひきつけを起こし昏睡に陥る。

▼ジャスミン
実が神経中枢と消化器に深刻な異常をもたらす。致死性。

▼トウアスギ
種に含まれた毒が、皮下に定着。致死性。

▼ランタナ
シチヘンゲの項を見よ。

▼ヒエンソウ
種と若木が神経中枢と消化器に激しい異常をもたらす。場合によっては死に至る。

▼ゲッケイジュ
アザリアの項を見よ。

▼ポドヒルム
根は16種類の毒性物質を含む。果実が下痢を引き起こすことがある。

▼ヤドリギ
実。致死性。

▼スイセン
ヒヤシンスの項を見よ。

▼イヌホオズキ
未熟実が神経中枢と消化器に激しい不調をもたらす。致死性。

▼ストリキニーネノキ
種が痙攣を引き起こす。ストリキニーネとブルシン（毒性アルカロイド）を含有。

▼オーク
幼葉と果実が腎臓に作用する。症状は数日、あるいは数週間の後にあらわれる。痛みと不快感。

▼キョウチクトウ
葉と小枝が消化器の異常をもたらし、心臓発作を引き起こす。致死性。非常に激しい毒性。

▼ポインセチア
葉。致死性。（一枚の葉で小児を殺し得る）

▼ヨウシュチョウセンアサガオ
草部全てがトロピン系アルカロイドを含み、意識の混濁を引き起こす。致死性。

▼コウモリカズラ
実。致死性。

▼トリカブト
根が消化不良と神経の興奮を引き起こす。







LESSON 24: A LIST OF PLANT POISONS

Autumn Crocus: The bulbs cause vomiting and nervous excitement.
Azaleas: All parts produce nausea, vomiting, depression, respiratory distress, prostation and coma. Fatal.
Be Still Tree: All parts produce lower blood pulse, vomiting and shock. Fatal.
Bleeding Hearts: Foliage and roots, fatal in large amounts.
Buttercups: All parts may severely injure the digestive system.
Camara: Green berries affects lungs, kidneys, heart and nervous system. Fatal.
Campanilla: Be Still Tree (q.v.).
Camotillo: Deadly Toxic (solanine)
Castor Beans: Produces vomiting, purgation, delirium and coma. Contains ricin. Fatal.
Common Oleander: All parts toxic, attacks heart. Fatal.
Cherries: Wild and domestic twigs and foliage. Releasees cyanide when eaten. Shortness of breath, excitement and fainting within minutes. Fatal.
China Berry Tree: Attacks nervous system via fruit. Narcotic.
China Tree: China Berry Tree (q.v.)
Crab's Eye: Seeds, subcutaneous emplacement. Fatal (4 hrs)
Crow Fig: Seed produce convulsions. Contains strychnine and brucine
Daphne: Berries have killed children. Fatal.
Diefenbachia: All parts produce burning and irritation to tongue and mouth. Swollen tongue may block throat death can occur. (Under circumstances, fatal)
Divine Mushroom: Produces hyper sensitivity, hallucinations and melancholia for several hours. Deliriant.
Dutchman's Breeches: Bleeding Hearts (q.v.)
Dumb Cane: Diefenbachia (q.v.)
East Indian Snakewood: Produces convulsions. Contains strychnine and brucine. (Death possible due to exhaustion)
Elderberry: All parts except berry produce vomiting and digestive distress.
Elephant Ear: Diefenbachia (q.v.)
False Upas Tree: All parts produce convulsions. Contains strychnine and brucine. (Death possible due to exhaustion)
Fish Poison Tree: Excites nervous system, causes spasms followed by deep sleep. Contains piscidine.
Foxglove: Leaves stimulate the heart. Contains digitalis. Produces circulation disorder and confusion; maybe fatal.
Gabon Arrow Poison: Produces incapacitation through vomiting and purgation. Contains strophanthin and incine.
Gloriosa Superba: All parts contain narcotic superbine and deadly poison colchicine (fatal dose 3 grains).
Golden Chain: Bean-like seed capsules induce staggering, convulsions, and coma. May be fatal.
Guiana Poison Tree: Curare taken from bark. Contains curare, strychnine and brucine. Produces respiratory collapse. Fatal. (1 hr.)
Hyacinth: Bulbs produce vomiting and purgation. Exhaustion may be fatal.
Ipecacuanha: Root is powerful emetic also depressant.
Iris: Stems cause severe but not fatal digestive distress.
Jack-in-the-Pulpit: Roots contain crystals of calcium oxalate that cause intense irritation to mouth and tongue. (Similar to dumbcane)
Jamaican Dogwood: Fish Poison Tree (q.v.)
Jasmine: The berries produce severe nervous and digestive upset. Fatal.
Jequiritz Bean: Crab's Eye (q.v.)
Jimson Weed: All parts cause delirium. Has proven fatal.
Kachita: Crow Fig (q.v.)
Lantana: Camara (q.v.)
Larkspur: Seeds and young plants produce severe nervous and digestive upset. May be fatal.
Laurels: Azaleas (q.v.)
Mayapple: Roots contain 16 active toxic substances. Fruit may cause diarrhea.
Mexican Tuber: Camotillo (q.v.)
Mistletoe: Berries. Fatal.
Monkshood: Roots produce digestive upset and nervous excitement.
Moonseed: Berries. May be fatal.
Narcissus: Hyacinth (q.v.)
Nightshade: Unripe berries produce intense digestive and nervous upset. Fatal.
Nux Vomica Tree: Crow Fig (q.v.)
Oaks: Foliage and acorns affect kidneys; symptoms delayed days or weeks. Pain and discomfort.

オクトリカブトの根はアイヌの矢毒の原料。

▼ドクニンジン
草部全て及び実。古代ギリシャでは、このエキスを死刑に用いた。致死性。(ソクラテスはこの毒によって処刑された)

▼アメリカツタウルシ
乳液状の樹液は皮フを刺激する。

▼ジャガイモ
つると幼芽が消化器と神経中枢の激しい異常をもたらす。毒性アルカロイド含有。

▼モクゲンジ
タイワンセンダンの項を見よ。

▼コウオウカ
シチヘンゲの項を見よ。

▼ダイオウ
葉茎がケイレンを引き起こし、昏睡状態に陥らす。致死性。

▼オオアマナ
球根が嘔吐と神経の興奮をもたらす。

▼トマト
つると幼葉が消化器と神経の異常を引き起こす。毒性アルカロイド含有。

▼ウパス
樹皮からとれる乳液は、カッケ、嘔吐及び麻痺状態を引き起こす。マレーシアでは矢毒として用いる。致死性。

▼ドクゼリ
草部全てに猛毒成分を含み、神経中枢に作用して、よだれをたらし、痙攣を起こして呼吸困難となり死に至る。ドクゼリの死亡例は数多くある。致死性。

▼フジ
種とさやが消化不良を引き起こす。

▼イチイ
幼芽。何の前症状もなく死ぬ。致死性。

Oleander: Leaves and branches produce digestive upset and induce heart atacks. Fatal. Extremely poisonous.
Ololiuqui: Jimson Weed (q.v.)
Poinsettia: Leaves. Fatal. (One leaf will kill a child)
Poison Hemlock: All parts. Used as an executionary plant in ancient times. Fatal.
Poison Ivy: Milky sap is skin irritant. Contains toxicodendrol.
Poison Nut: Crow Fig (q.v.)
Poison Tanghin: Causes vomiting purgation and paralysis a.k.a. Ordeal Tree for obvious reasons. Contains cerberin and tanghinine. May be fatal.
Potato: Vines and foliage produce severe digestive and nervous disorder. Contains alkaloid poisons.
Pride of India: China Berry Tree (q.v.)
Psychic Nut: Raw seeds produce violent purgation; death caused by exhaustion.
Red Sage: Camara (q.v.)
Rhubarb: Leaf blade produces convulsions followed by coma. Fatal. (large amounts, raw or cooked)
Rosary Pea: A single pea has caused death. Castor Bean (q.v.)
St. Ignatius' Bean: Produces convulsions. Contains brucine.
Star of Bethlehem: Bulbs cause vomiting and nervous excitement.
Thorne Apple: Jimson Weed (q.v.) Common cause of poisoning.
Tomato: Vines and foliage produce digestive upset and nervous disorder. Related to Nightshade (q.v.). Contains alkaloid poisons.
Trailing Poison Oak: Poison Ivy (q.v.)
Upas Tree: Milky sap produces vomiting purgation and paralysis. Contains antiarin and used as arrow poison (Malaya). Fatal.
Water Hemlock: All parts produce violent and painful convulsions Many have died from Water Hemlock poisoning. Fatal.
White Wooly Kombe Bean: Gabon Arrow Poison (q.v.)
Wisteria: Seeds, pods produce digestive upset.
Yellow Oleander: Be Still Tree (q.v.)
Yew: Foliage. Death occurs without any preliminary symptoms. Fatal.

陸上自衛隊市ヶ谷駐屯地

て申し上げるということは私個人としてはできかねるというふうにお答えするしかございません。

〈中略〉

Q　多少のニュアンスが違う（個人と組織の）とさきほどおっしゃってましたけど、できたら詳しく聞きたいんですが。

A　ま、一般的な知識ですからね、小耳にはさんだことであり聞く人によっても違ってきますし誰々がこういったというのではございませんので、業務実施の上て、ひとりの自衛隊員の考え方がこういうふうなもので、日常の業務というか任務にあたっておるという理解の参考程度に収めていただければね、これが某部隊の誰々がこういったとなると別問題ですけれど、多少のニュアンスの違い関連はその許容の範囲内に入り個人的にこういっているということではございませんので、ハイ。

Q　自衛隊員のすべての人間が組織を背負っているという状況であなたのおっしゃった事も組織を背負っている立場からのものとして聞いているんですよ。

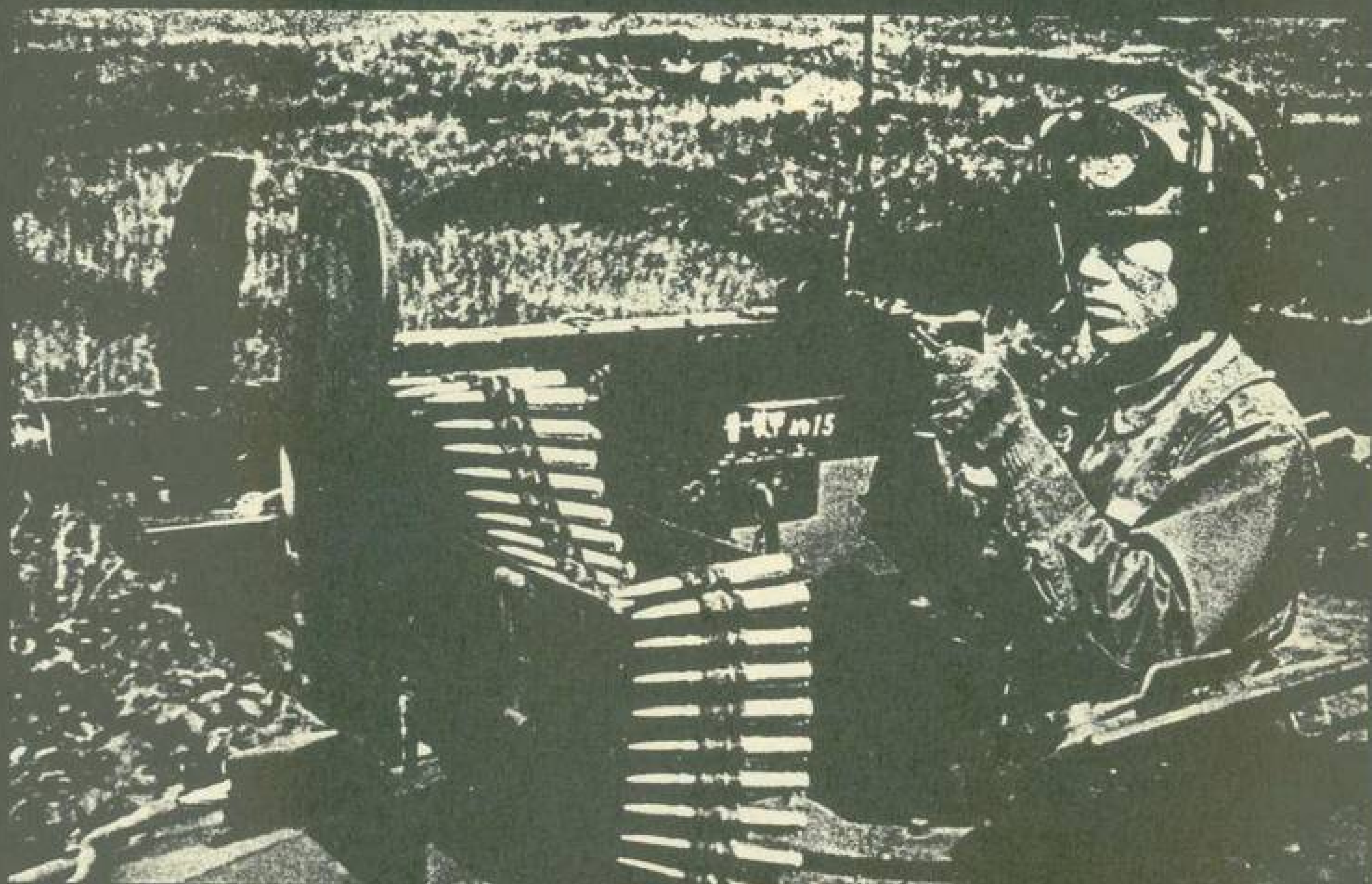
A　そういう背景はありますけど、あくまで組織の一員として公的に申し上げたわけではないんですからね。

Q　だからですね、できれば今のような立場じゃなくてもいいんですよ。特にあなたの個人名を事前に出すようなことはいたしませんので……

A　いずれにしてもそういう場面においては御要望に応じかねますので、公的な立場ではなく、あなたとちょっとお話をしている、個人の考え方としてそのように申しあげたんです。ニュアンスの違いというのは聞く人や知識の種類によって違ってきますからね。個人のフィルターにかかりますからね。

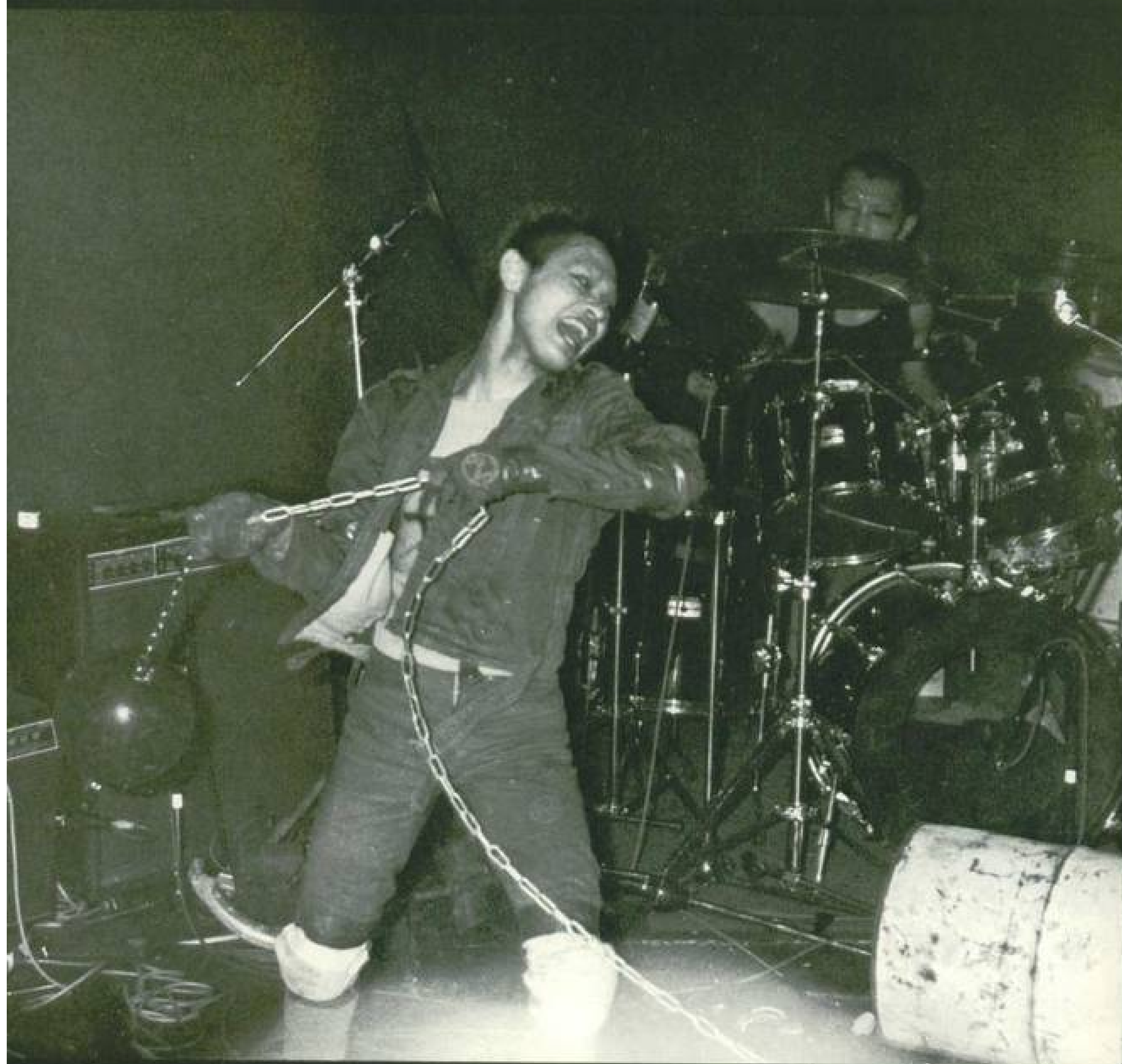
Q　ただ、それは雑誌においても同じなわけで同じ事をとり扱ってもね、そちらがいってることを、それがすべて同じニュアンスで必ずしも理解されるとは限らないわけですよね。

A　それはそうですね。それぞれ、人の、或いは組織のフィルターをかけて新たな活字になって出るとかね、何かに出る時はそういうものは出ますからね。ま、そのようなことですので、ハイ、ハイ、ごめんください。



HANATARASHI

PHOTO by GIN SATO



PAUL McCARTHY

Photos: JOHN DUNCAN



PENIS PAINTING
AT AMERICAN HOTEL
L.A. 1980



BABY
AT AL'S BAR
L.A. 1982

非常階段

PHOTO by GIN SATO



JOE POTTS



61



62



63



76

77



147



148





160

161

JOE POTTS



Fig. 6-2. A patterned bruise caused by a tire. (See Color Plate.)

Fig. 6-2. A patterned bruise caused by a tire



鈍器で打たれた死体
車のタイヤのあとのついているもの。

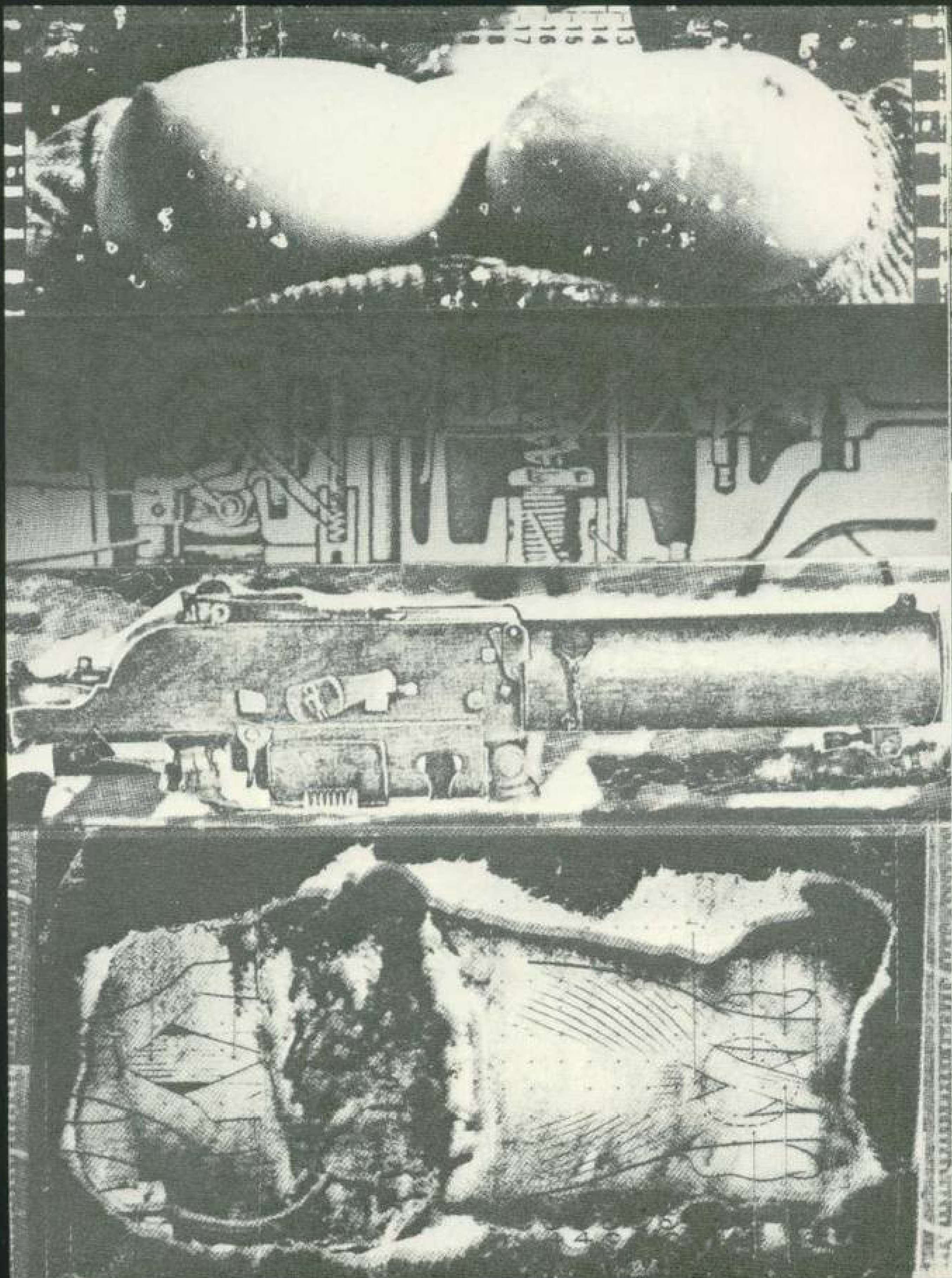


Fig. 6-5. Blunt force injuries (lacerations) of the scalp. Note the shaving of the head postmortem.

強い力による傷害
強い力による頭蓋骨の傷害(切裂)。死後頭のそってある事に注意。

FUTUROPOLIS

©1984 by FUTULOPOLIS



KMX

に肩代してしまっているから、このケースの場合は係員としては責任能力無しということになっている。だがそう世間も甘くはない。自殺を、極端な心、精神異常者の行為と規定してしまおう、という動きがみえ、しかも精神異常者の犯罪（最近な例ではポンポン出てきているから、「精神に異常をきたした」とされる自殺者に、この条項が適用されるのも、もはや時間の問題かもしれない。

現在、自殺者にとって最大の不安は、死に損ってしまったら…である。そのためにより確実な死に至る方法を彼らは探しもとめている。現代科学の進歩が自殺という恥ずべき自由を彼らから奪おうとしている以上、どうしたって死に損った時の事は頭に入れておく必要があるのだ。

派手な死に方がいちばん確実な方法でもないのだから、用心の為にちゃんとノイローゼか何かの診断書を保存しておいてよき市民として賠償責任保険にも加入しておくべきであろう。

■赤字に悩む政府当局に耳寄りなニュースだ。**自殺未遂の者には健康保険を適用しない**という罰則を設けてはどうか。遭難したアルピニストや登山者に罰則を適用しないというのもおかしな話だ。彼らだって自殺者と同じように不幸を「**自ら求めている**」ではないか。健康保険法には「被保険者の故意の過失による病気、怪我、健康状態は保険の対象とはならない」とあるのだ。実際問題としてこれは可能なのかどうか？

ある外国の判例はこう説明している。「自分から死のうと思いながら未遂に終った場合は故意の過失なのだから〈保険を〉適用する必要などない。もし異議があるのなら法医学鑑定を行う」。だが安心したまえ。社会保険の専門家の対応は明確だ。

自殺未遂の後遺症に悩む被保険者に対して、自殺したときの意識状態などを調査することなどありえない〈ただ注意すべきは、彼らは自殺が心神喪失の状態で行われるのだ、という分析に対しては二く念回しに反対している〉。

(2)精神異常による自殺は高級な観念か？

ここ最近のある外国の判例。事件は17歳の少年（精神病の徴候なし）が父親に叱られた事をふっけて嫌として、猟銃を持ち出して胸にピストルを撃ちこんだ。一命をとりとめたが、彼は身体障害者になった…。

裁判所はこう述べた。

『…自殺の試みは少年がパニックに陥って判断力を失い、死の本能に強く突き動かされた結果であり、あらかじめ損害を予測するのは不可能だった。』為にもっかぬ言葉の遊びに**裁判官の善意**が透けてみえるような判決だ。ここで普通に納得してしまってはいけない。妙ではないか。**故意の過失**とは意図的に自分を傷つけることのはずではないか。この少年は自分を傷つけようとも思わずに自分を傷つけてしまったのだろうか。この判決を理解するには今年最大の流行語ともいえる「生命保険会社」の契約を参考にしてみるとよい。

「被保険者の故意の過失とは自分を意図的に傷つけることではない。保険金を受け取るために損害を引き起こし危険をおかすことである。本人の意図は保険会社を対象としたものでなくてはならない」実に皮肉な話である。かの人物には耳が痛いような…。

(3)計算ずくの死―人は死して保険金を残す？

「自殺しようと思うなんて病気としか考えられない。病気と言えば聞、手当てであり補償だ」これは世間の一般通念といってもよい。だれもそこから出ようとしない。だがいつまでもこうだとは限らない。死を合法化しようとする管理社会のルツボの中で、「儲けてもいい」計算ずくの死のために何も特別な保護など加えなくてもいい、と言いだす輩はきっとそのうち現われるのだ。実際、健康保険は自殺とためにずいぶん金を使っている。ヨーロッパのある共産主義国では、自殺の試みの⅓は薬物中毒によるものである。医者は高数精ききになんでも処方してくれるおかげで、薬局のひきだしには睡眠薬だの幻覚剤だのではちきれんばかり。健康保険とは、つまり自宅における自殺のために、精力的な活動を続けているのである。

自殺に係る死亡は法的に保険金の支払いを認めない。だが、仮に意図的な自殺に対する特約条項を設けたとしたら…自殺に対して保険金の支払いが完全に認められたらこの人はまさに死して保険金を残すのだ。この場合、保険会社は自殺を証明せねばならないが、官吏や医師が死因を七つて証明する立場の保険会社にとっては自殺を否定したいところ。だが、また奥の手が残っている。

自殺者の無意識を、つまり自殺が意図的でないことを証明すれば特約金は払わなくて済むわけだ（実際にこの法の認められている国があるのだ）。裁判官は自殺者の心理を克明に迫ってみることになる（まるで文学的情熱につかれた青年のように）「**生の本能よりも強い死の衝動に駆られ、情熱、病気、精神的苦悩など自制心を失い、苦しみよりは死を選んだ**」場合は、無意識と認められるのである。そのうえ保険会社は遺族を侮しにかかる。自殺目当てに契約したのではないか。と。すると保険金が降りるのは例外中の例外である。「自殺」を「自然死」である、と袖の下（ワイロ）ひとつでニセの診断書を書くような医者はいくらでも出てくるであろう。将来、日本にもそんな状況は訪れるかもしれないのだ。

●死ぬ権利

人目を忍んで孤独に準備しても確実に死ねるとは限らない自殺以外に、老衰から逃れる手だてがないのだとしたら、どうして人間は自由であり自己の運命の主人であるなどと大きな顔をしていられようか。養老院という、老人達の最後のねぐらを一度見学に行きたまえ。**過去を反芻しながら死ぬのをじっと待つのは嫌だと思っている諸君よ**。われわれの文明の恐るべきビジョンが、人間の尊厳に対する侮辱が、精神異常者の見るも無残な姿が君らを待ち受けているのだ。

死ぬ自由に異議を唱えるのも結構だが、その前にもっとよく考えてほしいものだ。たとえば昏睡状態に陥ってまでも最後まで生きたいと願うのなら、当然その権利は保障されるべきだ。そのために元気なうちから対策を講じておくことも、難しくはない。そうしたら生きる喜びも、敢えて**そこまで生にしがみつく自由**も、恥さらしのいまわの際の苦しみによって、たとえ本人は意識不明になっても十分に報われることだろう。

安楽死の概念である。安楽死とは、威厳をもって意識がはっきりしたまま、安楽に、そして二の人生から離れて向う側へと滑りこんでいくことにつきまとう不安以外にはなんの苦しみも味わずに死んでいく権利」のことだ。今日ではこの「死ぬ権利」が強く要請されている。現代―人間の寿命は最後の荒廃に至るまでどこまでも延長されることが可能なのだから、安楽死を望む者に、これを与えようとするのが何故、罪であり罰であると言いされるだろうか。誰もそんなことはできないはずだ。社会の組織や、われわれ自身の死に対する偏見をのぞいては。

■自己解放の活動家たち

「安楽死」を人間に与えられた数少ない自由のうちのひとつであると考え、これを、社会的に認識させようという活動家は世界各国にいる。独自の組織形態をとって積極的にその活動を展開している。

(1)フランス…「尊厳死の権利擁護協会」

一九七九年設立。薬や医療技術、人工的手段で一命をとりとめるのを頑に拒否する段階から、「受動的安楽死」へ、そして「積極的安楽死」〈の到達を究極の目的としている。初代議長、ミシェル・リー・ランダは「自己解放の手引」〈自殺という言葉はどうしても悲劇と絶望のイメージがつきまとうので自己解放と呼称しているか〉を発行することを思い立った。死の手引書である。苦痛をできるだけ少なくして死ねるような薬のリストも載っている「自己の人格、肉体、生命を自由にするという社会的法的権利。とりわけ自己の人生に終止符を打つタイミングとその手段を自由に合法的に選ぶ権利を確立すること」を目的とする。

(2)イギリス…エクジット（EXIT）の名で知られるが、最近になってもとの名である『The Voluntary Euthanasia Society』（**自由意志による安楽死協会**）というふう呼称はれだしている。安楽死擁護の団体としては最も古く一九三五年に設立された。中心人物は、ニコラ・リードという社会的にもジャーナリズムにも顔のきく辣腕家であった。

「威厳をもった死」を理想とする。彼らの団体もまた、手引書の作成を行った。いわば自殺の…ガイドブックである。自殺幇助と共謀の罪（つまり対象に死を勧めアドバイスし死に至らしめたということ）に程度が問われている。ガイドブックのタイトルは『A guide to self deliverance』（自己解放の手引）と名づけられた。

一、鎮痛剤とビニール袋による窒息

二、中毒するほどの大量の薬と自動車の排気ガスによる中毒

三、鎮痛剤と異常低温症（長時間冷水につかる）

四、鎮痛剤と溺死

以上四項目を安楽な死の方法論として挙げている。苦痛と恐怖だけが占める死を彼らは威厳ある死とは呼ばないのであろう。このガイドを手に入れるための条件は3ヶ月以上エクジットの会員であり二十五歳以上の成人であり、この本からコピーを作ろうとしたり誰かに読ませようとしたりしないと約束できる者である。だが心配されていたことは起こるべくして起こっている。一九八一年八月、ロンドンの有名なホテルでエクジットの会員が自殺したが、彼がわずか二十三歳の時に手に入れたこの本が、その時も目立つ所に置かれていたのである。だがエクジットは強気だ。「司法が彼らの責任者を追求することは、まず考えられない」と言っている。

(3)オランダ…「自由意志による安楽死オランダ協会」一九七三年、アムステルダムで結成。10Pほどの小冊子「**医学関係者のために**」を刊行。麻酔科医アトミラール博士を中心にして書かれたこの本は、ベスペラツクス〈バルビアール系の睡眠薬〉が、自己破壊の方法」として推奨されている。が、これは司法調査の対象となってしまった。

「**自殺行為に協力するか、その行為に必要な手段を提供することによって他人の自殺を意図的に扇動する**」〈行為にあたるということである。組織の中心人物シプランディ夫人が、「わたしは不治の病に冒されている人たちに人間としての尊厳をもって死んでもらう方法を提供しただけだ」と力説したため検察側はついに証拠不十分で捜査を打ちきらねばならなかったということだが、この一件をキッカケに活動は停滞してしま

JOE POTTS

DEATH (The New VIEW)
by Joe Potts

We used to have a really nice portable stereo cassette player. It was a Panasonic. That Panasonic was really neat because it was a small "ghetto blaster", but it had a switch you could flip to get that enhanced stereo sound. The small size of that player made it quite portable, and as a result we used it alot. We got into the habit of leaving it in the bathroom and listened to the FM radio on it while we got ready for work in the mornings, and took a shower before bed. Then one day, out of the blue, I put Prince's "Purple Rain" cassette into it and it sped up and then slowed back down. We were worried because we hated to lose that cassette player. I cleaned the heads on it but that the capstan needed to be lubricated because of all of the steam in the bathroom. But in retrospect, I figure that the tape transport mechanism just needed to be cleaned really well.

Without the cassette playing capability somehow that Panasonic just didn't seem quite as exciting. I started to take it into the garage and listen to the radio while I was working on projects. Naturally, when my hands were dirty, the outside case would get more and more soiled. Soon it became an outside radio. We took the Panasonic out in the patio when we were sitting or working in the yard. The radio part of it sounded good and I thought some day I would sit down and really figure out how to get the cassette functioning again.

One evening our friend came over. We were working in our yard and wanted to finish up before going out with her. She was about to trade in her Nissan Sentra on a Dodge minivan. She asked to use our vacuum cleaner to clean out her car before she turned it in the next morning. I brought out the vacuum and a 25 foot cord. After plugging the vacuum into the extension cord, I ran the extension into the garage and plugged it in. The most easily accessable outlet was in a multiple outlet extension cord on top of the refrigerator. The other appliance plugged into the multiple was the cassette player. After our friend had finished vacuuming the car, I walked into the garage and saw the cassette player lying on the concrete floor. Apparently in using the vacuum, our friend pulled on the extension cord, dragging the multiple outlet and subsequently the cassette player off the top of the refrigerator.

I looked at the player and it seemed that the case was alright except for a crack where the electrical cable attaches to it. When I plugged it in, though, nothing happened. The lights on the front stayed dark and no noises could be heard. Later on I took the cover off and could see that the corner of the circuit board had been snapped off. I decided that there was no way I could fix it since I couldn't even find all the pieces of the circuit board. It took me quite a while to get around to telling anyone what had happened. When we finally accepted the fact that our Panasonic was really gone we went shopping for a replacement. Now we have an even smaller cassette player that sounds just as good and in addition has high speed dubbing capabilities. This doesn't mean that I don't still look at the old Panasonic that is still on top of the refrigerator and wonder if maybe there might be some way to resurrect it. But until that day we can still hear the same tapes and listen to the same radio stations on our new red Panasonic cassette player.

It might seem to you that this is a sad story. The faithful servant ceases to live up to his demand and must be replaced by a bright energetic newcomer. Such is the progression of life from old to new. But actually I view this occurence as an opportunity to explore the "new vision" of the Universe. You are familiar with the "new view" of the universe, aren't you? This is the philosophy put forth by Fritjof Capra, for one, which takes the ideas of twentieth century physics and instead of applying them to sub atomic particles turns them loose on contemporary society. "In the new view, most of the world's crises, and man's inability to cope with them stems from . . . the fact that we are trying to apply the concepts of an outdated world view, the mechanistic world view of Cartesian-Newtonian science to a reality that can no longer be understood in terms of these concepts." – Fritjof Capra.

The Cartesian world view (derived from its creator philosopher Rene Descartes) conceptualizes the universe are a piece of machinery. The Cartesian universe operates according to mechanical laws explainable in terms of the movement of individual parts. What Descartes philosophized, Sir Isaac Newton set out to prove mathematically. Newton's universe was three dimensional, existing in an absolute space, unrelated to any of the events occurring within it. All of the changes with this space were described using the element of time which is viewed as existing apart from the material world and which flowed on a contiguous linear track from past, through present and off into the future.

Modern physicists in their studies of the atom found occurrences which could not be explained in terms of the Cartesian-Newtonian universe. Their studies led them to a world view which was different from Newton's and which could be best understood by using the example of the hologram. A hologram is a three dimensional photograph produced with a laser beam. In holography, the photographic film on which the patterns of light waves are captured looks like a bunch of fine wavy lines. When light is projected through this film a three dimensional representation of the original may be seen. If a small portion of the hologram is cut off from the original and light is projected through it the complete image appears. The larger the piece of the original hologram, the clearer and more detailed the representation.

The example of the hologram was applied by scientists to serve as a model of the universe which they had discovered within the atom. Just as every part of the hologram contains the same image, some physicists believe that each particle with in an atom in connected to every other particle in every other atom. Philosophers of the new view go on to apply this to man and his environment.

If we apply the new view to our recent cassette player disaster, we can turn it from a crushing loss into a reaffirmation of its immortality. First let's see what we know about cassette recorders in the new view of the world.

1. The cassette player is not an object nor can it be localized in space.

2. The cassette player is connected to the universe and encodes. It exchanges with all other cassette players. These exchanges are physical.

3. Sound waves and magnetic impulses cannot be isolated as individual units, which are the basis of the cassette player's existence. They can only be viewed in relation to all other cassette players in the universe.

4. New and old have no meaning; there are no demarcations in time.

5. Time does not move in a forward progression. No experiment has ever detected the flow of time.

6. Events in time merely exist. It is their asymmetrical apperance that makes them seem part of a progression.

7. There are no absolutes. Everything is relative, including the cassette player.

The destruction of the cassette player is not final nor is it absolute, because the sound waves and magnetic impulses from which it is constructed are not absolute but coexistent with all other radios and tape players in the universe.

The cassette exists as a receiver and a translater of radio and magnetic impulses. In the world of positive and negative charges, no demarcations in time exist. There is a flowing world of wave information "out there". As our cassette travels the course of its life with us, it receives a select amount of this available energy and relates it to us. What is the difference if the cassette player is new or old? How does the begining and ending of our cassette player's life affect the constant flow of information through radio waves and magnetic tape? What is of importance to us is that we are able to hear the sounds which radiate across the universe on tape and on the radio waves. When we shut off our cassette player at night and tuck ourselves into bed we are so confident that while we sleep, the radio waves are still "out there" and the music is still in our cassettes.

When our first Panasonic cassette player was shed on our garage floor, we were certain that as soon as we could afford a new one we would be able to hear those impulses once again. The qualities which the new cassette player possesses are quite similar to those of the old one. Both tape players have stereo capabilities for playback and record, and AM and FM radio receivers. In fact these same qualities are shared by millions of other cassette players all over the world, whether broken or functioning. Ours is not one lonely tape player filling the universe with sounds. Ours is but a tiny part of a whole network of sound machines. Machines which go on through days and nights broadcasting and receiving, creating and translating sound into impulses and impulses into sound. That is why we are not sad about our cassette player. We have come to see that our tape player is not really just a smashed up hunk of plastic and integrated circuits occupying space on top of the refrigerator. In the new view of the Universe, our tape player is an expression of communication itself.

